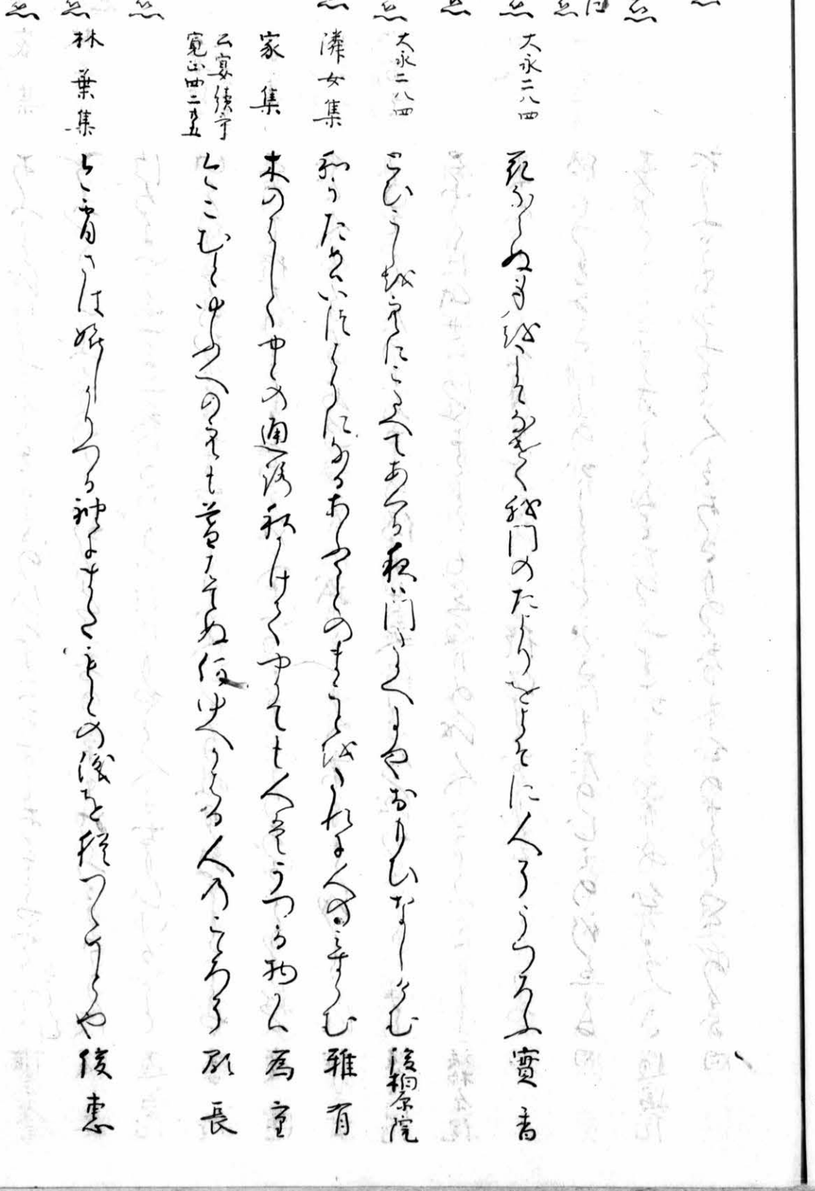

恋

544
ル
9

不言戀
未言出戀
欲言戀
難言出戀
不言在所戀
言知戀
詞和戀
言出後悔戀
忍涙戀
契忍戀
互忍久戀
忍人目戀
忍通心戀

未言戀
不言思戀
欲言出戀
観身不言戀
言出戀
言初後増戀
和詞
莫問胸中事
忍経年戀
共忍戀
忍人戀
忍親眼戀
猒忍戀

忍不言戀
いはておもふ
欲出言戀
観身不言出戀
初言戀
初言出戀
未通詞戀
初忍戀
朝忍戀
互忍戀
為人忍戀
知身忍戀
難忍戀

不言出戀
乍思不言戀
欲出詞戀
不浅思戀
言始戀
詞出戀
悦芳言戀
久忍戀
暮忍戀
相互忍戀
嫌人忍戀
忍心中戀
忍切戀

九州大學圖書

九州大學圖書館
24. 7. 13
184056

依忍久恋
忍惑恋
忍絶恋
不聞恋
聞久恋
立聞音恋
初聞名恋
聞談与人恋
未對面恋
夕見恋
絶見恋
見彼跡恋
よそにて人をまちてふみを見手詞恋
乍見隠恋

忍似跡恋
隔河忍恋
忍談
聞恋
久聞恋
聞音恋
遠聞恋
聞詞恐恋
未見恋
見忍恋
時々見恋
路頭見恋
稀見恋

堪忍恋
忍故郷恋
誰識相念心
初聞恋
傳聞恋
聞聲忍恋
聞恋我恋
聞琴弾恋
不見恋
且見恋
近見恋
見人恋
見後手恋
見獨寝恋

共忍恋
忍忘恋
久忍絶恋
時々聞恋
立聞恋
聞名恋
城外聞恋
なりしよ常にきく恋
初見恋
僅見恋
見ましいつめ恋
人をみるこ婦
隠見恋
夢見恋

夢中見恋
蔵書恋
忍通書恋
忍傳書恋
見書慰恋
返書恋
帰無書恋
待返事恋
初見返事恋
失返事恋
三年不見書
聞名尋恋
忍尋縁恋
尋暮恋

向地恋
遣書恋
未通書恋
送書待恋
不見書恋
被返書恋
返無書恋
待返書恋
無返札恋
不返事恋
十書九不達
忘名難尋恋
初尋縁恋
暮尋恋

恋書
通書恋
不通書恋
見書恋
不見文恋
見偽書慰恋
商見人付文恋とかゝるを
度々返文恋
無返報恋
遠女札得恋
かゝ総ゝあへかゝる恋
祈尋恋
尋取縁恋
夜尋恋

遠文恋
初通書恋
輙不通書恋
忍見書恋
留書報言恋
別無書恋
見返事無字思恋を
度々返事
落返事恋
久待無消息
尋恋
尋縁恋
見尋恋
不尋得恋

遠尋恋
尋傍人恋
初祈恋
夜祈恋
互祈請恋
祈難逢恋
祈空恋
杜頭祈恋
憑示現恋
誓容色恋
互精進恋
称物恋恋
尋契恋
共契恋

尋山家人恋
尋室恋
初祈請恋
忍祈恋
祈身戀
祈不逢恋
祈難恋
祈佛恋
蒙示現恋
責誓言恋
精進憚戀
戀契
人傳契恋
契後恋

尋恥恋
尋失恋
祈請恋
久祈恋
依恋祈身
祈経年恋
祈神恋
詣古寺祈恋
誓恋
精進間恋
精進間恋
初契恋
契言恋
契久恋

尋左恥恋
尋失婦恋
致祈禱恋
祈久恋
祈命恋
老後祈恋
祈神不逢恋
念願恋
誓言
誓思絶戀
精進中恋
忍契戀
互契恋
契後久恋

成契久恋
朝契恋
契明日恋（秋を）
契暮愁恋
契花有障恋
途中契恋
憂契恋
契後世恋
契他生恋
契後隠恋
ひさしかれとちきる恋
契女人恋
秘よ契りてかへぬる恋
一所恋

契春秋恋
契晝恋
契夕恋
契今夜恋
憑契恋
契違約恋
遠契恋
契来世恋
契顕恋
契後隠在所恋
契絶恋
幼年契恋
馴恋
憑恋

契暁友恋
ひるとちきる恋
夕契恋
契明夜恋
誓言契恋
契不来恋
逢後契恋
契二世恋
契後顕恋
契空恋
契後絶恋
老後契恋
馴難恋
不憑恋

契暁恋
契日中恋
契明夕恋
毎夜契恋
契誓言恋
雖契不来恋
悔前世契恋
二世とちきる恋
契隠恋
契送年恋
夢中契恋
秘よ契る人よちきる恋
船中馴恋
不頼恋

難憑恋
憑誓恋
毎夜憑恋
託恋
互疑恋
真偽何由識
疑行末恋
不値恋
依忍難逢恋
見不逢恋
すゝいて不逢恋
労不逢恋
偽不逢恋
来不會恋

憑偽恋
憑誓言恋
憑明後日恋
推量恋
相互疑恋
空疑恋
疑住所恋
尋不遇恋
難逢恋
雖見不逢恋
詒和不會恋
契不遇恋
違不逢恋
くれらと不遇

憑詞恋
憑媒恋
憑不来恋
疑恋
疑負恋
歎空疑恋
未遇恋
互尋不逢恋
近不會
馴不逢恋
詞和不逢恋
憑不逢恋
誓不會恋
稀来不逢恋

憑深言恋
憑明夜恋
憑人妻恋
疑契恋
疑真偽恋
成疑心恋
不會恋
忍難逢恋
近不遇恋
依随不遇恋
咎言不遇恋
憑不遇
行不會恋
通不遇恋

隠不逢恋
並床不逢恋
返近車恋
月夜不来恋
他行時来戀
過門恋
不開門恋
當夜遠約束恋
延約束恋
偽契恋
偽教在所恋
人待恋
手待恋
契待恋

不逢帰恋
久不逢恋
深夜返車恋
苔通不来易
不留恋
過不告恋
立門空歸恋
毎夜遠約恋
延約日恋
悦偽恋
恨偽恋
待人
互忍待恋
待契約恋

隔物不逢恋
恨不逢恋
不来恋
来無實恋
そむきて不留とゝるもと
門おすらふゝる恋
遠約恋
媒違約恋
度々延約日恋
悦偽言恋
怨偽恋
人ぬゆり
不憑待恋
契久待恋

有隣不遇恋
相逢是何日
憑不来恋
来不實恋
夜不留恋
遇門不入恋
遠約来恋
中人遠約恋
偽恋
共偽恋
待人恋
待使恋
送書待之
待憑恋

乍立待恋
待夕恋
毎夕待恋
終夜待恋
毎夜待恋
待遠境恋
待空恋
遣車待恋
俄初逢恋
互契逢恋
祈逢恋
毎月逢恋
及暁遂會恋
夜逢恋

不堪待恋
契夕待恋
待夜深恋
待明夜恋
連夜待恋
稀待恋
待夜空恋
船中待恋
白地逢恋
逢半（本）契恋
久祈逢恋
昨艶今遇
早旦逢戀
一夜逢恋

暁待恋
夕隠西待恋
深夜待恋
夜々待恋
経年待恋
待不来恋
待空明恋
會恋
尋逢恋
不慮會恋
行遇恋
暁會恋
毎晝會恋
初夜逢恋

夕待戀
薄暮待戀
深更待恋
歴夜待恋
橋上待人
待久恋
絶後待恋
俄逢恋
契逢恋
待遇恋
年々會恋
暁遇恋
夕遇恋
夜深逢恋

逢夜有妨恋
逢後恋
辞後會恋
逢後切恋
逢隠名恋
適逢恋
稀會不絶恋
忘逢恋
絶後逢恋
山家逢恋
怨遇人恋
夢逢恋
逢無實恋
無二相語恋

隔一夜逢恋
會後恋
會後忍恋
遇後顕恋
會後隠恋
適會空帰
稀逢絶恋
逢恨恋
みちのをふあふこひ
於山家會恋
卜遇恋
夢中逢恋
臥無實戀
並枕語恋

隔夜逢恋
相逢思恋
逢後契恋
名はへてあふ恋
逢後縦逢恋
邂逅會恋
會不盡恋
中絶後遇恋
逢門恋
嫉會所恋
逢夢恋
相對如夢寐
近不逢恋
隔物談恋

経夜逢恋
隔物逢恋
逢切恋
学他名會恋
積逢恋
時々逢恋
物舊遇恋
絶後會恋
近取逢恋
人遠會恋
夢會恋
羇中會恋
詣恋
夢中談恋

不語終隠恋
逢別恋
忍別恋
手別恋
朝別恋
恨鳥別恋
隔境別恋
別不知恋
帰恋
聞暁鐘欲帰恋
深夜帰恋
見帰恋
送女帰恋
到門返恋

不語終恋
急別恋
厭別恋
惜別恋
深夜別恋
恨別鳥驚心
夏別恋
露應別涙
雨中返恋
朝帰恋
深更帰恋
人を松をきゝ恋
空帰恋
立門空返恋

欲別恋
忩別恋
契別恋
互惜別恋
不通夜別恋
恨別恋
夏中別恋
仍嗟別太頻
忩暁帰恋
朝遅帰恋
秋ふかく人さろく恋
独卧帰恋
経門帰恋
悪通返恋

人をろく恋
忽別恋
契別
惜暁別恋
深更別恋
遠別恋
別後恋
別来歳月周
暁帰恋
且来夕帰恋
来帰恋
夏中被帰恋
門よりて人さろく恋
適来帰恋

曖後帰恋
人さろく恋としのふ
随恋
後朝増恋
後朝恨恋
一会後不合恋
絶不逢恋
欲名恋
惜名恋
不知名恋
改名隠恋
惜人名恋
恥涙恋
通書恥恋

曖後又帰恋
忍帰恋
厭後朝恋
後朝切恋
希逢後朝
初会後不逢恋
何処更相逢
をしき名
惜人名恋
隠名恋
改名厳恋
無実有虚名
涙恥恋
恥疑人恋

曖不帰
返来牧行涙
後朝待書恋
後朝顕恋
山家後朝恋
逢後不通恋
与君後会知何
立云名恋
惜他名逐恋
遍隠名恋
惜名恋
欲恥恋
依涙恥恋
恥要恋

披返恋
追従恋
後朝見書恋
後朝隠恋
逢後難逢恋
別後会難期
立名恋
云名立恋
称他名恋
隠名切恋
不惜名恋
夕恥恋
ちかひありし札て心に恥る恋
恥悔恋

臥後悔恋
増戀
見増恋
月増恋
雨中増恋
秋風増恋
夕増恋
逐夜増恋
見書増恋
遇後増恋
閑居増恋
増涙恋
云切後増恋（少本物之）
切別恋

顕絶恋
依恩増恋
問詞増恋
隨月増恋
依雨増恋
曉増恋
夜増恋
虫声増恋
返事増恋
いとまなくてはさらこし
ゆくしとみてこし松まもて
変後増恋
切恋
聞違切恋

絶臥恋
宇増恋
馴増恋
逐月増恋
爪聲増恋
臨曉増恋
夜長増恋
聞虫声増恋
見返事増恋
ぬれてのちはさらこし
増思恋
物なろかりそ未増恋
戀切
思出切恋

絶後臥恋
問字増恋
馴後増恋
送月増恋
松風増恋
曉露増恋
寒夜増恋
依市増恋
逢増恋
移香増恋
見変増恋
云切後増恋
懇切恋
恨切恋

物踈後切恋
朝厭恋
見形厭恋
依賤被厭恋
亦更厭其身
押涙悔恋
恨後悔恋
ちそてくやむ恋
逐日踈恋
朝変恋
契変恋
契変改恋
月催恋
鴈聲催恋

絶切恋
厭老恋
いやしきはかを
被厭下女恋
悔恋
逢後悔恋
絶後悔恋
侘恋
音信日已踈
夕変恋
変契恋
隔朝変恋
風聲催恋
觸物催恋

厭戀
聞他厭恋
厭賤恋
思後世厭恋
後悔恋
別悔恋
悔厭世恋
踈恋
漸変恋
俄変恋
契変約恋
隔朝変約恋
荒風催恋
恋催舊恋

被厭恋
厭身恋
被厭賤恋
厭恋思後世
互悔恋
恨悔恋
悔離別恋
見被踈恋
被変恋
変約恋
契後変恋
逢後変恋
曉風催恋
恋催懐恋

驚恋
負恋
被妨人恋
恋為後世妨
隠恋
乍在隠恋
隠住所恋
隠文業和歌恋
稀驚恋
會稀歳月急
近恋
隔昆恋
隔三夜恋
隔山恋

時々驚恋
有妨恋
被妨又恋
被嫉妬恋
誓隠恋
教居隠恋
隠家恋
恨隠恋
稀問恋
邂逅恋
隔恋
隔夜恋
隔月恋
隔谷恋

争恋
恋学問妨
被妨親恋
被嫉妬妻
會後隠恋
隠在所恋
隠宅恋
忍稀恋
稀通恋
舊事恋
隔霞恋
隔一夜恋
隔年恋
隔関恋

論恋
被妨客人恋
一會後被妨恋
被怒勘當恋
畄形見隠恋
藏在所恋
不語終隠恋
依忍稀恋
漸稀恋
古恋
隔日来恋
隔二夜恋
隔年序恋
隔関路恋

隔河恋
隔万里恋
隔衣恋
知不知恋
不知人恋
不知在所恋
占恋
片恋
尋常片思
思恋
相互思恋
おもひもつゝぬ
初ハ无て後ハ思恋
夜思

隔海恋
物隔談恋
被知恋
思未知人
不被知人恋
不知居所恋
卜恋
片思恋
かいおもいはぬをつゝむ恋
恋思
思疲恋
きもひよりひよきはゞ恋
くハ无て後ハ无ふ恋
晝夜思恋

隔海路恋
隔物外恋
人よきしゝく
恋不知程
人不被知恋
不知為方
遇むるはいかよ
互片思恋
片思恨
思不定恋
相
相思恋
初昧後思恋
時々思

隔浦恋
すれはへそたつ恋
人よきて歎く恋
不知身程恋
すゝめきてよね恋
心知人不知
問巫女恋
暁片思
思
思煩恋
互思恋
かゝみよ夜
夕思
思昔恋

思二世恋
觸事思出恋
猜凝無限思
忍忘恋
難忘欲恋
恋更不忘恋
被忘恋人
忘身恋
被恨恋
恨心中恋
傳人怨恋
聞怨私恋
聞詞怨恋
情恨恋

思出恋
見家思出恋
欲忘恋
契忘恋
不忘恋
被忘後恋
被忘人恋
恨忘恋
忍恨恋
不言恨恋
人傳恨恋
不来恨恋
披書恨恋
恨経年恋

初逢後思出恋
昔思出恋
忘始恋
易忘恋
恨不忘恋
忘人恋
忘後恋人
恨
乍恨忍恋
恨不言恋
懇恨恋
夜恨恋
見書恨恋
恨久恋

夕思出恋
思出舊女恋
夕忘恋
難忘恋
觸事不忘恋
惜秋忘恋
忘住所恋
恋恨
心中恨恋
恨言恋
立聞怨恋
恨短夜恋
恨憎恋
久恨恋

不誤被怨恋
久恨恋
恨身恋
恨前世恋
逢夢恨恋
欲絶恨恋
怨會他人恋
未絶恋
絶祈恋
恨絶恋
絶久恋
絶悔恋
不忘絶恋
再絶恋

不誤被恨恋
相互恨恋
恨人恋
獨恨恋
觸事恨恋
絶恨恋
依恋怨隣
不絶恋
一夜逢恋
絶恨恋
顕後絶恋
絶互悔恋
不慮絶恋
絶後所見

不談被怨
互有恨恋
怨人恋
恨變契恋
被忘恨恋
絶怨恋
別恨
欲絶恋
變契絶恋
互恨絶恋
絶驚恋
絶不逢恋
絶不知恋
恨身絶恋

聞無實恨恋
共恨恋
恨世恋
夢中恨恋
恨欲絶恋
恨後絶恋
恨夢
互忍絶恋
絶音信恋
絶後恋
絶後驚恋
絶不忘恋
絶経年恋
隣人絶恋

帰無書絶恋
恋日
経日恋
寄月待人
月下待恋
月増恋
見月増恋
月増久恋
月驚絶恋
忘園月恋
戀雲
雨中帰恋
隔雨恋
戀烟

赴東國絶恋
日中恋
経月恋
對月恋人（月前恋とも）
月前逢恋
戀依月増
對月増恋
月前遠恋
月前恋情
毎月逢恋
戀雨
依雨返車恋
雪中恋人
経年恋

赴西國絶恋
元日恋
月夜恋
月顕忍恋
月前別恋
依月増恋
月前顕恋
月前恨恋
月満枕恋
戀風
雨中恋
約雨霽
雪夜恋
経年同恋

恋天象
期明後日恋
月前契秋後
月前祈恋
暁月別恋
月前増恋
月前久恋
月前絶恋
月宿袖涙
嵐前恋人
雨中待人
約雨霽恋
霧中恋
こしゆくゑ恋

四季戀人
春夜恋
春尋恋
春憑恋
春別恋
春切恋
春稀恋
春隔恋
春難恋
夏朝恋
夏初恋
夏祈恋
夏偽恋
夏顕恋

立春恋
春忍恋
春祈恋
憑春恋
春顕恋
春厭恋
春舊恋
春忘恋
春樹物恋
夏久恋
夏忍恋
夏契戀
夏待恋
夏増恋

春朝恋
春夜忍恋
春契恋
春偽恋
春増恋
春悔恋
春遠恋
春恨恋
暮春恋
夏夜恋
夏見恋
夏憑恋
夏逢恋
入夏増恋

春夕恋
春見恋
契春恋
春逢恋
春夜増恋
春変恋
春近恋
春絶恋
三月盡恋
夜長恋
夏尋恋
契夏恋
夏別恋
夏切恋

夏厭恋
夏舊恋
隔夏恋
夏絶恋
七夕恋
秋夕恋
秋尋恋
秋偽恋
秋別恋
秋厭恋
秋舊恋
秋忘恋
秋難恋
暮秋契恋

夏悔恋
夏遠恋
夏忘恋
夏難恋
立秋恋
秋夜恋
秋祈恋
秋待恋
秋顕恋
秋悔恋
秋遠恋
秋恨恋
暮秋恋
暮秋逢恋

夏変恋
夏近恋
夏思
夏虫恋
秋暁恋
秋忍恋
秋契恋
秋夕待恋
秋増恋
秋変恋
秋近恋
秋恨絶恋
暮秋忍恋
暮秋別恋

夏稀恋
夏隔恋
夏恨恋
夏旅恋
秋朝恋
秋見恋
契秋恋
秋逢恋
秋切恋
秋稀恋
秋隔恋
秋絶恋
契暮秋恋
暮秋顕恋

暮秋暁恋
契冬恋
冬夜恋
冬祈恋
冬偽恋
冬別恋
冬増恋
冬悔恋
冬近恋
冬恨
冬通書恋
歳暮契恋
暁更戀
惜暁恋

九月盡恋
約冬恋
冬忍恋
冬契恋
冬待恋
冬別
冬来増恋
冬変恋
冬隔恋
冬絶恋
名取冬恋
煩戀歳暮
厭暁恋
暁欲帰恋

秋恋在野外
冬朝恋
冬見恋
冬契
冬待
冬馴恋
冬切恋
冬稀恋
冬忘恋
冬難恋
歳暮恋
しはられの恋
兼厭暁恋
暁聞鐘欲切恋

初冬恋
冬夕恋
冬尋恋
冬憑恋
冬逢恋
冬顕恋
冬厭恋
冬遠恋
冬思
冬空恋
契歳暮恋
戀暁
暁近厭恋
暁欲留恋

船中暁恋
昼恋
いたもりの夕
暁樹恋
暮恋故人
夜半思恋
終夜恋人
限一夜恋
恋地儀
深山秋恋
関路相半恋
遠路恋
寄河
海上恋

朝恋
寄夕恋
暁恋
暮恋
夜恨恋
深夜恋
歎短夜恋
毎夜他行恋
寄山
暮山恋
逢坂関恋
依恋赴遠路
隔河恋
海辺暁恋

恋朝
夕忘恋
暁景恋
暮夕恋
夜半恋
不逢恋
寒夜恋
毎夜違恋
山路恋
恋関
寄杜
寄水
夜河恋
海夜恋

朝変恋
恋夕不思量
朝暁頭恋
薄暮恋
夜中恋
終夜固辞恋
寒夜恋切
恋唯今
深山恋
関恋
行路恋
水鳥恋
恋海
海路恋

海路夕恋
ゆきかいイ
おりかのあいた
境外恋
古寺恋
閑居恋
依恋閑門
菊前契恋
花下恋
恋動物
恋獣
旅行恋
旅宿暁恋
旅泊暁恋
隔秋関他恋

海濱恋
城外閑恋
淑景舎恋
水郷恋
恋居所
閑戸恋
菊下待恋
花閑更億君
恋鳥
恋虫
羇旅恋
旅宿別々恋
恋人妻
隔我慕他々恋

恋田
依恋留城外
社頭恋
山家冬々恋
不解宿他所恋
恋植物
対菊恨恋
恋榊
寒々鳫添恋
旅暁恋
羇中暁恋
旅宿思恋
主君恋
秘知音恋

城外問恋（間イ）
都のかなよ人とこふ
寄寺
山家暁恋
空閨残燭夜
恋草
恋木
恋柏
暮鳫添恋
旅夕恋
旅宿秋恋
旅泊恋
被制主君恋
隠知音恋

恋恥傍輩
思高人恋
恋両人
恋二人
人をさそふ恋
被倩本人恋
老後恋
老年恋
老人訪恋
依恋被傍人
負人恋
閒談与人恋
恋自我下人
恋不依人

秘従者恋
思貴人恋
等思両人
思二人
障本夫恋
被叱親恋
老後初恋
憚老年恋
幼恋
人傳恋
憚稠人恋
近隣恋
被恋人
恋不擇人

さられとかりそめにゑるをと
思異人恋
等恋両人
思二人恋
共障恋
称有夫恋
老後切恋
恋老跡切
人遠被鼠鳴恋
被慰人恋
称他人恋
近隣恋人
人恋我
競人恋

思高恋
思夫
両方恋
公有障恋
互有障恋
老恋
老後恥人恋
依恋忘衰老
不憚人目恋
恥人恋
憑會他人恋
對泉恋人
秘恋人
寝人恋人

恋遠人
恋東西人
談合友恋
恋隣女
艶女會他人恋
思移媒恋
失中人恋
与君生此世
欲代命恋
歎身恋
恋心
不同心恋
道ゆ秘とゝゑ恋
忘憂恋

恋遠郷人
恋田舎人
語合友恋
恋遊女
被艶女恋
被空中人恋
云媒介恋
君意云人知
窮身
変身恋
通心恋
悲離恋
恋催道心
答言恋

恋遠取人
閒人恋
爐邊女談
そゝさめと見るひ
賤忍貴人恋
失媒恋
嫌中人恋
恋命
恋不離身
憚秘身恋
互通心恋
君意輕偕老
失本心恋
依蒙芳言恋

行路よ人とゆくる恋
恋方違人
隠傍女恋
下女とゝふて恋ふ秘
被誰賤恋
失媒介恋
傀儡恋
懸命恋
恥身恋
恋情
不叶心恋
語せ意何深
忘憂喜
恋涙

押涙塊忘
中宵涙満床
夢忘
夢中握君手
ひとり袮
移香忘
忘餘波
猒形見忘
愛忘
積忘
逢難忘
くちをしむ
万遠忘
忘他事忘

涙欲乾忘
忘色
忘夢
入夢到如今
獨對孤燈坐
袖移香忘
忘形見
亞隙忘
愛忘
困忘
しるさはよく
不及忘
欲盗忘
被謗他忘

唯有涙痕多
忘香
夢中忘
夢後忘
寝覚忘
面影忘
留形見忘
窺隙忘
悼忘
難忘（雖 難 解 忘乞）
つるまれ ところ忘
貪忘
引放逃忘
忘為羅業

涙盡賜欲断
忘聲
夢中愁忘
獨寝忘
寝寤忘
忘面影
殘形見忘
樂忘
有悼忘
難休忘
かけく
被下忘
忘延嘉謀
不情宦忘

至死不相離
忘鬢
抱枕忘言語
忘衣
忘硯
忘弓
車中忘人
忘泛
忘塵
雜忘
忘神祇

馬上忘
忘本結
忘莚
忘紐
忘筆
忘扇
忘舟
忘経
忘終
名所忘
祝の忘

戀雜物
戀枕
延契
忘節
忘笛
忘木綿
船中忘
忘燈
忘長短
往事忘

忘鏡
並枕忘
忘裳
忘繪
忘琴
忘車
舟裏忘
忘鐘
留信史忘
忘釋教

不言恋　（玉葉續千　永享十八四十五）　おもたにも人恨よいつし夜半の月のゆるしもせぬ程ぬかるゝを　暁覚

未言恋　あふをたのむ方よりいふもいはぬ程の心がさと　後柏原院

忍不言恋

不言出恋

未言出恋　新葉　こへしな袖のしぬれてゆふのぬれいひあへてまての心ろは　冷泉入道前右大臣

（玉葉續千　寛正四十五）　おもひ出ぬことのはにしきのゝきさみよみもして取やらんくさ　後花園院

百首　うらいとむすもすらしいはしてなりひやうしくもとに恨　雅俊

不言思恋　いくそたびいへともさらなりてすて恨なりぬ我をあやなさ　逍遙院

いはでおもふ　（不言思恋）　家集　こしての後つらきはいふもこりおもひこそしらずへつけるる　實家

欲言恋

欲言出恋　摘題　いやそへいそへるおもひやうしおもひよるなれなうかし　小侍従

拾集　うらいてもおもよしねさら恨ろるもひまさほどまて　後二条院

新葉　あらぬそれともうらしいはてやくのをもまこそん　福恩寺前関白内大臣

欲出言恋

欲出詞恋

恋のしいらぬるとこひ行程しさかゝまそくへはらん　逍遥院

（公宴続哥 永正六四廿五）むかしきく志のひとあまるかたもやまく行くへはいそかりしらん　尭胤

（百首）かは文らいつ人後やのしよ文くよみ人さ侘しくさすまし　政為

（同）こひあまるまてしとすらま恋れてのむかしもやられいつらん　公瑜

（同）まちてまつゝひやおもん思ひあまるとおくしめかし紀胸の思ひは　公條

難言出恋

観身不言恋

観身不言出恋

不浅思恋

不言在恥恋

言出恋

（家集）夜もしのいはぬかりしひとつれたまきれさま行おかりくらん　宗祇

（紅塵灰集）恋の路ちつりしをも恨まても思ひさらしく人のきれし　後土御門院

（続撰吟）こゝろさへむねるまよ人をもやすいつうらうこと侘ぬる　同

初言恋

いふ白衣もうらまとひはしのゝつゝれ人はよさられ堂　後柏原院

みくみしかきぬとのきえはいまね袖の露のむすほれ　同

山陰のをとおもひのこゝれにあさくくむちかふの井はの玉水　逍遥院

まれくるなかにいしし侘ていつきぬるいはてもさ計　同

きえてり所はしかきも侘のしらぬ身やたのしかけん　政為

（公宴続哥 永正七三廿五）あすふまてくぬる袖の涙よりしれあしらぬらし　邦高

（同）あらはまた人のこゝろねもとしてもいふかひなされ身はいまとん　実香

（同）おりみともちかなしてつまるらいひよりてさそむ悲まらく子　後量

（同）いふしてあかしみ思ひやとしぬきてかくるよりそて侘くさ葉　雅俊

（同）思つしいはぬまていもてらぬれぬれをやおもふ人かまし　公條

（同）後まさし心ぬれをぬあさくおもふおそれふるとしのしもかる　冬光

（同）おりくまのこゝて詞の毒て侘ぬるものきそて人のきれし　済継

（公宴続哥 永元十一廿五）いふとはさつへさ人へにれしてまつやしることも世やほかん　後柏原院

言始恋　隣女集之　まの日にゝをさしるしのぬのいはいはるよき神のぬさ川く　雅有

言知恋　みるめいふかしいかでもしのびねしらぬの末をたのむの浪か　後柏原院

言初被憎恋

初言出恋　家集　あらましを恋ひにたえたる物ならや思ふにかなしいかなるしはし　行宗

同　淀までのうきを知なかりしましはらくさこしのたえぬ袖の北　為理

同　きのふしも月日経てうつりにし思へどもかはりやすらん　慶運

御集中　いかならん花のことのはにかゝるたのむ人しもなし　やまとうた　後花園院

詞出恋

詞和恋

和詞

未通詞恋　乃忠朝臣家百首　いそかしく思ふ心のはし枕みをまでもらしつるかな　為忠

同　人しれぬ恋は深山の岩かねやいはでふるほどのくるしさにぞし　顕広

同　せきもあへずいかで思ひのすゑをしれぬらんあふよりまれにぬるゝ袖　頼政

家集　まねくと消えつる思ひよそにもあらはれてあなかしこみえん　雅世

悦若言恋　御集上　いまさらにいひ出られぬ思ひのほどをそれとしる人もかな　後花園院

言出後悔恋　二宴続哥　幸北百知　人しれぬ袖ゆくかたもなみだにぞいでてかへるべきかはし　義

莫問胸中事　二宴続哥　享禄四九重　ころもへてそでのぬれいろもしかりき人にあまりに　二條

物忍恋　大永二八四　なかなかにかくかけまくもすこしはしられずつけてもよかなし　宗清

あしたもとむるよしのよさこゝろあさくさはれ帳のうへに　道堅

永正二三廿二　水無瀬殿法楽　身にしらぬひとのつれなきものをへだてむかしの袖をしほるまし　為広

うちなびく恋つらきこゝろしきにこゝ思ひ袖を神もわすれぬに　道堅

続題千首　あはれともこゝろしらぬいかなる人をかたみのことの涙を　左大臣

同　我袖のよそにもしらせしいかにもとよきたにもそれしらすらん　内大臣

同　おもひ入るにいはゝんもらのしかるゝみえかくにさらにもみしさ　高清

同　色に出でてもるらむにとまりてはしのびわびてかなしきも　冬良

同　しのびこそれ人のこゝろつむてもかしこきあふ涙なる　教国

同　つゝみこしとる袖かなの山水の色よりもさしこゆるかな　為広

同　とくしをろ山あかつのゝく衣きのみをすわらとゝふかきに　乙夏

久恋　拾玉集下　侍めともと移る月のかさるねをあやうくして人をこれかしも

同　秋恋いきのふつくら松かねのて枝ろに春ね生うとゝれる　秀能

家集　年のかいそのかか辺のきのをなきのふいとむ吹けしとさあるらむ　為家

同　よも袖に年ふるあかしこ恋すらふかとくいつむ涙あかりけり　称名院

忍後恋　草菴集　拾くうたにけむの井のしとへつくりそれあれともくしらや　称名院

同　秘もうきく人めくおろすらもやらくすいなりけりの秘しむ

亜槐集　去りむとのかやうしん秘袖よやくはれし深きねとあ

百番歌合　宝徳三八十一　あられとるいわ句きるへて世をつむ涙なりけりと人まれし　沙弥祐雅

同　涙にいらぬやれとうきれからむ袖よいうもやそうそれあかしに　法印尭孝

同　多まさくくうれかとくらむ萩もある袖とさくへ　雅義

同　さうしてもあろ涙よまかへしやく袖のきあ中とあひ　内大臣

続撰吟四　いさうは我らくへて中うく月ふこらと秘袖かうらま　後土御門院

ぬまさらされ袖いつふそる涙しきる松なすしきく涙のかな

同六　しるあまも公の中ぬきみかと神よまでもとをくからそら　後柏原院

同　集　我身よそとかのあかる涙よはつかときしなきていなる年　逍遙院

同　心うとけゆる涙とさく神の文かくしかふかしさもりむのかな　後柏原院

同　こゝろ人まち月待えいらろくても涙かさらん袖のさくにいは　同

同　袖のとりを涙しかりるる我ふむ公の中にやるてかへさらく　逍遙院

内裏歌合　文明十三年八月廿八　うら中のおもりひよくへてやうそれにむよるの袖の涙を　宮御方

同　いかおるにもちてそかうかなるあやそころうらね　称名院

同　ちるふるらぬおさたるあ袖るし涙いにしやなうらりて人　三光院

同　おりかくもさくれる社の年月ふむひとつよくらうしむひて　逍遙院

忍経年恋　寛正歌合　あるまうえらそとるもしくつゝむはいまにまれるさへうむし　教季

同　むさまふのなかくまも出るくにおりむかいけて年はあるか　祐紹

同　いまやせん今ゆる年ぬ後とよえてて恋の衣はあきこもれく　一條式部卿貞常

同　人きれゐらさ身よつりる年ぬ社かるきさむひれなきを　乙澄

同　思ひしも[illegible]のこゝろはつゝみあまるも[illegible]　隆量

同　[illegible]ともしられ袖の[illegible]　季圭

[illegible]の秋[illegible]人をも[illegible]袖[illegible]　称名院

[illegible]月[illegible]　三光院

乙宴続百（天文三九五）　いはゆる袖つゝみ人[illegible]年波を[illegible]　後奈良院

同　[illegible]やみ人事を[illegible]袖は涙の[illegible]　貞敦

同　[illegible]　彦胤

同　[illegible]　公音

同　[illegible]　雅綱

同　[illegible]　基規

朝忍恋

暮忍恋　明日香井集下　夕暮[illegible]

契忍恋　御集　[illegible]　順徳院

共忍恋　為忠朝臣家百首　[illegible]　忠成

思ふとも[illegible]　為盛

[illegible]　盛忠

[illegible]人[illegible]　為盛

御集　[illegible]　後花園院

乙宴続百（享禄二二十五）　[illegible]　三光院

乙宴続百（享禄四九十五）　人[illegible]袖の[illegible]　雅業

百首　[illegible]　三光院

年忍恋　石間集　思ひつゝ[illegible]　平清時

家集　[illegible]　為信

続草庵集　人[illegible]

乙宴続百（寛正四四十五）　人しれず[illegible]　季春

乙宴続百（文明十二六十八）　[illegible]人[illegible]　政資

相年忍恋　新葉下　[illegible]　御製

同　[illegible]世[illegible]　新宣陽門院

続撰吟四　こゝろにはつゝみて我をいさむなるさらのみをもかへすかへすも　政為

同七　こゝろのみかよふも同し彼かたも我かみをはさそひしらむ　済継

さのみたにしのふあまりのかひなくてむかしのまゝにかへるなるらん　後柏原院

御着到百首　わかこゝろふかきのおくにいる月やさてたにしのふのふしたる　永宣

同　たゝるゝさかるまことのよそにとかへりやまのいてしぬかな　元長

同　ことゝはしのふいはるゝ我ともあはれにしのはるへし　済継

同　世のつねとかはしる我身か人めのみ人をもあはれとおもひかね　三條

乙宴続守（永享十一三）　ひとめをもわすれぬものとよそにても涙のしたにしらぬ　季種

乙宴続守（永享十四五五）　今はしる人の我をもこのひねのあはれにしらぬ涙を　道欽

乙宴続守（永享四五五）　たゝゆめにかはらぬゆめをみるよの中にかくれぬかはりにさしそへ　為孝

乙宴続守（寛正四六五）　恋ひしつゝこひいとたのむかたに涙せきかね袖をぬらして　雅行

互忍久恋

忍人恋

為人忍恋

嫌人忍恋

忍人目恋

忍親昵恋（難題百首）　ちらさなよしのふ心の色見えてしれぬ風のみえぬれ　為家

同　おさへてもしのふあまりの心むかふやのかりのなみたをもしらぬ　為定

家集　こぬ人をまつほとすきてなほしのふる我とあかしの杜　雅世

同　うきあるをさゝへしいみしかるの木やゆるやあまるこなし　宗祇

御集　我おもひやおもひにゆかりのなきものをまてはいかなる袖のたよ　後花園院

同　ものゝふゝのいろあへぬをたゝね中をもはかりかねし　光同

家集　人ふかきおもふらねとものくれをもあやなくれふかくて　義政

春夢中　ねさむるゆめの行ても蘭をのみかけとゆくゑはしらす　牡丹花

心をよみおもひをしらぬ身の中をあはれと袖のあまるなかりしかれ　逍遥院

乙宴続守（永正九十一五）　いとゝ恨ていかにせむしこの我かぬ人の思ひの事よりも　重治

契忍恋

忍心中恋

忍通心恋

厭忍恋　家集　いとふともあふもならし忘れぬ袖のなみたかく[illegible]　範宗

同　うらやましあふよなにたのみある[illegible]　光経

難忍恋

忍切恋

依忍久恋　家集　忍ひつゝ夜ころ忍ふるむなしさは何も[illegible]人かつみに　宗祇

忍似疎恋　御集　[illegible]やしおもふこゝろのうちを[illegible]しらぬ[illegible]む　後二条院

堪忍恋　乙宴続千（各十二十八）　身のうきにおもひかへしぬる[illegible]月の[illegible]　為広

忍惑恋

隔河恋

忍故郷恋

忍忘恋　うしやさなりひもおなし月はこの[illegible]　後柏原院

忘らるゝむかしの[illegible]人もなし[illegible]　逍遥院

百首　[illegible]の中に[illegible]　政為

同　[illegible]忘れてみる[illegible]人の[illegible]　済継

同　[illegible]みられ[illegible]人かくしつゝ　公条

忍絶恋　家集　ちきれるよ秋の[illegible]中にゆてよる物の中こそ待　為家

御集　よしさらはみるかたらすと[illegible]秋の[illegible]て　後二条院

家集　わらはふくよられ人めを[illegible]こそ[illegible]いつかりけるを　為理

隣女集四　あふことはのちもあふかしにくゆる[illegible]　雅有

草庵集　かくへぬ契りの後をまつ[illegible]人のこゝろを

同　うき中はさのみ思ふの[illegible]やまむ[illegible]　頓阿

続草庵集　[illegible]

家集　[illegible]　兼好

紅塵灰集　[illegible]　後柏原院

同　[illegible]　同

[illegible]　逍遥院

百首　[illegible]道の[illegible]　一條

久忍絶恋　家集　人しれぬ[illegible]　長家

忍諛　家集　つゝまてとしのひわひぬるくるしさはゆまにいてゝもらさてやあるらん　資隆

かはさらにおもひおもはるゝ物はおもはれてもかなしとれかな　逍遥院

誰識相念　永正三十二（水無瀬法楽）　こゝろいくはこれいはしらむ恋ましらせておもひやかはりけりと　重治

不聞恋　拾遺愚草上　こゝろつゝのみをしらねよの人くらき名をのこゝろやましきや（之よ）

聞恋　家集　よそにもきく我かの志もちも山ほりうるを聞たにも袖ぬれまさる　信實

亜槐集　おほつかなくもかねはらるゝ小むら袖ぬれぬ浪のよすらむ

志ゝせたやひとりあるやぬ小夜河ね越にきてもめくりてねなと　後柏原院

人のことはいふはきくぬ我のことからうらにその名をめくりて　同

ほのかる誘につけても忘られてうきひとしれぬかなしきる　逍遥院

我なりしれ物つかや面影てうらゝある風のなをしりゆく　後柏原院

ありしよく人やは何なれての心をいひてを袖よあられ　逍遥院

大ろにいひもすゝ人のきくぬあや中を契まに後まゝ　同

われしもの人ことはまゆくらるてむしはかたよあらなひ　なと同

うつくへき心をたにははかなひとくやあはれにもたのきこく九百首　基綱

文亀三 侍従大納言千首着到　名をまたのみぬよふていたにとゝめにとはすてゝ人使なしかしや　政為

初聞恋　乙宴續千 大永元十一廿五　はしめてとひやもやらしつらみちるしかのうちはれのまき　公條

時々聞恋　たまゝるきくの夕かにはりきて袖ならぬゆくへもしらぬ　逍遥院

聞久恋　百首　あしとなまするよやいへともよのこゑにぬれはかなしの　政為

同　あとしれよおしむ君なりむや年ふれてかゝぬるのありなんかへる　乙琮

久聞恋　同　まつのこゝろそしもの聲きてこふるよ移く月日の　云條

傳聞恋　せくろをせよてきことしてそのことれ行末かくるかはかりなきき　後花園院

文明十六 内裏着到 續千　ほゝゝるし人のことしをたのみよろみぬおもひけれ名かりをそりて　後土門院

続撰吟六　世中ろこそのこゑ与さてもゆみぬおもりけしあらさてるを　逍遥院

ゆすりにおもりこりふ八重のかれけもかりあなて　後柏原院

かくしてたゝ大方の人のことをたく我のとにかゝるもれし　同

「みそいそて行来さこそ人よとこ人のこしれくなよこそ関もと　逍遙院

あやにくのかこつこゝろれ世語とみても行くさてなりしよゆく恨そ　政為

永正元八廿六 関恋取　何のある世をまし人のこゝろをもわやかてむしりうともむ　元長

一人三百　あふさかのつてしいさてとりのこすのをかさきをろ関守　爲廣

立関恋　万代集恋一　逢坂の関路つと思へとも関守ぬるし神の御　顕輔

立関待恋　林葉集　あふしきと一夜とゆ中とてるをすむわなよいと夜更なり　俊恵

関音恋　家集　よもすからね関路よりくる旅ちかや鳥のそらねよ音をそへつる　俊忠

為忠朝臣家百首　よもにしらぬなりしこのふかきをうつとけむきさ　為忠

同　あふ坂の関守きけもかくさらわけもなけともひられ　親隆

同　笛にはく秋の御しも松かせや声はひかしひまに心まして　顕廣

同　まさきもくるゝ関守ゆるしむかしへ　頼政

乙宴続了 永正四九廿五　こちか月すき空めこゝろのこころの関守りよみく　後柏原院

乙宴続哥 享禄四九廿五　ふかきよるてくふなるあふしてや宿の末風のこゝろ恋　隆重

乙宴続哥 年記不知　こゝろのまゝに行ふるやもけるにみるよしのあさ　實雅

関声恋　家集　身かしもこえくとも人はまつしし　義政

春夢草 上　おもひそてかそこひのなくなふら関守ゆるさ　牡丹花

鳥もなく水の下なるとめ恋もゆるさせりしひぬるこひかきさく　逍遙院

永享八六廿三 百首　わら神よかまくいみそしい関様の嶋となとりあふれなる　義運

永正九十一九五　いかをむみてうつしこそとらねてもとらしいはくわしもとし　尭胤

関名恋　家集　こいくやはやのあふれの音ゆゑてゆるを神ならぬこゝろひさと　為理

初関名恋　同　あるらにこえいさてしもなからなきれなもよそやあきれも母　小侍従

遠関恋

関恋我恋

隔関恋　続撰吟八　こひそし行来なくもかるとこえ身をこそ小野の山みね　持為

あふ風の遠さかりけるにゆるもしねなし旅のすまふるかしねて　同

よるさの又ていけは山しろのこえたつまかれま風ぬるゝ恋　三條

関談人恋

関契恋

聞琴偲恋　今撰集　ことのねにひきとめらるゝ[illegible]　御製

[illegible]恋（ことさら）　家集　あはしとは我もさこそはつれなきを[illegible]　建礼門院右京大夫

未対面恋

未見恋　家集　くもまや峯のしらくもしらくもによそなる人とそこひわたる　宗尊親王

不見恋　隣女集之　[illegible]袖[illegible]　雅有

家集　我[illegible]いとおもふ人もみるめなくて[illegible]　雅世

同　みるもあはれ[illegible]ほのか[illegible]て袖の[illegible]　同

みてもなほ[illegible]　後柏原院

（乙安続千　文明十七四九八）　きのふまで[illegible]　[illegible]内府

（乙安続千　文明十六二十七）　我なしと[illegible]中につゝむ[illegible]　重治

（明応五十八　内裏百首）　神まつる[illegible]の川のほとりてみな[illegible]　雅俊

（文亀三　侍従大納言家）　あはれとも[illegible]　政為

いかに[illegible]　称名院

初見恋　隣女集之　[illegible]　雅有

同　ほのかにも[illegible]袖の[illegible]　同

（乙安続千　永正十八四五）　[illegible]あての[illegible]　重治

（乙安続千　未見不知）　[illegible]の[illegible]　同

夕見恋　紅塵灰集　[illegible]の[illegible]　後嵯峨院

見忍恋　隣女集之　[illegible]　雅有

且見恋　堀河院百首第二度　[illegible]　常陸

同　[illegible]の[illegible]　大進

摘題　みても[illegible]　顕仲

同　[illegible]の[illegible]　仲実

（乙安続千　未見不知）　かのみ[illegible]人の[illegible]　常折

僅見恋　摘題　おもひ[illegible]人の[illegible]　小侍従

終見恋　家集　[illegible]の月[illegible]人の[illegible]　宗家

石間集　[illegible]山の[illegible]その夜の月[illegible]　右京　隆博朝臣

万代集恋三　[illegible]のよ[illegible]　隆季

続撰吟六 めくりあはんものならはみる月かけもまたとも見えぬまつよ 逍遥院

あはれやかなるくもゐのところもたまさかにみえすまれ 政為

公宴続哥 永正十四四廿五 たのくみるそろ車のすたれのさはらしつもうきちらちら 永宣

公宴続哥 永正十四十廿五 さかさしてあれなまいつて花波のみかめしよそのあさぬつき 云音

公宴続哥 年代不知 ちくまほかのこし内に行舟は波のよそへとさしもるふかれ 勝光

時々見恋

為忠朝臣家 百首 波さはくまなくもはかなてのはちにおろみるをちまつ袖ぬれ 為忠

袖のうへにはこれ後よりゐむくしいくあさせのなけきさゐるよ 顕広

つりのはのおもへてもあひみかいあかるのかせめくりわかれたもれ 為業

いかみきんあすなかなて弟弁のをりふしゆく人たつきはさは 頼政

御集 いつくれ立る波のるひなたにはなれて袖なしやそしや 後花園院

あるよるをあつまかれたるはみなれのこひわたらみなら袖ぬらさむ 逍遥院

ちくまうれみしよはやあらるはのこのつふよるへしくはし 同

近見恋

公宴続哥 年代不知 ゆふかけのそらさそつれなかるらむとまくらゆる月をとふりし 為冨

うれしくあひ恋

見被詠恋

路頭見恋

林葉集 ゆくへしるそちあからふなてゆむはなれ行く袖やすしらぬ 俊恵

見人恋

人をみて
こふ

よそにみて
こふる心を

見手跡恋

為忠朝臣家 百首 あさくさのうつりしあとてみるとともかくはつかしかわれにさのみ 親隆

同 うくさみとてならはすれつか出ぬ袖そめくれあはてたまき 顕広

同 九重めのかみな藤てかたみのともつ内ともかはらむを 為業

同 たれちとかあはかのふみてしらうちかなはおりよもつくは 為経

公宴続哥 年代不知 かくこひし人の形もえゝまてうれて袖ゆく君くるまの行と 義運

見後朝恋

林葉集 秋なるあけしらぬかへすなよいかにしくかゆくさか内さかるなる 俊恵

隠見恋

沙玉集上 あかしさうや君のやまされ形路かのこしいろならかれにふとも 後崇光院

久見隠恋

公宴続哥 大永元十一 ゆきをくしとみてしかうはらといはのさきれ落とをりてはなか身もて 實香

稀見恋

見獨寝恋　家集　他のこゝろ人よ枕よねさめするひとけのやとの夜くくもあらん　入道二品親王道性

夢見恋

夢中見恋

白地恋　御集上　神やしる杉ふかき槿の花ぬかしくれ間かハりゆ中　後花園院

同　下　うちつけよ見てし見し玉すれ哉しもかのよふさえて行末を　同

家集　うちつけに浪の枕にたちよせてうたゝおもひとつやえくらむ　義政

家集　ゆきかの道のいつちれ梅のかれそのよそめ袖をゆきかね　義尚

やにしもしもひもあへぬ山の井ぬあかてしいうへ袖にたもなき　逍遙院

一人三臣下　あさきそやありての袖かくしものしられあさきえん　為広

乙宴續哥（寛正六十五）　はかなしやたのむゆうくれかけりえかしとゆめのむつさし　泰仲

享禄四五十八（御当坐）　ちらすのまねくなのやらよておもひさえあらゆ行末まてわする　隆永

天文手（?）　おしの影とうはしぬきてたらし行末おやよる袖のとゝまる　公頼

くやしくもいてうし浦すゝの名おもかけて袖をしけふ　三光院

戀書

違文恋

并書恋　家集　忘らしくも知てうしかのかよるるかのみちぬともくゝしける　基俊

あらかくに文をむとせし玉章ぬらさしとする袖（なミ）に取るな　逍遙院

遺書恋

通書恋　家集　こしかなきたはやらよ見ずゝ袖みえてるし人よかゝる　慶運

同　一筆よみつくるや人のかの紫をはらしていくかとらぬかわき　宗祇

西堀集　うれ中ゝ秋後さへもうかるしこうちすゝわをみするや人をくゝの袖

同　うきとにこのるれ袖とちてうらみよいはしく秋をかくとつる

あるねすらにくれくてふせよちゝくれ忍つたゝむ水茎の跡　逍遙院

花もおもみてわくとかりし玉つされむとかれやるゆゑもたすけむ　同

乙宴續哥（寛正四二廿五）　そのえこのしのとゝらかすゝへて伝わりしぬ玉章ゆかれさゝ　綱光

折ふしのくるしせしかひにもあはぬぬちしてしむおもひはる　三光院

初通書恋　林葉集　わくらはの跡をみるしもあるかあふくるはしいひかへて　俊恵

忍通言恋 家集 ・うらむとも文つらしのそてすさひ[illegible]かくされと[illegible] 蓮性

隣女集 かよはすもかひなき[illegible]のかせの露の玉つさ 雅有

未通書恋 [illegible]いつの[illegible]にていかにすへき水茎の[illegible] 為廣

不通書恋 家集 水茎の跡のうちにいひて[illegible]ぬるよしあらはかくさふ[illegible] 俊光

輙不通書恋 林葉集 人にてはいはれぬこともしのふ水茎の跡さへかよはぬやまかせ 俊恵

忍傳書恋 あらいふしのなからしをりてしのふむつましの[illegible] 逍遥院

ちかはしたのむつまし[illegible]ひ来もしらすの玉つさ 政為

一人三臣下 ぬるむひとぬきさみちくく人もしらぬつひやうらのことを 為廣

なかおすの[illegible]云れくも思ふ中にはかなき[illegible] 称名院

公宴続哥 永正六二十五 しのくれまのよすにいとこのかたえくてやことひかたきかな 貞敦

同 ちらなの[illegible]しらぬ[illegible]そのおもくられ人につくよ 季経

同 ほとへくもせやかしさえとふに[illegible]云字の玉章をは 雅俊

同 人はその人まつむとくらんはほくさる跡をみ[illegible]ん 和長

同 おもひねもみえたに[illegible]思ひおかする跡にて送る玉章 為学

同 ちかひても[illegible]風のつてたえぬ[illegible]玉にいひて 仁悟

公宴続哥 永正十四十五 ものいはぬ使と中空の[illegible]よくやる跡もはかなし 公條

送書待恋

見書之

忍見書恋 いつまても[illegible]まさりつてもみえぬ文[illegible]とかな 三光院

見書慰恋 公宴続哥 永正八六十五 まさりけしうさわかれてみるよりは人にわかれしそれ 言綱

不見書恋 堀河院百首 二度 あらましのそるしらぬ[illegible]のかたし 常陸

同 いまはこのみつ舟[illegible]さのやみ[illegible]人をつくへき 俊頼

さのまそへあらそひの[illegible]ふ跡をもみえぬ[illegible] 逍遥院

ちかひしのわれ歌くなかて[illegible]之 此棠同

たえしやいはぬ限[illegible]とても[illegible]みの水茎の跡 政為

公宴続哥 筆跡不知 おもひやる[illegible]みゆるもはかなの玉章跡[illegible]ぬきて 義[illegible]

不見文恋 家集 みるまて[illegible]のかよひ[illegible]水茎の跡そ今[illegible] 待賢門院堀川

南書報言恋 林葉集 なみのあとみえて[illegible]つらしやとはかなきれくも[illegible] 俊恵

返事恋

続撰吟　うきことをかきてゆかしもてゆめやまたならんへ川ふみこそてゝ玉章　逍遥院

みちやいかにあふこゝろへはこそてせめて情こそあはぬなる玉章の跡　政為

（雲玉続守　永享十四五）さそはなく玉章こそたよりなしその便りてふ人の心　雅世

同（宝宗四四九五）秋かぜにおちし跡のかれぬ玉章も人にしられていかにみそむるの積　長清

同（文明十二六十八）ゑしは草ゝやよしとかしよつるかゝの神ぬらし礼　持通

同（文明十六十五）さらぬよりも人の心みえてりは草ゝの神こそ淀まし人ぞある　後土御門院

同　いかにせむおもひあまりのぬかくえのこす人のめぐみておりきて　後柏原院

同　うつゝともとはぬぞ中々む玉章に絵く子らね被いあらめ　政家

同　しるくるゝ絵中にまゝつままらぬ絵む一つの中に此玉章　実遠

同　しるく文は中々かへと見しつるれわし人よや人をおもひし人　親長

同　はこゆるゐろやいふとうらみてのぬくゝしよらや見てしから人　実隆

同　かるゝみとのおもひ玉つさは身にそへて字しられ　政為

同　うらむとも人をつゝて夏か見るよるの夜よ隔る文のあれ　基綱

同　うらゝえ絵を世にはともらしと玉つさ絵くもても人の情有らし　重治

被返事恋

同　まれにさへもみえて人まし玉章にくらぬゝれ形見こそやし　雅俊

同（永正元八十七　御点取）つまよしちぎともいひつゝてのほかかはりてはかなきん　俊量

為忠朝臣家百首　おもひにつゝゝせてなかはてるゝくまぎれ人　為忠

同　むすびてもかひなくてうき玉章にまたぬ君の行へしるなる　頼政

家集　さりともとおもひかへし目あはでみるにかゝる玉つさをあはれ　実家

秋風集　人ぞつれもなきかたのことづてなぬるふかみやまかのさるらん　二条のおほきさいの宮別当

家集　なきつゝ絵かくものみそむしとかなくにつきしられむかし　有房

春夢草　あるやかしやはこひたへぬ花よめつる絵しみえて人ぞあるゝ　牡丹花

（雲宴続守　宝宗四六十四）いつしよきていつるまつぐる玉つさみかくさてしたる身の心に　頭長

百首　まつやまつつとこくえらくのまとはれをぬかれる水茎の跡　三光院

見偽手跡恋

これ人はあらんも去りなく筆の跡も伊勢のかたりうらまし絵れも　逍遥院

了絵さしかくへあやしくはと嘘筆の跡とかうるゝ契りて　政為

（雲宴続守　永正三九九）ゆくへしれぬる筆のあとさそみましやまのこれを子方みてあてる　邦高

同　ほりつるゝ撤かなもよめれるまことかなしつ文の猶めく　宣胤

同　うらとこそみえよぬれて偽もみえぬよりしたの心をはさ　季種

同　つれなさのふかきこゝろの玉章はみるもはかなしぬれそまさん　雅俊

同　捨てもかくまてよし偽のかりしひるもむ年月のふりぬる　公條

同　さりとてはうらみもえん偽もしらぬをみえぬあらさのあと　済継

一人三臣　よる波のありしことはゝ跡はかりしかさむてかへし　為廣

別無書恋

帰無書恋　百首　さすひさ人たのめしをさへてたのまぬあしたの人からぬるよ　雅縁

難題百首　こえてりこそれぬ前てもつれなき後とかしらぬ人よりもれさ　為定

いつはりと知ぬるぬれをとまをかくやきみなる石見の友の　妙光寺内大臣

亜槐集　別ねしけさの今日のいつよりも見えぬ人の玉つさもみえす

あかなしけさの石見をへかぬるゝ後手袖は何こる　後柏原院

関守のぬるよ頼し通路はけふぬるゝ後いさしるの紀　同

あかれゆくの手枕一よの文添してあるもしらなみもぬれまさる　基綱

ゆくへ今銘みもしらし我かへる涙や袖のあさ草のしれ　政為

返無書恋

永享八六十三百首　うらみえんけふもかへるさまてもなをしりの心をあるの玉章　義運

乙宴後寺　永正九十一十五　かくもなくさみるさかり一袖のとまみる君の玉章なり　實胤

商見人付文　無一首

見返事無字　野錄

待返事恋　林葉集　川岸のあひてもこゝろかはしたましひもあらす書と也　俊恵

待返事恋　乙宴後守　永正元七月五　君よしれくれぬことの物うさと中らつけるのさまもやし　實望

度々返文恋

度々返事　家集　むすひかれへもひてみるたひもあさみてうきたるくれは　資隆

うちあやうれぬ身にある雨のしらすともなるあらぬ袖かへん　逍遥院

初見返事恋

無返礼恋

無返封恋　家集　ちりやるもよせも中ぬりはさへるけるあとのうらこ我　為重

落返事恋　摘題　みてこえありぬかへさるもなさの名にれとかゝてたえぬよなりたる　後徳寺左大臣

久逢中恋　萬葉集　まれりにきたるによしあひて絶るともしれぬ人のひさしさよかん　俊恵

不逢中恋

逢妹礼得恋　林葉集　あふことにとてつきぬる程の夜はけてまちむかへつる玉章　俊恵

待無消息（云字傍有　永正二年）　ゆふしくも秋よりてる方にいつしかよろこひけりしらむ　和長

二年不見恋（古集句題　同）　むすめてわかれしの秋をもまちてつきぬるの玉章　良守

同　かりはかくかくまつさもやさこゝろすゑのうらみにもあらん　政宗

同　わか花むすひてまつしきてねもやこゝろせかてしなる人のおもはく　周嗣

十書九不達（永正三十二　於禁裏五体）　まさなかやまぬれにつきてしもまたにゆかなるわかのむつき　逍遥院

やとをとはれてさる恋　家集　かわよこにこゝにやいかにしておかつゝるかやこのかつれとこ　公條

うらにくかりしかなしすゝめれのふしるのうてはかしりしと　覚綱

かねてしもうらみかつる行数さしけはかつにうらよるを　後柏原院

尋恋　又ましてもよとなりやなつけと行きくわの中にのりや　同

むしさきのゆかりも尋ねわくときあとまとにかよふ武蔵の原　同

いふきむつかすなりとものえてもつのはくのきつくかうしゝは　逍遥院

てしつかゆへはらよそのすとあつあいてよとつうさも知るか　同

おもかすられれはかゝなにゝまふ道にきたるの道くらく　同

こひうちかぬ物しへし人の伊よかしてこゝも宿へたよわし　同

こひうちぬる人の名かいあまやすなりて又霧の中よりと　同

かれるともかのあしかくうてゝこすなしのうけてとむ　基綱

続撰吟六　ひなをむすこゝいわてかぬをさきあれる人のこゝろゆかしき　邦高親王

文安二　伴従大納言家　千首　わてみる橋もあまてわれてこいふかしのふ　済継

一人三首　夏ふかきあるもしくゝてかはまつたなりする宿の道のまゝ　政為

同　つひをある風もたよりの家路やゆくすれはかのゆくまいかて　為広

なかなかもひぬみちくる塩にもいかのやらねん方にみ井かゝるよ　称名院

ふきふる袖はぬれもなやてつむはしのなかの名あとゝまてる　同

関名尋恋　るかとるとも尋てやことんかのしやちるへあやきたのかをは　三光院

忘名難尋恋　紅塵灰集　つれなくてすいくりてわれしるのみなすつても行を家ぬるのまちくる　後土御門院

（大永二八四）あふ事はくちはてにし尋ねても松ならぬ身の中の跡を　後柏原院
祈尋恋（家集）ちかひてもおもひかけつゝの床にかけつゝの契をあはれと神もしらなん　兼好
尋縁恋（公宴続歌　寛正四二十五）ゆくすゑも身をかくしては宮津舟よるへいはくれなきしるしも無　季春
忍尋縁恋（百首）葉の枝うの色をしるして稲葉風よしやたゞ一世しらせの便　親長
ちかきるくもりのよすがはたゞ今でもかもゝいふべき宝ぬまで人に　雅運
そのまゝは猶しのびてまつ人さよふけ行ばのかげ人のかよひ路　逍遙院
いかさまにしたしいはぬ我松かねの待人ありや中々にうちかけさま　政為
あさなけに名をやたのまんそよ吹て待人のこゝろのかはりしらば　政為
いかよう似るるにちかき便ともへしらせたらひやうの道　済継
人いつき淡よりわかみて待のゝ中たよりもよきさてやまよひむ　公條
たよりをいまはいふあさ山の草葉がくれてくれつゝよし　道堅
初尋縁恋（天文七六九四　百首）かのゝるかきとゆくまでの月やしろむ新の契よいかゞならむ　範久
（難題百首）今日こそは浦まにまよふみちもしらでかへるとも尋ねかけつつも　為家
同　さてしらぬ宿の行方をしるべにて花のゆくゑをとふぞうき　為定
同　ちりちるおもひやるさの使ならねば身はかへるをぞ至らむ　阿佛
内集　色もいへんるよさはかすむとの一夜にてゆくへを尋ねつつ　後二条院
新葉　むかしの秋のみのふかくさひとまろて秋見えむかしの友　入道前関白（九大臣）
家集　今はとていかにかなしき中の心にのみしのびわびぬる　義政
様にして神へやまひしてこのみみさいさや法もぬ郷はも　逍遙院
末白せの路をかしはやうまくて落らぬ草のしるべかきくさん　同
尋取縁恋（公宴続歌　永正九十一五）あしへくせしらねおもひよしけやろくしきえん作なしてしらは　季種
見尋恋
尋夢恋
暮尋恋（石間集）よしのゝこみちをわけてしるべなき浦の初汐
夜尋恋
不尋得恋
遠尋恋

尋山家人恋　林葉集　たやすし妹か家路はしらねとも白雲へたつ山へ分こそいれ　俊恵

尋取恋

尋互取恋　続撰吟　うき人にわか人恋の哀れをはおもひありとはよそのくかれは　逍遥院

むかしにかはるやみなしいつかきむ宿りしはせまかへりし　政為

いたらしとこうしはしつよ人のかはる道にこそ心ならへりもさん　同

とふ人のかたらいは杖の末しらへみえぬるもとよりはいとふらねん　内光

尋傍人恋

尋空恋

尋失恋　家集　尽きせぬ中に小車いつしかといかなる床にさしねぬらん　入道二品親王守覚

万代集　ふみはともなにぬるところ尋ねて神なきいのる夏にあった　師俊

尋失偉恋　家集　いまうつしよせて見つることとしも山ゝかくしてある杖もあきれ　為理

物祈恋　同　こひことそ忘れての心も末ゝもあそたるつくるまれ　光経

同　わするなく人のこゝろの末はかなるとくしていむ杜の末つ縄　貞敦親王

いのりこし人の心をさのみは松こゝろむすねこそん恨と　同

物祈請恋　あしかきや月日もしけき年ん我も今らいのるこそ御名も　後柏原院

祈請恋

致祈請恋

夜祈恋

忍祈恋

久祈恋　春夢草下　おりひつゝのちこそはせるみや垣のあるしありやせ行末の空　牡丹花

我くいまいつらあるしをみつるのいとふしさはなけきてそくに　逍遥院

（天文十七之　多武峯法楽）我ゝ子ゆゑしかのみつの縄つきるさらにくちんともやらら　公條

すゝしよりて尾上のねな故てこ必らんとのよいのちしん　恵空

祈久恋　家集　松のつゆのあかいのちのいのちまたらしもよといのち我　為理

草庵集　みをれしてくるをのあかつき程くる君のことめのすゝい

家集　つれなくてかけのうらしく杖よりもよるひさしくかやなく　堯孝

御集下　あるしある契りをいつくにか久しきあとなりしくのこと　後花園院

続撰吟　すゝしよりし松はつ積るまさへるしとやいのる契りも年ふへ知らし　同

年毎に契りし中の白玉のくゝりのかみや猶てぬらん　為冨

祈りやる年月ぬ我身のつみましに祈るもあはぬ我は　逍遥院

家集
ほとをもれき人のむくいに祈る我すゝめしつゝ人を神の神枝　貞敦親王

公宴続哥　寛正四四十五
とにかくに祈やらんこゝろたにかゝりてみなかけしらぬも　永親

詐りのみやさけしかゝさにも行しゝの神人はやくて我祈やたのみゝん　三光院

五祈請恋

祈身恋　家集
いかにして今もいのる石清水そのしるしあらぬなれ　雅世

同
守りける神のなにこゝろの夕されていのりせし　尭孝

同
かくつようれしつる人くくてこそ祈る紅くらく恨まさき　同

続撰吟七
らしまへぬうきよすまぬさむし縄くらぬ思ひを神にかけて　柏玉院

公宴続了　寛正四十一十五
うき思ひしと思ふる身の何はよあはてはいつくもえう祈らん　親長

公宴続哥　永享十八四十五
祈るも人のちかひは去ってあるくにあかぬ人さても遂くといのる　實胤

依恋祈仏
神よたゞ身ゆかゆき我らる祈くにかゝる契りかへらねと　親長

難記　万こ
今る只うしは祈るたかりしてあるゝしも中うは祈りむくる　為家

同
神はふかくめ我ゆしるしをあらまく人くて祈や祈らん　為定

同
かくへく逢を限りしたのまれたのとぬ我かいのちやいらん　阿佛

家集
かくくいつらく人もあるらむとてもおしとぬ身ゆ祈るふれる　時胡

同
うきいのちあかすま人の神はまれさもしやたのむなるいのるも　義政

同
しかもみをもかれといふ縄のうすきと人のちかひもかなし　義尚

あらなくも祈る契りもなれるも我ゆ恋えては思ひすゝいかや　逍遥院

ふるひもぬ神心へるしつるの我ゆ祈むしもゆく祈るとなき　政為

公宴続了　永正九十一十五
いのるてよ逢をよるはみ今何わさとなき人ゆのしらね　道永

その光ゆく我らく一つの神かけてこうかすさせ給いのるて紀　称名院

祈令恋　公宴続哥　寛正四二十五
祈つる我ゆの宿れた月しあらいりくてのうゑこ添ゆ神　實古

祈難逢恋　続撰吟五
うしや縄かはくことみすてこの神もたのまて世はいつてをも雨は　政為

同　六
人いさ神にかくもあらす我を恨めまひはいかにやあらむ　逍遥院

同　七
とくし神まかせての恋をまうつまてるみたよつくまるは　済継

くるしみ神も祈くしやつきはるかゝるまてらしむすみなふれ　柏玉院

わすらるゝ涙もまさて沢辺のあくる浪や神にみえてん　同

以前判百首　わすれすよこゝろの杜のたえぬらん神もしらすやうらみちらし　二條

同　杉もへし神よ志るしぬなきさ名をそへつれなきにたつとりは　済継

同　きさらきのゆふ逢ことのあくはとつゐりしかひなき神そうけはく　元長

同　神やえぬひとひく人御手にあらねはかをかありとつかみもして　康親

同　志るしをみ神もいのつまなきことを人はいはうらかなしひそかなる人　為孝

神もるしさはらつせゝん末つかまはひらひのまゝ恋ひかなりきえぬ　三光院

公宴続哥（永正十四六廿五）　祈りこしやかしこの宮の末つかまてもある節とこしなへき毎　宗清

祈不逢恋

家集　まつわたる神のことわるも神楽のしるなとつくさぬ契かな　兼好

永享八百首　祈さく我神の前もこれしや秋のむかひはゝなるらむ　雅世

家集　きのふるさみかさ神とめわかるゝ神もなるならはやおもてむ　宗祇

紅塵灰集　いのりてもひるき中のつまるらん神もうらみのかしれたや　後土御門院

家集　ゆくもわきてくるもそをしてあつまてくゝらむ此杉の杜やもり　義政

家集　まちこまてかたのぬをはらふての末よくいる神もかひなきか　為富

春夢草上　うめにこそしらしの袖にをりかへておもひし人の二條の森山　牡丹花

まちわひぬはてゝかよなかしてうらみける人なむこれ神と恨　逍遥院

祈経年恋

逢後祈恋

祈空恋

恋すてふ人のうきなやまちわひてよるへ神もうけたまはん　為富

祈雑恋

祈神恋

家集　あつまりはいのるしるしも此ぬまのうらをくみかはすをもゆかれ　頼政

同　行末をまてといのりしことのあはれしるみすれたきまゝ神の志るしは　資隆

山家集上　天くたる神の志るしぬあらましとつまなき人のわか夢のはゝしの杜

草庵集　君にしたへるも一ゝとこれてのちも人もわすれぬその杜

うらみ借いのるもいかや神垣よるまくれも妹かあらて　逍遥院

祈神不逢恋

大永二八四　まつしむえぬ中くてあらはひもすゝしの序も神もうらし　季種

社頭祈恋

祈仏恋

詞寄祈恋（新葉乃方 後字了 長享二年） ほともなく人にいのるはみちかねてなけしくもいつまて初瀬の山 御製

同 あふおもふ人のこゝろにいろもしらすよおなし寺にいのりしるしよ 實隆

同 初瀬山のちかひの世いのる花なくてつらさそふしも（よそ）ならぬ中しらぬ 教國

同 かくしつゝ初瀬おりひとつゝきよるにもはけよいのるあひ見るの 季経

同 ゆくへしもこゝろとかはるよりけりたゝいのるこゝろとはあまさのかね 元長

家集 年へてもかはらぬ契りをいつふかくのいのりしかていのかひ 邦高親王

大永二八 初瀬こしさらしみちを初瀬山人のちかひや二本の杉 元長

念願恋 恋ふるよあすよのちかひけるもをしまぬかつらにもはれは 後柏原院

寄示現恋

蒙示現恋

誓恋 家集 いさ我人にいまのまつかひたのみてこそゆるわさとかな 俊恵

同 ちかひし人の命はおしくそあたのまゝよみてしをらせ 為家

草庵集 はかなしやちかひし我そふりはてゝ神のの人のてろを 頓阿

わすれなむかのそまのつらしこ月も我人をまちてたのまん 同

（石宴 後字了 文明十四五十八） くるゝ夜を待ちかねのちかひにまちて千々の神よゆるせよ 増運

（内裏女中月次 後字了 文明十六四廿） 一すちになかむかはされし我ためのそを神にまかせて 南御方

（御点取 永正元八九六） あふまてやそらに千々の誓ひとおもふらんこのわさとし神や 資房

（文安六七十二 五十首） かくしつゝちかひのまつかなのさくらもあらそひまする 後花園院

誓言 家集 いまもまた我いくたひか神もふたゝかくきかはり社のしるし 資隆

誓客恋

責誓言恋 林葉集 ちかひしはつかのまいふそ人ねわすれけるをゆるしはてそくるしき 俊恵

不用誓言恋 同 ちかひしもうれにこゝろは我しらて神をもいかゝ思ふらむ 同

誓恐絶恋 大永二八四 うらみをもうちしるかにみるつらさみそ今は神にけさとひとえんやさ 為和

平精進恋

精進悔恋

精進間恋

精進中恋 家集 さらぬあひてたにや逢ふ神も許しつゝわさこよひのきつらしとそたゝん 入道二品 親王覚性

祢物忘恋　林葉集　わいらしてまいつくをこなくとくのつまいそすしやつらんね　俊恵

恋契　御集　うしとすつらん契りもまたす捨あられけり人よ契りよ　花園院

家集　めのまへのわれをたにもわするゝ身はのちの世かけて契るらんはかなさ　俊光

物契恋　家集　たのましなよさこそいつはりなるわれそつねありてそへさきかけぬは　為信

同　契りゆくとちかいてかすをあはするをていふゆめうつゝへよ　同

忍契恋　家集　うし月いるれゆへこの契りそてなれとも名も秋にかをくらん　為理

同　ほまくてきのよちきらぬまるわれなれこそ名も秋いろけそ　同

隣女集　ちきりのまゝゆくをみちらさすこころもなくしゐらくしもつや　雅有

草庵集　秋くれはいはてといふる契りぬるまて人めの数もしられねと

家集　もしこれをいひしをとはわれのみよりくるよなりとおもひめる　平常縁

（乙宴続歌 宝徳四十廿五）このおもこたのまある村の子も思ふ人ぞとおもひよらし　教國

（乙宴続歌 永正十八四廿五）とはれぬ露の契りよこそしのふ哀れなる袖のかへしそ　宗清

をもらしほをみたれ蓮生わすれしのめさやあらし　逍遥院

尋契恋

同　下舞のひとひまいといふらしひつきのこえひ弁てのあれ　同

ゆゑてはいけりなもこも物おもはるゝとぬをゝ人の生きてむ世かと　三光院

人傳契恋

契言恋

互契恋　家集　今さらやそのかはりの偽りのある世ならしれたちしれらかはらて　雅世

ちかひてたゝ偽る契りもいはぬひとのつらきくらひまかれ　逍遥院

（文明十七五廿一 内裏着到続歌）よしこちらかゝりしのよも程あさかかぬしやらても　新大典侍

（乙宴続歌 永正六四廿五）この世たにおもはし人よ契りてもさてのみ命ぬまて忘るまて　元長

（同続歌 同十四十廿五）あひ見て契りそあへりとはゆかりのむちの末もたのもし　為学

共契恋

契後恋　石間集　ろ文みかしきの契りよおもひあはする折もあらん　按察律師兼済

契久恋　家集　いくらむ根も恋もつゝらんおちくらる夜やらむ　時胤

御集　ちきれともさのやさき年月をわかせもしれ人のつも　亀山院

同　うしへともあふよ契りけちきりし命にかへらん　同

新葉　かくはかるてまつるはてや人のたのまんまつらん　よみ人しらず

草庵集　うき中はいつかみむとの言の葉にまつよはことのちきりしものを

亜槐集　ちきりつゝたのめしことの月日のみいたつらにつもりゆくらむ

永享八六十五（百首）　偽のある世をしらねとも契りにくきまつ中に年をへぬらむ　後花園院

いくとせか年の始をたのみつゝたのむちきりをみな偽りそ　持為

よそにのみいはさてそらにかたのむすひしもなをかはぬちきりを　逍遥院

なからへはひさしからむとちきりしもいつの後よりまつ人の心　同

公宴続歌（享禄三二十五）　あはむ世をたのしきはこのまへにしてちきる今ならはまたぬはかなき　公音

公宴続歌（享禄四九十五）　年へても秋まつちきりしのふまてこの人草はゆかしとそ思ふ　後奈良院

百首　世の中はかのちきりはことえませしいかなく思へはまたの世　三光院

契後久恋

成契久恋　林葉集　ひとの心よにかはる今も年ふとも恋しかりしあはれ移りけりな　俊恵

同　あひみても恋にぬれつゝあはぬ袖にちきりぬれなし成ぬる　同

契春秋恋　公宴続歌（永正八六十五）　かりそめにちきるも秋の夕暮をいまよりつらきたのみにそかな　尭胤

契晩夏恋　家集　秋はまたちかくなるまて夜のまきよりそれの神よ露にかくらん　義尚

契暁恋

朝契恋

契昼恋　家集　かつしらぬ秋のちきりはいるかたにちきりしたにくるいまのこのくれ　経家

ひるとちきる恋　同　あまのはらくもまつくのちしてたのめけるはてみやいかなる　覚綱

契日中恋

契明日恋

契夕恋　家集　ちきりへやくらきいつくをうつらはむまそにこのころはたれゆゑ　為理

紅塵灰集　このしらぬ夕のまちわかれひとしてたそかれ時と契りしも見えそ　後土御門院

夕契恋　公宴続歌（永享十四十二）　契りをくいまのゆふくれを中ならてたのみをかけて入あひのかね　正保

契昨夕恋　林葉集　来ぬを何あはれしあすとちきりたにゆるすもきなき物をちきりし思か　俊恵

同　きのふくの夕暮をかことしてたのみしことのあはれをわすれ　同

契暮秋恋

契今夜恋

契明夜恋

毎夜契恋

契夜有障恋　林葉集　こよひさへ人待かぬるよのいつはりにこはいかにさはのさゝかにかゝれる　俊恵

逢契恋　御集　いたくたに契ふかくもなかりしを一夜はかりのあふよたのむる　後二条院

誓言契恋　家集　神かけてちかひしことよしさらはさもいふ人のたのめしを　鴨長明

契誓言恋　（乙宴續千 年記不知）　つれなさはよもかはらしとちきりつる後のことのはかはし一こと　兼良

途中契恋　（雑題 百首）　ゆくすゑはるかに末はとをき道の人のゆくへのあふさかの関　為家

同　あふさかや道のゆくへをたれかしるゆくすゑかけてちきるかひのなき　為定

同　おもはさりしのなかそらにもゆくすゑかよはしてなをもちきりしく　阿佛

御集下　むすひてもよしやかはらぬ道のへの一樹のかけをたのむちきりを　後花園院

御百首　行かへりや行手の人をあふさかのなみたのよそにきえのこすまて　後小松院

家集　ちかひてもいつをかきりのちきりをは玉ほこのみちゆきかへる言葉のたのみ　義政

おくる後のこゝろをさそやあふさかの関のたまかはしをたえぬ　逍遥院

いつしかその小車のゆくすゑの契をこめてたゆみなき　基綱

一人三百下　ゆくくもの末は契をもとの人たえぬへき人にわかれぬへらん　政為

（永享八六廿三 百首）　あふことは人のなかをちかふへきしのふの中にかはらぬ　実量

契遂約恋　まことのさのまもりにしらはさほゆるみにちきるかひ　後柏原院

よしやさらはねかひのまゝにそれのみかなしむこともなき人　同

契不来恋　万代集　たのめしをたのみしをのゝこゝろのうちに待人のつらさ　法橋行念

家集　今さらとおもひしことのかはらすてわかれまてたにそむきはてなむ　為信

雖契不来恋

変契恋

遠契恋　家集　あのゝしもたのみしおもかはりぬよりかはる人のこゝろしらぬ　宗家

（乙宴續千 大永元十九五）　ふるさとはなかなかいかにかなしき命のほとかたみのこれそちきりぬる　乙音

逢後契恋

悔前世契恋　紅塵灰集　されのよしてかくやはかなき人の今日に契もむくいをおもひて　後土御門院

うきちきりなにゆゑにむすひあひしおもひのよしゆゑにちきりをしらぬ　暁覚

契後世恋　新葉　あはれなの契りもあのよにおもひやるみのうきにつけてもいのる　中宮

（乙宴續千 寛正四三八五）　かくしてこの世をちきりてこのよのちきりをたのむへき　後花園院

契来世恋　新葉　こん世まてあひみんとちきりおきけるみをもしらはや　御製

（永享二八四）　命こそたえもつらからめとこそ世をへてまたしらさらん　為和

契二世恋

二世ちきる恋　家集　けふそへ見はの世かくとちきりけるもしらましなかるらむと　惟宗廣言

契他生恋

契顕恋

契後顕恋

契涙恋

契後涙恋

契後隠在怨恋　家集　こゝといひしりしのちもさふらはれてなくぬる夜ふかきちきりのほと　為信

契空恋　瓊玉集　ゆくすゑもかはらしとみかし偽のうき世かたりも中夜のしるし秋月　宗尊親王

家集　おもひきや文の契はゆく末のなれるみをしくつる　平親清女

石間集　ちきりしはまにてに程ふるものをひとおもひすてゝわすれは　閣皇太傅

同　ゆくへゐらぬあすをたのみしはかなさもわかれまかせる人のちきりと　権中納言資平

同　うちさけるへのことはもあきくさてうし偽の行く世わするゝ人　左中将兼武

なほのこひさかれといひてもあるのしもあるなつにのたえのら　新院内侍

家集　とゝしにふかくしらのこゝろしへきうちもむひのよれるから　為理

（乙亥 後寺　永正九二十五）　かつしかる今やちきりいくつの年月つもるあし　ちきりそ　季種

契送年恋

いひわたる契恋　家集　こと秋もむなしひるのいくしろの杉やちとせの友となりなん　覚綱

契絶恋　石間集　ちきりしいもうつゝのせにすそまてもあひおる年のしめかな　従三位兼

草庵集　ちきりしとおもふこゝろもかはるのたのみにたえくそとさりつ

契後絶恋

逢中契恋

（乙亥 後寺　永正十四三十五）　こし夏の胡のちにうつらむ母きゝのうへのちきり　ゆくゑかたまし　後柏原院

同　めくりあふうつかしるちきりしそたのみし蒼うさしてしるよ　季種

同　とひとひねしまちもうしちきりてその蒼しまたのむちきりしくは　元長

同　おもはれはみさけを人よみつゝまちわしよ蒼ぬさらてもひさ　永宣

同　ちきりしはけるうき夏の秋もおもりむなかわる人のおもひけ　隆康

同　流くるのなみよ玉衣の滑くりちひりしつる蒼れおもなるを　為和

同　くゐるちのいるふくはるきよる夜蒼さもるとすわく衣の〻枕　曉覚

同　ほとゝきすやよそふしとうきにこそのかれなにくへる夏深かりしとへ

契女人恋　くものまにしれつゝらふえしみつ夏しぬるも人のこゝろなりし　公

幼年契恋

老後契恋

被よ忘名ちらる恋　家集　くものかはらしおもひいつよやかされしこゝろかへ人のかはりけるを　建礼門院右京大夫

被契てあいぬ恋　偽のうしとはわかむすひそてかれなはいはりかなりし　葎覚綱

馴恋　隣女集　すゝのあきはおもひやる衣かさねまへすしはよあるもうきよかなや　雅有

家集　とひよしむ侵をおもてよくに中くなるし秘かくなりしき　雅世

亜槐集　いろつにあきのくほ女手枠のみなりて神ぬへてよみかさん

御集　しひかしやそしもあいぬ紐らのとかる衣なかりけるは　後花園院

おきゐしをこゝろよてるこなれさてもそねへこゝやしるし　後柏原院

あるゝかくうちる仙や成ゐて人侍てかねうるさをみくらむ　逍遥院

やよし毋逢隔にようにさし枠の名よのこ神ぬくるしそつや　基綱

あれみる人のこゝろみ戴わるかぬいさねよなりむかるすむ　同

（明應五十六　内宗庭小路）せなりきいみれまつかてかしりしにつきなしもひもとけ　元長

（文龜三　侍従大納言家　千首着到）かくなへき契りをおもて夜こそ衣かわくなむそこゆか神まかく　済継

同　へそうし思ひいさるなこしかみ中にまつてき好しくあつせまし　公條

（公宴續歌　天文三十五）いまをむよなるふてもすれんくら人しいまよ木のおもしころを　尭空

同　胡夕のくまよむこゝにあるなるもの紀ゐるしつゝありし紐衣　公條

同　わくらはねもふありのをあちきなくおもひくの住のくまよ出ぬる　實世

駒離恋　（公宴續歌　寛永十一年五）こけるよしのすみぬまうつを夢われぬる中くよさき　後花園院

せひねの面影はるな後よ面影まつさき中ゐかちらうも　親長

船中駒恋　ゆるなしこえかしあまりしなほ女のみなりし中ぬ人るとうりを　逍遥院

一所恋

憑恋　風雅　まかて後るものこやとかし偽の契りもすかかふるも有やと　前大納言尊氏

家集　いはるまはすゝかさる契りなしたのむるふかくらるはし　待賢門院堀河

石間集　つくるのなかしそうすてくるものこともくおうしみても　若宗　乙稚胡卜

同　ほまうしれ思ひしるてるいまるせよ侍りともこたのむなる　源仲業

行末のちきりハしらていつまてかたのむ月日を　後鳥羽院

人ハいさあひミぬさきのつき月もたのむにつけて哀なる也　同

中〳〵におもひすてなよひとかたにたのむ心のかきりある身を　逍遥院

忘れすハたのむとみてハ侍よりもそらおそろしきものと見れ　同

あらましもなおいかならむ人とのみたのむかきりもあらはまし　同

不憑恋

（乙宴續字　大永六二廿五）
おもひもさらに里の契りハいみしのゝめのむしのねのこゑかれて　尭空

なほつゆかけるさゝかにの蛛の糸筋にたのみしにおもひてふ　猪苗院

そらのけ世のちきりハよくにたのみしはいつまてふ契りも　同

いまハたゝ文恨ても身ハなにやたのまはねよ人もおもはむ　同

恨しるちきりもいへるこしえいぬ世のさまに　逍遥院

そなたよせたのむむかしのかはりのむすふ人のちきり　同

（明應五十八　内裏之法楽続）
たのみつれさ人の文よりもれさけるいつたのまなる　公興

（文亀二　持従大納言家千首）
ゆくすゑのかたにみし人の契りにかゝる名のみ世も　資直

（七夕歌合）
今そしるたゝいふことのいつはりにかゝる人をたのむ契りに　實興
紹巴

（同）
よそにかよふ〳〵ゆくまはたのむれるにあまるあはれハ　季春

（同）
いつはりのてにさへ結ふやむしたのむもいふひとはたのまぬ　勾当内侍

頼めしもきぬやらりにをしへたのむ人にたのまぬ　称名院

なにとかうつゝの心をみすてぬらん月見の夜　同

不頼恋　亜槐集

とにかくに人のちきりを文にねさをかれぬ後少ぞする

難憑恋　家集

こよひの契りて文よるものもねさそしもたのむかひ　顕氏

憑偽恋　（乙宴續字　永正十八四十五）

偽りとおもひなからもたのまれて思ひしにやせむ　公條

憑詞恋

憑深言恋　（大永二八四）

つらきほしこゝろにもたのむたのまさりけりや　季種

憑誓恋

憑誓言恋　家集

くれたるくの中よりもそれも一言にみえしまてと　宗祇

（亜槐集）
秋ひいのるれなりし人のちかひし神もちかひてくれ

（續撰吟）
神かけてちかひし人ハ身をこゝろをたかく情も頼やたのまん　雅俊

（同）
たのめつよ神をかけさらましき契りハ身ハぬものをちかひても　政為

同　かくしのみ思ひは神にゆつきてもちかひし妹かおもかけへ子し　後花園院

つれなさも神やいさめんちかひてし言葉は人のたのむよみて　済継

一夜とも契しに祈やむなしくて後しれ社の神しゆるさて　後柏原院

同着到百首　一ちよらひし末よさらはましたのむやくし神やうらむ　為孝

同　ちとよぬるそてあくらるふしも神けくもしいよりしたのまゆて　康親

同　技ひうしかねかくらる契ひあくらる花ちぬよ細くたのまん　公條

同　うらの縄みくるせりやうしてしあぬ中なるかいまをたのまん　室治

憑媒恋

為忠朝臣家百首　しらひとの人にかたらふ契のえも祈ことをこそいふ行わか　顕廣

うちとけぬ人もあらなん人伝に我思ひのほとやおもひしれさ　後柏原院

つらきことのはをもたのみて人伝におもひてをまたたのむる　逍遥院

しのふ我あるまゝかすかぬみるめもなる思ひやりのさま　円

一人三百　取人きたらかひらぬ祈さらに行くは人のいひやはらけし　政為

同　人とえよむなしくふるかくぬるなりひとを頼ふたよりの人にあはれ　為廣

身をしるさめのつてにとやしかし中之子偽ともあれ　宣胤

公宴続哥　永正元七十五　つてしる風のたよりは人をもまたぬ情を祈らてむは　雅俊

百首　思ふまもこそねかひぬみもそれなれはみちくるきもちこれか　三光院

憑明夜恋

毎夜憑恋

憑明後日恋

憑人書恋

為忠朝臣家百首　思ひつゝ有そのうちに契りつるそのことよりもあはれなりさ　為業

同　なのめにつき中はたのみてやしけるあらかしわさあたしのぬ　為盛

公宴続哥　年記不知　思ふみよ契りたのみし人つてのりてやりけにたのめしも　義ー

誂恋

推量恋

疑恋

なのかはぬのうしもおもひぬさりけり祈まとおりこあるかけら　基綱

おもしれもえ宗をおもひてみる世のかはりし祈られん　三光院

疑契恋

家集　徒もみよ身にたのみし人ゝゝの人もこひことの葉も明りつき　秀能

同　そのかはしこれも契しかのうらみさみよきみ中也の　為重

手疑恋

石間集　人もほかなるのはさらしんかたみしあなたのあくいられもこねい　為京　實冬

相手疑恋

亜槐集　人も又おもひくらふる行末をともにあやうむ恋のちかひとい

疑真恋

疑戀偽恋（続題百首）　なのりしは程偽のかれしそ思ひ定めてこゝろくるしや　為家

同　はかなしいふ思ひ定めぬ物のつらさよしらぬはこゝろをとめ　阿仏

御集　ちかはれは又いかならんかくとしらぬの人もこゝろにくけれ　後条院

閑草　なのみしとおもはゝあやなむしや人よりも猶しつらさ恋にくるらん　雅俊

家集　あらてもこゝろのなしはすらむまされもあはぬなかれのや　義政

春夢艸（永享八六三百首）　ゆしかさいふひなきいつそかのあるらんのなしてからしな　杜丹花

かいしこゝろたつるも偽もあれやといふれなくこ御をま　雅親

いはなく成つ人よりもまんはいこあるかなさん　逍遥院

うらみしとこゆめして恋衣なとおもあはれなるあるを至し　此　同

あふよしに中れなも似しるもしらぬ夢もしらぬ　同

なこれさらならぬ神けていつもならにのこれゝのをも　基綱

さくらさくたかやしになりにし契りをまたしゝ似偽のまこれるらん　同

真偽何由識　いはりしのあやなしも同ふみえぬ袖なるあまりかくして（いつまても）　逍遥院

（永正三二廿二 水無瀬法楽）　けふまやさきはゆるもの口うしみあまりにしれつらひも（こゝれも）　尭胤

空疑恋　林葉集　あちやしられるふさへいりつらさくいよしやなしふたるぬ（後）　俊恵

欲空疑恋　同　ちろこともいふそてかりし行袖やうしにゝしれおりまもあまし　同

成疑心恋

疑行末恋　家集　こゝろゆゑかかたらやんしと恋のしにかゝるまなむ行末のなき　宗祇

疑住所恋　同　尋ぬへきみちもあらぬるふるさとわかやとのくてゆかしひは　慶運

未逢恋（逢字イ）　文明十六三月八（内裏御月次 後学）　すらへてあまりつへんのなのさへとはつれなき秋命なる　道欽

不會恋　定文明下（予合）　おりひけすいひとめぬみもこ恋をおめしなる人いまさるらん　躬恒

同　あのいこやかやまあるかくもあなれあはしてゆきとあはぬ（君なる）　是則

拾玉集　たてあてのよそにの中ふてつてこよひつとやまぬぬかなさん

不値恋　たつしやみつ一夜もなしも儀よく待ておくらる月には　持為

尋不遇恋　家集　さしてはしるらぬしちのかひもなく恋にみてゝ人のまつる　雅世

続集
乙宴続哥（永正十二二廿二）
手尋不逢恋 家集
忍雖逢恋 春夢草
依恋雖逢恋 新葉集
雖逢恋 乙宴続哥（永正十七六廿五）

あらはても猶逢事の白雪とむすほゝれぬるゆくゑしらすも 順徳院

しらすやは浅茅のかくしられてもねやはなはしらぬくりはく 逍遥院

ゆく人しおもひしらは人やあはしと恨むらねんころおもへは 称名院

みるめなきうらみつきてかくしひのおもてうてくよまよねはん 入道二品親王尊性

いはまもる下の氷はしたの露ゆく妹りしを 牡丹花

あつしめのゆきかくにもすれはそゝのくむのや人のいのちも 御製

いとゝしにうちとけもせぬ人のあやにくにつらきうちぬるにあるに 後奈良院

あしたをまつともしられぬ人もやましかしやちきらしけふ末のよ 貞敦

はかなくもあふをまちしやつもの契れと君くりの頼みかな 實香

うらみしもうれしきよりの下帯の命のうきにもなりてもかくや 元長

はせしたにおもひしらすやうちとけてそのむくひかな 永宣

年月のおもひしるしはいつはりのうきもかはらぬこゝろはかなし 公條

さのみやはいつはとはて身の命かはらぬかなしさ 為孝

本のこゝろにあきてかへてよもすからやこゝのよにてもこそ人やうらむ 隆康

うちとけて命やつらきにこゝろにそゝまもしらぬいもせていくよも 為和

ゆめなるやしひのをさき袖はちきりてよ猿の玉の緒とくらくて 為富

あしてかくなしぬ袖とめくれなかいつつかの契ん身のほとも 持為

世よつきぬ契り命の中やてゐにてかりそめうくてぬき 逍遥院

まくらにはなにとちきりてぬたのめしなかくるゝともしらで人かなる夜 政為

近不會恋
近不遇恋 家集
見不逢恋
雖見不逢恋
聞不逢恋 百首
御集
紅塵灰集

いさしらすやあはうらやとはしのふ浦わのみるめたに物おもひあまり 雅兼

宿たにもおもひいてるやよしさらに月のよりはかなれかけさえて 逍遥院

なかなかはよみしふるきはあれなから月のよにてまつあはれは 三光院

契りしはそれのみしむつまりてあはぬのおもひの夜のあかつきの 寂蓮

はる夜はへよなかれぬゆめのさへへとめぐるまねさるみやこある 後花園院

いはまもていつはなりゆくあはれさはめかくつれなさそへ 後土御門院

年月はみゆるいかに舟のこゝろさしもみしらくりむ 持為

こしはまくらもたくるそ椋かくみるよの花つくさるら　後柏原院
ゆふしにもあかなくらむすゑ稲ちりすかたつくつてあかれと　逍遥院
かひなしや花しらるる秋中にある中にも秋の袖はしるても　政為
乙宴續哥（永正十四四月五）しらぬ中にかく後さくあかねさ似よてつらき俤めら　秀房
こよひ月はみるれるまて松にのあくてたのむひは　称名院
あられかくたつとみしかものをたのみしてかるつまのみに　三光院
久隨不逢恋　林葉集　あかきあしの根みしてうつらよといかにやまねのかつまさは　俊恵
家集　みゆきをかしてひ柳なもとめつゝまたはなはかのよそに之　頼輔
すいて
両違恋
語和不逢恋
詞和不逢恋　林葉集　玉章をうれしくことゝとてみるは偽のことのたつさは　俊恵
りとよしやとこのくるしやくるかみぬるよそてぬれつる枕　逍遥院
なはさられしひそつくはれしあいてるやくと恨しきと人　政為
一人三首　あさまれのころあくるにやつゝるしひぬへきそてなるとかくらそと　後柏原院

このはかなくすくもかよ行のさすらむかへうつなりめや　為広
家集　うきねさてはかなくしみすまもとひ草はもあしぬ秀かくしつりに　邦高親王
乙宴續哥（永正元七月五）いたくりの人ねしさをたのみきてあつまちてあまはつらきん　仁悟
大永二八四　まはさらにるものむつぬえのくぬれも恋もうかれる年もつはら　元長
百首　とひ俤ないるとをもはさまいすさこゝもれいて我すきにもうきさ　三光院
怨言不逢恋　大永二八四　うらみをやとらうちまのことれなたにつしかさるる人のもてなする　條
苦不逢恋
契不逢恋（過）　家集　契りすにうらみをそしあひ人てたのもしとはかなきをゆえるも　有房
同　まいれのこすもしひとてもいくれてかるやまやかさをかくへ人まち　行宗
いたくりしもしてたのまれるさよろこぶまつかさるあまうかるを人　為信
今撰集　さらしるそのたらしみ今きてもなのむすびていふのまりつる　四条宰相入道
憑不逢恋　なのあはなとたのむいひのすむひとすあるよはゆるふゆる　政為
乙宴續哥（永正六四月五）まつといふとのあさにかるそはかくさあるあるの月のつ　済継
乙宴續哥（永正九四月五）いたくりやなにあらまをもたのむこそことは人まつしみそてあなき　言綱

一人三片　いつよりのなみだのかずもむつましさくしめも今はたのしやと　政為

うきわれしあまるゝことももろいく白たへの袖ぬれまさるまでの　称名院

なみだつゆはわすれしはおもひねの夢かなにかはあふよしもなし　為和

憑不逢

偽不逢恋　家集

いかに見んうしろてなき人のことのはにぬく玉ぬらしけてをおもふ　俊恵

違不逢恋

誓不会恋

行不会恋

来不会恋　為忠朝臣家百首

あふてやいまこそつゝまさるゝやさやかにまちえたなしぬくとす　顕広

摘題

まちわびかくてうらぬる袖を程ふけるよひの下ひもと　道経

御集

契りおきし梅よりもる中に逢ことあるしのうつゝとしに　後花園院

享禄三三月一

やひくらもやくつしすゑれぬまゝに一よれいつとしに　尹豊

同　享禄四九月五

いとゞまたなぐる浪にあらかしき逢をはたまかばいとまん　範久

同　乙宴後宁　年月不知

こころしいはゞかつゝ人もうしつらでぞ我ぞなきにけり　兼良

くれゝ　不遇

稀来不逢恋　家集

まれになるなかこそあまのあり衣かさねもかひなき中れこゝに　邦高親王

同

我はへてかくうらいあひしらぬへにけぬつゝ猶文ひとをひけく　同

通不遇恋

隠不逢恋

不逢後恋

いくかくれなきあはぬひとつゝしまれ月やあやしむてよをとゞむらむ　逍遥院

隔物不逢恋

有隣不遇恋　林葉集

さてもさはなれ中垣のへだてをもやみそれしかくあひみらん　俊恵

並床不逢恋

久不逢恋

恨不逢恋　石間集

何しかは又こそあらぬつらさをも思ひしりしか　三条前内大臣

身のうさもかくしるいとゞもがなに程さりなんむ　政為

今はたゞ思ひしたのみてもあひみん人のうきなさに　逍遥院

相逢是何日　永正二二廿二　水無瀬殿法楽

あふことのかなしきあふくる月日ぞ人にそのまゝぬれ手の空　道永

返迮車恋

深夜返車恋

不来恋

憑不来恋　林葉集　よのつこさりしよにていてきしと夜ふも君かゝくとそあらぬ　俊恵

家集　契りまし頼むるあてにわすらるゝ身そつれなくてあれ　顕季

日夜不来恋

苦道不来恋（公宴続哥　永正二年）　逢ふてもゆるさむかくまてもうらくこゝろしらすやかよふ　実隆

来無実恋

来不実恋

他行時来恋　大永二八四　むなしくかへりてたのむと私もかちひぬる所はいかなる　為和

不留恋

（そしても不留とそもと）

夜不留恋　家集　なれぬる年に一夜あふたもつのよはなきそのねりの袖　資隆

関なかるたのめの人ゆくよしなとさてもくは道ゆや　後柏原院

波の音ふかのことたのむとや秋のねぬるこれ袖よまて　道堅

隔門恋

逢不告恋

門をすゝるにいふる恋

逢門不入恋　大永二八四　死ぬるをまゝゆるして我門のたゝりとよそに人をうらむる　実香

不開門恋

立門空曙恋　大永二八四　ことうなきたゝてあける秋の門さしもやおもひなりなむ　後柏原院

遠約恋　隣女集　契りたえいつくにかあるあふせものまつよかねたるそのまゝ思む　雅有

家集　木のしたゆくの道路秋ふけてゆくても人をまつらむ　為重

（公宴続哥　寛正四二五）　ともこむといひしのみをもまたそね後ゆくへもなく人のこゝろは　政長

遠約来恋

当夜遠約恋　林葉集　とこなはなかりつる神よりそしの後を隠つるや　俊恵

毎夜遠約恋

媒遠約恋

中人遠約恋　林葉集　いくたひか中ゆくたえの九しいなよゝもかくそ人すゑさ　俊恵

延約束恋

延約日恋　林葉集　そのころと契しかれりとのかゝる夜ことにたへてまつる命ならむ　俊恵

家集　あふことはけふとてさりしものひぬまもあすもあさてもやすらひにけむ　惟宗廣言

後々延約日恋　林葉集　とくくしてまちこしくれにかゝりける我の命もめくるくれは　俊恵

乙宴續草（文明十八五廿三）　はかなくもいふ一よ二夜のさりくてはゆりやく人よおもひゆるさし　逍遥院

いひしそのむかしきゝふに文つくりぬ日数まてとや　季経

偽恋　家集　きかて猶たのむこゝろをあはれ人もいつはるをえてあるよしもかな　慶運

同　今は人よろそてめつらしに誠ありしき人まなとおもふは　雅世

內百首　うそらうたのよの中の偽なしと定行し人そかゝるこそ世　後土御門院

こふくに此世にゆくもやくしこそ定なりの後人にうつし　後柏原院

末ぬるまつる月日とかすみても猶偽しおりまさすくゆや　同

偽しつもおさはしのかゝしくうたにもたのむこの行立る　同

まつくてころまもしくるもたのむつまからるてかりのむかる人さ　逍遥院

ねりよからかていひ人をあくりのおもむのすゝしやあるかな　同

うらみられることはたのめしかりそめにもあるなことを契なき　同

同　そのかみしれおもひかねぬるをとしとし偽のなき世ならは　同

一人三百　偽のかゝることゝしらて律義にいふる言の葉さへにつらき人　為廣

同　あまたゝひきゝふるこそ偽のなさけにつらきまたのまれぬる　政為

永正元八十六　御點取　ほしられさつはおもひし言の葉にとひとはみくるさへにはしさを　済継

乙宴續草（永正十二十四）　あふたのことわりもといひなしは言の葉よりもうれしき人もまたあれ　邦高

同　まことしき言のかゝることしいふに文こゝろにうしとたゝ人　後柏原院

さらたぬもあまる命ありてたゝ偽とゝらしゆしゝらん　公條

いふこと人非よりひし偽人のうきあさきうきこゝろうらみ　政為

偽契恋

悦偽恋

悦偽言恋　大永二八四　かゝられこゝろへもられし偽のことのくるしけくさらにくて　後奈良院

共偽恋

偽教在所恋　大永二八四　ゝれありてそこしはしへし偽はあらてぬれしの名はこゝろや　季種

恨偽恋　續撰吟　るゝかなしぬせめこゝろにつゝしくやあるゝことのまもとさぬ　亮空

いつはりもたひかさねまつゆゑんのあふたのみしいつれ偽ならん　尭空

哀にしのこゝろにたすされて偽こそみゆるなりけれ　称名院

怠偽恋

はかなしやなにゝつけてつらきは偽しりつゝもあふをまたるく　為忠

（為忠朝臣家百首）たしかなるゆふさへにたのめてもこゝろにもふて偽つゝむ　忠成

同　くしけれとねさめにたのめやいそくは偽かくてもたのむかさうさや　顕広

同　そのひといなけれとしもれとひあふすそこをそゝきれ身さへこそあらめ　為業

同　るまゆへてころあゆへに松しゆやいつまて我偽ら神あらはにらん　為盛

同　たのみにしたのめつゝきゝれしいつはりしめしつゝめて　盛忠

（二宴続哥　永正元七十五）かくる文をもあらはにそのみものうしまたのかそあすよと　宣胤

さしもかくまてしゆるよのこゝろとりとくもかはるかはいかなれはうき　三光院

待人恋

つらくもあるかなこのつかゆめとおもひしにたれ　同

（堀河院百首　第一度）こひくれは中なかつゝみて待こしにたれをまちしれ　顕仲

同　まちくてくるよの月をしら人れあらんと見るの月をとゆや　仲実

同　そらくらきよの床に人待したゝ月のさめはてぬき　後頼

人待恋

待かねになかきよをたのまゆくまやかはりとしける　逍遥院

人嫌まつ

いまこんといひしはかりをたのみにてまちつる人をまたぬよもなし　時朝

待使恋

来待恋

手恐待恋　（御集）まちかねてもねぬ夜の時のまはあはれさよふけぬ一夜ともなる　花園院

不憑待恋

送書待恋　（亜槐集）おほつかな我書つれはそのまゝにいつみつらむさよの中ゆく

（二宴続哥　文明十八五十二）ゆふくれもかりそめにく山里のきふのみくし文とあやしき　親長

契待恋　（御集）まつのかひいるへ大方にゆゝ見えねて身よしむ人あひのよ　亀山院

（草庵集）らなかくもなかりおて待のまつあさなてあからよんか

同　さひてしおもへるさへるみさらにいひしに人のゆふをかれな

（家集）さもひふにたのしきふかくらやそれともさらしと　尭孝

（百番哥合　宝徳二八十一）人もわからみしゆるめむひなたおほしたに待夕くれ　権中納言資任

同　さひこひすむそいひし云ねなと一くる程たのまつゆめ　沙弥祐雅

同　かりのへしみり秋くもてるにゆるかくいくまつのまさ　為富

同　そのあく後ためうしまたに待てけぬつもるほとつるらんまて　按大納言

ちきりこそなれもたのみの後のよしからはさても人はおもひすてゝて　法印堯孝

おもひしも待あかしゝ月のよしひとりかねていつはりもつらきうらみや　後柏原院

かへりたにとはむしもなく松の戸はしつ心なき月くらしつゝも　同

まちねにもとふさるゝ夜のふけゆくもあはれそはるかなるしもにまち　逍遥院

あかしこそあまたちきりの衰ゆく忘れしおもひはいまはたけし　三光院

待契約恋　拾玉集

ちかふるそ秋の月いよしむかしのゝしるしありくかあめのふる

契久待恋　家集

若やくはゆくやそれん今くるといひしけふのつまのなかはて　季純

待憑恋　林葉集

たのめおく来ぬ人なきもあはれ心にてこそたのむそれぬる　後恵

久立待恋

いなつまはゆふさへいつるひさしく待わひてそ待しるらし　雅世

不堪待恋　家集

うき身にはおもふこともなくてとく待らん中つへにそのさやは　同　雅

續撰吟

今夜さてたれとはまほしかれとやいのままならすぬへき　政為

むなしくて明ぬやしらめ人の手をとこめうたゝねまなくぬる　済継

身のうへに道のまちのそれをたのみても恨なはてゝ待夜なある　後柏原院

さこえて待わひやまたてもくるしき年のこゝろせも今はなからん　同

待侘るこのゆふくれも待今はとまらなにそのはてく　同

云宴續字（此三十四十九五）

ゐかつらきえりかとの恋しさいふもはよわのうつゝをひる　同

こむせよとたのめしあとはくれはてもなほこゝろ待わひつゝと　逍遥院

寄判百首

よみかはる人いまさらね夕風よみのあれの身やとはれめる　永宣

同

きえ夕身をさきらてもなほひるさたにあはるよしといひても　為孝

同集

むなしくてゆくりやたまん手をとこめ夕よるさえなきくちな　済継

偽なれ我のつゝけてすくるねの月まさん　公條

待そしはなるゝすしかの身をのこしる行ゆら人かる　雅綱

今いくかうきみつらねそのうにけ夜いて月はつゝん　称名院

ちきりかれ秋やゆふへのいさしひとりふくやてに月なき文める　三光院

暁待恋　草庵集

とはれねは中々つれなき鳥をたつさへとてうちきたさらん

夕待恋　同

まちかねるは侘しつゝもゆふのねくれぬるまてせかなとかね

春夢草

ちきりしいつこも行末のそてにむかしの夢をかはらぬし　牡丹花

待夕恋（乙宴続千 文明十七四五六）かすならぬ身をもなをは中々にたのむるかたにまたるゝもうし　言國
家集　けふもまたちきる人の夕くれはたのめもなくて入あひのかね　為理
同　ことわりもあらぬおもひをちきりてそよそにたつぬるかねのこゑ　同
同　つらからし人をもかれとおもひしにたのまぬ人のうきうらみかな　同
契夕待恋　家集　たのむまて人のちきりをいのちにてまことしよの身をしられぬ　長景
夕陰西待恋
薄暮待恋
毎夕待恋　御集　いのちかる夕もあらまし入相のかねのおとつるゝさにも　後二条院
家集　月はよしあまてもみえしまてとたのめぬ夕くれのさ　為章
同　わすれし入あひのかねやけふりつゝまつよのまくらおとりつらんと　常縁
続撰吟六　一よとてつきぬさらてもちあれしくらき白よの庭のまつゝと　道堅
（乙宴続千 宝徳六九五）つれなさもつらしともなくたえはてぬまたたのむる人とまつらん　永忠
（同 文明十三十八）いたつらにいく夜かさねんまつの戸をたゝくしとしまよ　一位殿
待夜深恋　春夢草　さしむかふ月に来ぬ夜を深かし待ぬしねるそれかなしくる　牡丹花
深夜待恋
深更待恋　ふけゆくをまちてさひしさのあはれけふにまさるこよひなりけれ　逍遥院
終夜待恋
待月夜恋　家集　あかなくに待こゑのくもりきえてのちまちこよひは　光頼
夜々待恋
歴夜待恋
毎夜待恋　新葉　いたつらにまたこのよひもふけにけりたのむる夜はもなけれと　嘉喜門院
（大永二八四）こひもせぬ雨夜ならてもいくよかは待とすあはれとはん　季経
連夜待恋　新葉　なのめにもむかしきかはにおもひそて又この月に袖やたれなる　中宮
家集　いつはりのたのむる事のいくとせもまちよのくれのまたるよな　兼好
（乙宴続千 永享十一六四）なかくまちつるまくらにしのふよるたゝこまぬなかにまたて　後花園院
こよひともたのめぬよゝのあまたたひゆふのよはたのむらん　逍遥院
夕月よ出るまつのまよしつれてそこぬ夜しらしねつれなき　三光院
経年待恋

橋上待恋

待遠境恋

稀待恋　家集　よしこよひひとりねぬる床をしもいさのちりをもはらはしよし　為理

待不来恋　同　かつまさん契りいつまてに年ふりていなふしの山松はまたるれ　為家

紅塵灰集　さらしなやこやつまのひもゆふくれの契はいかに人のまちし　後京極院

待久恋（三条續守　大永元十五）　偽としおもひなからも月はまたしやはれもやそのつれなさ　實胤

待空恋　家集　夜くのあるにまつくかひなきやみよの袖にそやとる月の　為理

草庵集　待わひぬこよひもけふのあるのねみうちはらはれとまたに待ん

続草庵集　えあらはまつとみてもたにいつはりにあはよさて契るのくれそまたれ

同　いつはりと月はかりにかつよその空ちりしつて夜になりにけり

家集　うらみてもまたしいかなるやすみつはやまとのすまひをすきすきん　平常縁

亜槐集　ちきりの末はわすれなれとみてくつきよあくるまてしのはぬまにまてし

同　人をいつくすこともたぬ月はさいしてそれもみ待ちこまち

続撰吟　あひそしもいつみつる道なん待ともいつはりかねのまさて　後柏原院

同　契りにしまつ有明の月をたにしらすなきりくをまちいてん　少々　逍遙院

いかなる人まつとすくるはかりなきたのめしかひしまさるかな　後柏原院

待わひて一夜二夜いつかすきぬるともまたしこひしと　同

はかなくそたのむ一夜もまつてしまつとしのてあるもの　逍遙院

待人もとはぬわさとうくきさ鳥のなくねよりしくかなる　同

さりともとおもひまつには朝まての露の身をとまたせつ　政為

待えてもこころくるしもおもはれしこしひかへてあかしつる　同

一人三百　あさきりに一夜二夜は待しかはまたれこてなにはしはかる　後柏原院

同　まつるねの枕のうちにかさしまて夜ならのそれ夜もよしまれし　済継

恋しさはまつわひすきて宿のほつる花ともあらやとしれ人　称名院

待夜空恋（三条續守　手記未知）　まつしれみよしつらくとひとせやくもこたひを秋ふよしての　元長

待空頼恋

絶後待恋　御集　待わひしあはれいつをかはかれとくるとあはしわかるの月　後奈良院

遣車待恋　拾葉集　中々に車のおとはまつをすまぬまてここそ待わひかなれ　俊恵

船中待恋

會恋　家集

こゝろのそこ打返とのこるまつられ人しるなし夜のこ縁まれ　義政

いつはりの逢夜の枕しきかへし打出しはのさとのまれなき　後柏原院

まちえつるよりしがたへんな世をかゝれわつゐさ逢をみやしや　逍遥院

ときかるよとつゝそしの夢かと思ふ月日のおもしさ夢さ　同

うらふのとかれ夢さぬゆとくて今やあはてたよる夢枕　同

待まるされうしひつ今はるる夕よ逢にぬつくろうる夢をし　政為

（内裏女中御歌合　文明十六三廿八）さとの世すむちとゆしかしも下紐のとくる夜よおもりえぬまそ引　後土御門院

（明應五四五）あひみてもえやつゞくゆひのかへしに結もめおもりひる　邦高

（聖廟法楽　天文十三十　千首）いまてかくよるまくらのくし髪みあるちひのむすふとも　後奈良院

俄逢恋

るそぬる夜の中にもなくくぬ夢にまたのくん　逍遥院

（乙宴後守　永正十八四九五）かけてしもおもはぬまくの下紐はけるしくてあとしもみ　康親

たのまれよたのまぬ夢にあひみまさくぬ人のつとおりく　親長

俄初逢恋　百首

あふまでもつきせみちかきてあわゆけやかるる　雅運

逢恋

（乙宴後守　文明十二十八）定めなきこゝろ秋よ頼みつゝやくたに可夜のきみをとは月　尊應

（同　永正十七八九五）咲くらそしたのむやはたの小萩花つゆのまとしむすとひと　尭空

（天文七六九四　百首）別来とるのむかしたのまるらんともぬ別梅して　雅教

白地逢恋（乙宴後守　文明十三十八）うけひるも我こゝろんるをあひたゞよるはかりる契るを　栄雅

尋逢恋　家集

宮ちのゆかしあるをとるゆるさてぬるよもすらんお頼のこ　慶運

道すがら逢りとのひとつわのこゝろはなをやおかりの　逍遥院

契逢恋　草庵集

書ひとゝて人のゆくこれ契り我も別来けふへてたのまん

（後草庵集）うつゝてはちぎりしかれ我まゆつ契りかゝれゆか中る

手契逢恋　春夢草

うし月残りしかよ有とうてあつへやりや閨のゆ彼　牡丹花

逢契恋（乙宴後守　永享十一七四）契りかふそしつ夜し別枕かくにうたるもたのむしなると　親長

不慮逢恋

まつらぬくむかしきくとも逢ぬとえやさすす枕うらむへま　為信

待遇恋　家集

別うらる枕行てとこる人まちつゝあすうるよ紛うん　後柏原院

祈逢恋

いのりつゝ契りよるよのあすは逢たにむすふの枕かくる枕　逍遥院

おもひかもこれら契りいのりつゝあすしる枕のいそうた　同

あふ事を祈しかひもなくてまつかみは松のこゝろをしる　政為

年月の祈しるしとへはこそ神のやしろに歎かぬるかな　同

いのりこし神のいつきはなかなかにかけてあふせを結ひそめける　称名院

あふことの末はいかにとかけてこそ頼めるみちの祈もしなん　後奈良院

（公宴續百首　永正十六七月廿五）いはねとも君かよはゝと宵々にまちしもなにゝなりけん　實香

（同）うき物のかたらひし命さへ今日こそあふせの祈かなへる　元長

あはてのみ月日を祈しかひなきに今日やとおもふ心をそまつ　重治

からうしてかやいはむ年月をあらましのことの葉のみそ　永宣

ちかひとはいつそ頼めし年をへて神のみやしろのまへの松枝　公條

みそきせしおもひしるかなあとも風とふくならん世を　為孝

頼むへきもなし林葉にかけてあふせはたえぬ祈やいのちも　康親

久祈逢恋

行遇恋

年々會恋　林葉集　月毎のはてなる夜とはちきりしを年たちかへりけるかな　俊恵

毎月逢恋

昨艶今遇

暁會（逢）恋

暁遇恋

及曉遂會恋　家集　たのみしをいかにむかへてあふ夜はに時しもあれとそらけぬる哉　政

林葉集　明るまてかる鳥の声しねなかりそめにあれてと思ふ夜の哉　俊恵

早旦逢恋

毎夜會恋

夕遇恋　石間集　待のまに入日おちてもかけてあひきたれるすゝめ　大中臣具氏

夜逢恋

一夜逢恋

初夜逢恋

夜深逢恋

逢夜有妨恋　家集　これもそれとかへる涙もともかくもたのみをかけてたのむはかなさ　資隆

隔一夜逢恋 大永二八四 いさしらすうかれし宵はめくりもならにくる月のよはゝら 宗清

隔夜逢恋 林葉集 よかはやも二よしたよも節竹のよはまつかゐあはぬらん 俊恵

経夜逢恋

逢後恋 春夢草 宵つゝ夢路にかよひし中ゝにあひみてちる夜の衣よ 牡丹花

會後恋 左代集 あふまてといひしほとは物思ひの風ゝ程いよゝ乃も新し 忠岑

相逢思恋

隔物逢恋

辞後會恋 林葉集 あふ夜を又いつとつゝまことりの後の夜ぬれふあれ

家集 ぬまてかく名にかゝりつゝ後にまくあふの夜乃ゝ山 為理

乙宴後奉 永正八六五 つれなくもしゝ後の夕ますてたのむ人もしの祝 元長

大永二八四 なくなくとおりにひとて...にもあるあたたかきそ 季種

會後恐恋

逢後契恋

逢切恋 亜槐集 あまてりしおりしもあはれまのたゝされんことはしなくなる

春夢草 ちきりてあひみるほとの一夜よもみるまゝ後く捨てけり 牡丹花

まつらてや首いおはせしりとかりてあまる小夜ぬる紀 逍遥院

筑後国高良 法楽天文八九五 この何侍る闘ふはあてゝあはれてとは後のわかれん 資時

逢後切恋 続撰吟 わかれしもわかれてあつる一よるの待くれたるのむつれをも 為

遇後顕恋 ちきりそめしちきりまれ形見ともはらさつゝらとも 逍遥院

名はかりてあふ恋 家集 いとゝ猶しらさるはさくはあはたえてあひみしそのつらさ 建礼門院右京大夫

字他名令逢恋

逢後名立恋

會後隠恋

逢後 非逢恋

積逢恋 ちきりつる月日のかすもおほくいつしかもあまた新まつるる 逍遥院

適逢恋 おもふにもねよるしかへるゝは小夜衣かれるゝ中ともうしみはや 同

百首　契りありし又此ひのあす年よりつらきをむ人の心なりけり　政為

同　わするよとうつりもかはる人のこゝろはよそになるらん　済継

同　うき中のかよひちたえてなかなかにあふよもうらみ明かさすゝしき　公條

ねぬるよもうらみにこそは明かさめ夢さへ絶えしはてのうさをそ思ひさん（あかて　小忌）　永宣

適會空曙　家集　小車のめくる床のみおもかけにのこりて明るこのよかな　入道二品親王尊任

邂逅會恋　中々にかくてあふせの人はしもねよとは思ふしきかなき　逍遥院

暁々逢恋　家集　夢よ今宵はあはぬ心をなき人にたのむつきよりつらきものかは　平親清女

（乙亥続千　永正九四十五）　あひみてのさむるよりまけつらさなく恨みてもまたいつはらん　尚顕

稀會不絶恋　乾元守合　絶えぬる情なきにたえむ人をいかにわするらんもえすつらさね　師信

同　うきながら神もゆるさしあふ事のなき身ながらは中川の水　定資

きるいくも忘るゝ中のあさ涙さへのゆきにたえしを　為信

されは又さひしかひかきてはつかしいくひぬらし契りかけなん　為有

さえそふる月に出てて中を見つへき程にあひすなる　為景

大永二ノ四　中よりいつかはてにあうまてはわすれそすりあすとのちのの月　為和

稀逢絶恋　家集　まれにあふ人と見えぬ逢ふれはにすなれてゆえありてまたそまた　為理

同　家へひとなかくかちつらくは絶えぬひとまつ月はさそみやなるらん　同

會不盡恋

物舊遇恋

忘逢恋　御集　まれまつるいくよともなく契りきて又はわすれぬ心なりけり　順徳院

逢恨恋　家集　あふことは恋ひてのはなしきふこゆへ人はすわすれにて　沙弥蓮瑜

中絶後遇恋

絶後會恋

絶後會逢恋　御集　いかにして契りしうれはあるまのおもひやへてそかし　後一条院

家集　ちひ出てそれもこれも嘆きにかへし中々つらきかひは　為理

同　行末をみてかへ人のうきをあらはしをとものつらきをひとり　同

みちのおくにあふ恋　同　うきの涙あけしら舟ゆめすらむかぬし人のつらきをひとり　俊恵

逢門恋

近所逢恋

山家逢恋
於山家会恋
嫁会所恋
人逢恋 家集 ゆくなれぬ人をしのびにあふせをはたのめ・なるれさこそいひけれ 季経
恋遇人恋 同 あはれまつのふかきちぎりもわすれつゝ人にあふ夜はみてけれる 経家
卜遇恋 紫禁和歌 神かきやみわの杣こそしるしなきむかしのすがたみかへるそや 為広
一人三臣 なきくやとくれまてとふかきうきは夜すさみのつくしみもとつれ
逢夢恋 家集 思ひ寝の夢のうちにもあふよはなかりけりつらさもしれて 頼輔
亜槐集 ちぎりおきし床はかれゆく夢たにも昔の面影なかそひそへて
同 忍ひつゝあふ夜もさめてさすかにもふかきちぎりのうき夢をさへ
続撰吟 よそにても思ふあひたのみる人の中には[illegible]夢の跡りは 後水尾院
同 待えても人をかくしてあひそむる夢の行末を猶いかにせむ 基綱
昔しかあひし夢の人のうらみし[illegible]袖の上をさへ 逍遥院
夕まくれひとりのみなかむるならむ山の夢のやまかけ 同

恋しさの何かくさ夢をさへひとしれぬ夢は夜やさめぬとはかなくね 同
おもひかね夢のうちにも夢をは[illegible]むかしの夢のまゝ 逍遥院
かくしてもやはりあふ夜の夢のゆくへも思ひあるかなれ 同
忍ひしのひの夢の夜をさへ夢ちなき夢の夢には誰をかよはむ 政為
一人三臣 まつひえしくれとおもひの別にはなき心を夢をしけし 雅俊
同 つれなくもある夢はとりのしまひしまにしては 雅継
五十首続歌 寛正四二廿五 めくりあふ夢は毎夜新枕かりなれぬる人の契りなり 雅行
五十首続歌 文明十二十廿八 たのしみて袖ふりかわし夜さへありあけのあはれ 雅康
百首続歌 永正七十一十五 夢なくて何は人の恋しき人のうちもあはぬよはなきかな 貞敦
同 よしさらは何とふなしてさめぬれはありし玉のをたえなましかは 宗情
夢会恋 山家集 会ふまでと夢ならてなにと思ふらくいのちと頼むゝつゝあらは
明日香井集 こひしさにあひみる夢のさむるときさめぬ別かなしかりけれ
家集 ちきりてもなほさむしきものとはふしくらやみのゆめをさへ 兼好
再逢恋 紅塵灰集 ちきりのあはれはいまのこころは夢ならむさむるよのなかのわかれとなれ 後水尾院

夢中逢恋　家集
今さらも名殘はつらしまた夢ならぬうつゝにたえしありさへなく　道寛院

御集
夢さめて名殘まさる人なる世中はあふことはすくなかりし命か　忠度

家集
みる程は夢と無きちぎりけのさめてそならふつねの床　後条院

新葉集
うちとけてねざめは涙してこふ人のいざさをみぬる夢の契り　為信

同
なみださへしめぬる袖は夢にみえし人の面影やかる　等持寺内大臣家中納言

寛正歌合
まくらとも夢かなしとおもかけはいかゞまつらんにあふとみえつれ　一条前殿　貞常

同
まてしばしつらしといふもなき人は現み夢よいつかゆつらむ　教季

同
あらき風たのむかなしさあふさきは夢ぢばかりも現の通ひは　親長

同
いつまでか夢にも人にあひみんとこそ深くは祈らむ物ぞ思ふ人　季春

同
はかなくもさめて行く空にかへるゆめよりさきに絶えなむ夢のちぎりに　教国

同
あふと見し夢はいかにたえてつらくは後のうつゝなれ　泰仲

五百首歌　寛正四六十五
あひみしも夢路はうつゝにまさるとは人のかへる人なりける　長清

同　永正二年
世のつねのあはぬみはてつらぬる夢でも中ぬらさけるとは　宣親

一　相對如夢寐

羇中會恋

逢無實恋

卧亡實恋

逢不逢恋　林葉集
人めもるおなしふしにはつらきかなおりゐしよりはゆめぢのみせり　俊恵

語恋　家集
かたらひてよもすがらねしたはいつとはなしのあかつきかな　慶運

無二相語恋　家集
さみしかしつゝのまつ一夜も夢にたゞくれはよかれ　道寛院

並枕語恋　内裏九　文明十三
うちかたらひもなく涙とまらずしてあはれとや夢のうちの　隆蔭

同
あやなくも枕の友は夢にいつとこそあれ　中院信位

同
いつはりと思ふ程の夢路のなかに枕ならべて　勾當内侍

隔物談恋　五十首
こゝろにもあらでしもあやなのきぬのへだてはなけれども　宗清

夢中談恋　續撰夜集
見てもまた夢路のうちのかたらひも中の思ひこそ　後崇光院

不語後憶恋

不語絶恋

欲別恋　家集
後朝の今はと急く人よりもあかぬ別の涙なりけり　為理

無窮集
あふこともなくてや恨む別よりしたふ心ぞ

同　衣〳〵のわかれに袖をしほりつゝ猶なきかぬる初音なるかな　牡丹花

春夢草　うらみても出てふる枝の戸ほそより残る有明の月のしら雲

三百六十首　寛正四年四月十五日　いて見しも出し人の袖のなみたに月そやとれる　政為

文明十三年六月　ゆめにやあかて起わかれ行人の袖をかさねて残す有明の月　後円融院

人をおもふ心　業平歌集　おもひねのうきにかはりて別れなはひとり残らむ有明の月の恨てそえれ　後普光園院

逢別恋　おもひきや行末かけてちきる夜の人の別にぬるゝ袖かな　雅世

忍別恋　家集　いまはとて別るゝ人のうしろかけ見おくる袖に露そこほるゝ　基綱

後撰吟　永享八年六月廿三日　百首之　待わひしこよひの月も別れては有明の空になくや鳥のね　道欽

忍別恋　亜槐集　起出る人めもつゝむ別路にしのふ涙の色にみえけり　後花園院

人めよりみちにしるべくかくれつゝ忍ふ別の袖の露けさ　道寛院

おもひ寝の夢にさめても恨あれはいかにかへらむ人の別路　同

三奏抄　永享十一年七月四日　さためなき人をうらみし別路の袖にのこれる月のかけかな

明応七年七月四日　五十首之　さらぬたにわかれはつらき有明のつれなくみえし月そうらめしき

永正元年八月十六日　御点之　恨みつゝ別るゝ人の心をもいかにしてかはしらせそめけむ

忍別恋　袖のうへにおもひもしらぬ別路の涙かくさむ有明の月

わかるとも心はのこるいかにせむおもひたえぬる別なりけり

忍別恋　家集　かへるさの人をはつらくおもはねと別のとこそ袖はぬれけれ

亜槐集　長き夜も人にわかるゝ鳥のねはなほおとろかす夢の名残そ

後撰吟　かくはかりうきをしらすやあかつきの別にくれて帰る人の袖

けふはまた人の別をしらすしてなくや鳥のね明る空かな

厭別恋　三百六十首　寛正四年十一月十五日　人めのみいとひし床のわかれこそ身をかへてもやかなしかるらむ

契別恋　後花園院集　かへさまよふ人も別にはかねてそおもひ契るかな

契別　契りしは後のたのみの月なからわかるゝ袖に涙おちけん

手別恋

惜別恋　家集　わかるゝも別のこともなかりせは人の契りもあらしとそ思ふ　為理

同　まれにふす夜のまも暁の鳥のねにおりしもなかるらん　幸家

亜槐集　うきをしふかくそ地しみよもうらしかくてや西にあはてやみなん

おもひをもうけすて限りある世のならひにわかれゆくそ　逍遥院

わかるゝ所かなしき身のほとにうつくしき家の身にしらぬ人　同

又なれぬさめて別めて限りの心にきかはうらみぬ　同

つらきは限りある今も別路のなけきはなをかへる人　政為

天三七　おもひあへぬ人はつらきをあらはにかくてわかれ　為広

永正元八七（御点取）　いかにせむわか身にもあらて人の世にたのまんとすを　邦高

いかにせん所に定めて人のこゝろもたのみなきわかれ　公條

互惜別恋

惜暁別恋

朝別恋　家集　いとをしむあかぬ心にをしむわかれのつらき名残の別路　邦輔

深夜別恋　春夢草　いかにうきわかれをしらてまたねぬ夜のこゝろの　牡丹花

不逢夜別恋　御集　あふことはおもはくて別しを人やうらみん　後奈良院

深更別恋

恨鳥別恋

恨別鳥声恋　（古集句題百首）ふるき鳥はいくしもうきにもあやなく鳥の声をおしむらん　長門

同　鳥の音もうらみしからぬ別にはゆふつけのあふ坂の関　良守

同　このよにかしこきこゑにうらみん鳥のおとりすらん　良春

恨別恋　家集　うらみつゝ南のわかれはいなのあさりはわかきのことりは　為理

同　こゑもかなしかへるとり涙のをりに思ひの葛かつら　兼好

遠別恋　同

隔境別恋　家集　よそにみしわかれは幾重にてそなたもまたきしと鶴の松をも　為尹

夢別恋

夢中別恋　御集　かへるさの夢のなこりにあかぬかなのまくらの夢もたえしそれは　後奈良院

別後恋　家集　あひみしはわかれしにはかにのこりてもなをこえしあとのみあかつきのくるらん　信實

別不知恋

露添別涙 家集 きぬ〳〵のおきてわかれし袖をもつゆにおきそふなみたのたえぬ袖の露 為家

依暁別恋 何事をしるしかへんはなかめつゝゆくへくるゝこゝろのわかれ 道堅

別来欲問（永正三廿二 小倉亭続歌） きかはやとこゝろをこめてきぬ〳〵にかへしやりにし衣のうへ 実香

帰恋 家集（文亀後度 永正二年） あふよはなかくもとおもひしに有明の月のいつもかはらぬ 季経

同 ゆきかへるこゝろもしらてなにか人やすらふありあけの月 顕氏

同 こゝにつきぬるなからの袖をなにそとゝはゝ暁のそら 同

雨中帰恋

暮暁帰恋

暁帰恋（文明十六年 内裏着到） 久堅の雲ゐにかへる月ならておもひきの[illegible] 経慶

聞暁鐘欲帰恋 家集 よそにきくかねのおときくこゝろなかくてはかへるもおし 頼輔

朝帰恋

朝遅帰恋 家集 みちしはにふるもとの月はあけわたりまたねぬへくのよひに猶 有房

同 かへりつるあしたけの葉に露の身にふるえゆかけはなれ 親盛

暮帰恋 林葉集 わくるよりかへるさなくていかにそのよるまちわひん人のよひよ 俊恵

深夜帰恋 続撰吟 よる〳〵はまちにくるまつき舟ハさしてしらぬ海にまよひぬる 雅俊

同 [illegible] 済継

同 [illegible] 道堅

同 [illegible] 政為

同 [illegible] 為広

（文亀後度 永正五廿六） [illegible] 仁昭

同 [illegible] 邦高

同 [illegible] 実隆

同 [illegible] 冬光

同 [illegible] 称慶

同 [illegible] 政為

深更帰恋 続撰吟 [illegible] 済継

同 [illegible] 経慶

同 [illegible] 同

あふ坂も明ぬとやこしに槙の戸はさしてもやらぬ色に出にける　同

やよしらてとき帰りて時鳥の声さへんかたらしうつろひ　道晃

夏かりもえみとし家に記出て明のことかなとも明けける　同

秋とめし人のつらさもみるかに涙のふかきり神の月かな　政房

一人三臣
いつはりのなおもかれ枕中にて明しつる夜もさまし明るさの空　済継

公宴続哥
永正十七五
うしとたに人の契のあかし一声をきかて記出て明のさしなるきる　知仁

公宴続哥
享禄三廿五
霧深き山さへあかぬ暁の花たふるさと夜くの袖　基親

御着到
百首
よそにあてつらくも出し後の夜の世の中の都のも我もとく　公條

同
つれなくも何のなぐさめ月の月にしたふかさ人の御かさ　宣胤

同
いて別しわれし別れはさようつ帰し人よおかよのそら　康親

同
うしのた暁の人の月をたにはなしてよ涙さ夜くもなる　永宣

雪玉集
待て何みなてかは人のひけむ人のかえりお出てかけむとや　実家

袖とよ
くらふる恋
続撰吟
大かたの月もわかれた奥て今朝の秋うちさるらん　持為

暮夜恋
今みよ上のかあ南よきてわかれのめふかきててつ涙かな　同

見帰恋

くるとも
あはぬ恋

隔所恋
林葉集
道芝の露はらひても朝ならぬあさまし明の袖は　俊恵

夢中
被返恋

（送）
遠帰恋
林葉集
松の戸やかりにあきての面影は大かたよのつねにけるかな　俊恵

空帰恋

（後）
暁帰恋
林葉集
ゆふまくれてゆくわかれかたにたちわかれてこそはなをつらわめ　俊恵

雅頼
百首
逢見つゝ人をいとなき槙の戸をゆかし帰るさそさかしき　阿佛

碧玉集
月影はよふ毎人のまちていくさもひとてとやかへらし

永享八年三
百首
契のこうきみおもふの秋の月にしもとふらむさとえ行く　公條

契りてもやらぬ立まて渕とはしるへの秋のよもすからかの門にさしとめむる夜かは　持為

月影はおなしく今の友かたにつれてわかれ夜深き門にはのいふのみなはは　雅縁

（かへるさ）
つれなきはつれなき人の心あらは門をさしてもいつわりなし（幸二）　同

人ぬうき門をかたかへりとてもいつくにはかなくつらくも　道晃

涙よりなかけにも睦月の門ちかくた（こゑ）の声をたきふして　為廣

一人三臣　ことゝそれもしらすの月に入るさへわかぬなりゆく人のみにとゝし　政為

八月ノ入ぬる恋　家集　老らくのたのもしけなく思ひきやしとゝふ人てわかれむかしな　実家

劔ノ帰恋

三門　空叩恋　林葉集　わか庵にてゝきつるをも水鶏なら人こそたゝけ物かは　俊恵

閑道逢恋　同　うかりけむ心の空もしらすして逢道とこそ関もあらなん　同

適来還恋

暁後帰恋　林葉集　おもひしる人まつねとゝいふは烟の中なかれにて染もしてまつかひそなき　俊恵

暁後又逢恋　かよひ路の関はあるとも逢ふことをかたみに待やいかに物をそ思ふへき　同

暁不帰

被返恋　今撰集　こゝろかれなたりにやみてそのいかなるなかに人をうらみん　上東門院大弐

かへるを…のつるを

恋物恋　家集　くれぬれは一夜のうちに雲かゝる山のはたかくなるかなはかなさ　顕氏

帰来数行恋　わすれてもけさや別れのなかの涙をわかそこの袖にみちたる　道遠

玉葉廿二　少侍従集　たちせき人のわかれしはとこにかへるよりみそまての神のみことゝ　資房

追従恋　家集　わすれてはかゝる人わかまつときにはかなきことゝみるかゝし　俊恵

随恋

耽後朝恋

後朝待書恋　家集　かよひ路にまつ人のかきつけし文のみてこそなかめわひぬれ　後家

後朝見書恋

後朝増恋　五宮臨時　東光五廿五　淀川のそこにもたゆるかはいつか渡るへき人をまつかな　公頼

後朝切恋　雪玉集　夕しは袖の露をもけさは我ならぬ涙かなしき

続撰吟　つらき身をていかにたのまん七夕は色をもと翔の身よりさきまで　政為

同　涙くをきまてしらぬいかなるかたに人の心をそさとりぬる　済継

たえしとも頼みし中は契りけるを手にうつしのそら　綾?

おもふ山は人にゆとめき鶴の命をためしにそあらは　同

消えぬ身はなかりしとこそ思ひしにたのめしことのやまぬとそ　道遠

世の中はたゝかきなりとのこる浦のつれなきのけふのとめかね　基綱

御着到百首　のこりなくいつかへるつらきのみかねてしけきは恋つゝき　元長

同　せかしもゆめのけさハわかれの世をうつゝならぬこゝろしい　為孝

同　なきあとにつゆハ消ぬる露とのいそきて起わかれけん　永宣

同　つきせぬハうらみもなくて鶏のねはけさのわかれに風ものうき　守光

同　うれしさもかなしかりけり鶏の声はけさの袖はぬれてこそゆし　公條

公宴續哥（寛正四十二廿五）　別つゝけさハ命もしのはれて身はなきわかれのこゝろのいぬ　永親

公宴續哥（永正四十一廿五）　松ことしれぬあふ夜のあけほの月のまちとふまん　為孝

公宴續哥（享禄三十二廿五）　夢ならてなかりしかいてゝあけハ今ハわかれて何のいのちもかな　雅業

公宴續哥（享禄元九廿五）　忍ふの夢かうつゝかとおもふほと人の袖の見ハに袖そ　公音

後朝顕恋

後朝隠恋　為忠朝臣百首　忘てもよのハあらぬものをか君とあきゆといふふえぬるわかれ　為忠

いつしかけさハ鶯こそ袖のいとにもおもひとけきこそしもや　忠成

わかるゝ人をうらみてわか袖をしほりもしらぬ袂そかし　顕広

一人三首　けさハわかれの袖の露かゝりてかゝるなみたの色にそ　為廣

百首　うきわかれおもひしられてけさそ神の露もいかなると　三光院

すてゝ身はやそ消てそ萬乃葉にこそ人ハ家に記されん　同

後朝恋　思ひやる人のこゝろハわか朝床のかたみのうつり香　為廣

寄道後朝恋

山家後朝恋

逢後増恋

一會後不逢恋

契後不来恋　続類千首　わかるれハ袖の移香のこたにかはらて一夜は露もぬるゝハ　左大臣

同　夜そなくてそれをとへる逢ことハいつかいつまてかはらぬのうきさへ　右大臣

同　かならすといひしいのちもわかれてハみちたえぬみたれし山の井はなれ　内大臣

同　ことの葉もなき花よりつらきハすむ世なみとゝに身をしらぬ也　通秀

同　うき契りしふけての新枕のそのかはりにいさおかふかん　高清

同　新枕てあやなにくらしてもそれとなくかこちかねたらん　基綱

同　身をしのふるらむの床にふる涙なかそこにおもひしらて　為廣

同　うきことそいつかさそひし新枕一夜もさそひし夏の夜のかな　公夏

としのふるまつれなき人にかくてむつ身のうらみ知る身そかなし　道澄

逢後不逢恋

別後会難期　古集句題百首

えそふねはさはいつかあふくさのよるへさためぬこともしるらん　良春

同　わかれてハ後のあふせもしのふれとたえぬ中川の水

　政家

同　あはすとは後まてたのむ契りともしらてや人のまたなかるらん　周嗣

絶不逢恋

何處更相逢　古集句題百首

つれなさもひとつ心にあはんの月はたのもしきかな　頓阿

同　今はたゝいとはしなれとなさけをもとめてそいつかたのまん　良尋

同　いとゝしくあはんもわすれん今宵のなけてあらん後もたのまれし　良春

同　あふことの夢は絶てそのこりけるむなしき契りもあるはかなさ　政家

同　いのちこそたえてまたれしつれなくてあはんとはおもはさりしを　周嗣

与君後会知何日

立名恋　草庵集

かゝるともなきなもちられ中々にのこるうきなそかさねさらなむ

続草庵集　世に河のわたりなかれてつゐにふかきこのあさとなりけり

家集　なき名のみたつたの山のちりもせていかにうきなのまたしからまし　為定

家集　あふせにて人のしらぬもはつかしきおもひのきえぬかなしさ　尭孝

同　かくれなき名のたつはかりうきふしはかなしさそ人にしられん　道澄

あふことのなくてもいたつらにうき名のみたちわたるかな　道澄

歎名恋　そなたゆへあるはわかのこころにうきなにかけてしのふのおもひ　基綱

同　いはまほしきあはれはかりうきなにたちてこひしきかは　同

文安三年歌合　いかにせむうきなのみちにたちぬともいかなる人のかけにかくれん　持季

宝徳二年百首　池のこほりとけてもなけにあかてしもおもはぬかたになかすかな　為経

うき名　家集　すゝきまつ秋をうたかふこころのたえぬうきなとそ思ふ

同　わかるゝもおもひのあさくいかなるかなかにたえはなれぬは　待賢門院堀川

同　うき名のこるをおもへはつらきこころにはおもふらん　持明

立無名恋　家集　いかにせむたゝかくのみやあまりにてうきなはまてもすまし　慶運

無名立恋　文安三年歌合　身はかくてそらにそなれはわか心あらましを君にまかせよ　定秀

借衣恋　亜槐集　[illegible]　道寛

[illegible]　為家

借人名恋　新題　百首　[illegible]　実雅

[illegible]　義政

家集　[illegible]　後柏院

御百首　[illegible]　道寛

[illegible]　[illegible]　守長

[illegible]　三光院

借他名遂恋　林葉集　[illegible]　俊恵

称他名恋

不知名恋　同

隠名恋　[illegible]　[illegible]　後[illegible]院

遁隠名恋　摘題　[illegible]　慈寛

隠名恋

隠名隠恋

隠名露恋　林葉集　[illegible]　俊恵

情人恋

不惜名恋

惜人名恋　[illegible]　基綱

無實有虚名　[illegible]　道寛

[illegible]　[illegible]　邦高

歎顕恋　家集　[illegible]　堯孝

御集　[illegible]　後[illegible]院

續撰吟　[illegible]　道寛

[illegible]　持為

[illegible]　道寛

[illegible]　同

（明題七百四 九十二）
あかおりかな[illegible] 政為

（三家続符 六百八十五）
さゝみちにちりし[illegible]の海っ人[illegible] 雅世

人[illegible]よそにわか[illegible]なとすらん 堯孝

今はゝや[illegible]ことの葉の[illegible]みんとすらむ 雅慶

こゝろ[illegible]秋[illegible]浪の神[illegible] 三光院

夕社恋

関路恋

浜関恋

後朝恋 家集
[illegible]浪[illegible] 為理

[illegible]の恋 家集
[illegible]神の[illegible] 道晃

通書恋 （三家続符 各二十八）
[illegible] 有房

別稀会恋 御集
人[illegible] 雅康

顕[illegible]恋 [illegible]
[illegible] 堯恵

関海恋 雪玉集
八か[illegible]神の浪の[illegible] 堯孝

御集
あひ[illegible] 堯遠

（三家続符 各二十八）
さ[illegible]の[illegible] 久永

（三家続符 六百九十五）
ち[illegible] 光流

（三家続符 六百四十五）
[illegible] 堯恵

後朝恋

別絶恋

絶別恋 （三家続符 三百七十四）
[illegible] 兼好

涙後恋 家集
[illegible] 慶運

同
[illegible]

増恋 雪玉集
[illegible] 堯孝

同
[illegible] 同

むかし見し月のかけほの今なにに思ひのこせる[illegible]　道堅

なかめてもきえんとすなる年月のこゝろふみゝし見るそ[illegible]　同

しのわ袖やまのしたの井みなそこの日をせく[illegible]　基綱

いにしへの袖のちりはをかそへてもおもひぬるなり[illegible]　政為

思ふあまてみちくる浪の青道てもきえあへのうき[illegible]　済継

契りはよわそてうきの[illegible]みつるに袖ぬれとそ　雅俊

[illegible]のかけの見なれてやけの[illegible]わすれて[illegible]　冬光

[illegible]露に[illegible]氣もうけるるへところかくち[illegible]　梅苑

心[illegible]人[illegible]み[illegible]袖[illegible]今はわすれ[illegible]　雅康

一人全卷

三百六十首　寛正四十五

同　至五十五

依連増点　春夕草

同増点

同同増点

見増点　春夕更

神[illegible]　梅苑

[illegible]　道堅

[illegible]　同

一人全卷

[illegible]

同詞増点

到増点　同

副後増点　家集

目増点　同

随同増点　同

逐百増点　續撰吟

[illegible]　同

[illegible]　政為

[illegible]　宣胤

[illegible]　尚顕

[illegible]　教秀

[illegible]　雅康

[illegible]　光種

[illegible]　為理

[illegible]　政為

[illegible]　済継

[illegible]　雅康

底きよき流れの川よするれは月にうつりてすゝしさやまさる　同

よろつよと[illegible]れは[illegible]にうつりて[illegible]の色のふかきを　同

御若釗百首　思ひ[illegible]神の涼しけなれはつゐにわか[illegible]いるか　俊長

同　こ[illegible]神の[illegible]の[illegible]　康親

同　わか[illegible]空に[illegible]人の[illegible]のそてそまつ[illegible]　公條

同　[illegible]何[illegible]神の[illegible]　為孝

年記不知 文亀頃歟　いかぬ[illegible]わか[illegible]　[illegible]

同　[illegible]神の[illegible]　公條

道増恋

雲増恋

依雨増恋

風聲増恋　家集　思ひ[illegible]ねぬ夜を何とはかへる風の音に[illegible]　秀能

松風増恋

秋風増恋

曉増恋

臨曉増恋　家集　なき[illegible]　雅業

曉露増恋　同　思ふ[illegible]の玉露の[illegible]　秀能

夕増恋　同　こひ[illegible]神[illegible]　宣胤

[illegible]　政為

夜増恋　家集　いかに[illegible]　済継

[illegible]　政為

夜長増恋　橘題　今[illegible]　通[illegible]

寒夜増恋　林葉集　[illegible]暁[illegible]　俊恵

遂夜増恋

虫聲増恋

聞虫聲増恋

依雪増恋

見書増恋　林葉集　[illegible]　俊恵

同　玉章はかへしもやらてなかみわつねつらゝみて思ふゆらん　同

続撰集　行衛なくすきし帰はかへりやてまつとしつらむわか恋もよし　基綱

（明応七十四廿三）　まりつゝおもふわれこそ袖のうへに身をそはかなくおもふらん　[illegible]

行衛そも初のこゝろ一筆のわかれゆくもわかおもひなり　同

これまてのうきは我にまかせてよわか身なれ草の葉の露　逍遥院

今のまもしらぬ命をたのむそのうきを袖にみる草の露　同

限りとも今はいきてもなからはせめて世にたえぬ恋の便り　基綱

返書増恋

難題百首　我袖はあまりもれてのちのみるもそなへめてすれ身のたえまなき　称名院

同　川へたつうらにしみのりはてやそ袖に思ひねつきてか　為家

（永正六八廿五百首）　よりへてもたのみしかのこゝろにこそのみこそのちのこ水茎の跡　阿仏

春夢草　行く今は神のみるにふかくよるのうきかことのはそれならはなる　家隆

一人三臣　世にしらぬ思ひのはなにいかにそみるへきわかむねのうきはいかにみなたゝん　牡丹花

人やとひぬかのまゝに一筆のたまつけわけにふかきわかれを　逍遥院

ちりせしのちのうき身をはかなくもおもひわひてはなみたなるらん　為廣

同　ひとへにもたのみしわれを恋しなはわかなみたのうきみえて夢のこゝろそ　雅俊

（文亀三百首）（永正四十二廿四）　あふことはまたかたしかぬ中なれとおもふかたに心なれはや思ひやらまし　綱光

見返事増恋

栢玉集　よそにみしものをおもひの中にしてかへるすたれてかよひにしそ神ぞしる　後柏原

家集　あいみてものちのおもひのかはらぬはかくやとしりしわかれなりけり　實家

逢増恋

同　またむかしのおもひを今さらにかへすかなしきいのちなりけり　為理

新撰集　うきことのかなしきのちのよりもなほかねてぞおもふきのふにもにし　光資

碧玉集　わすれぬよりおもひしはわかめのしたに涙のかゝるまくらなりけれ　後花園院

いまはたゝわかれてのちのあふことのはかなさにいのちにかへて思ひしものを　逍遥院

おもひたにつらきのちのまきれゆくともあらたなりけりのほ　政為

わかれてもかくてもきえぬ命にてこゝろにあふかはいかにおもはん　尊海

（文亀三百首）（永正四三十五）　うきおもひあひみてのちのかなしさにかはるまことのなみたなりける　永親

逢後増恋

春夢草　波よするわかなみたにはこゝろにそけりこそやつれなきかなしさの　牡丹花

同　まちわひてのちはまたなくわかこゝろのなにはとなきみにあふかな　同

いとまある恋

家集　まれにみしのちのおもひのはてにこそよるなかのなみたなりけれ　宗家

かねてのち まさるこひ
移香増恋
閨房増恋
はしめより こひまさる
増思恋
見益増恋
逢後増恋
増海恋
なれてのちの まさる恋
云切後増恋（見え初て）
云切後増恋
切恋

同 あふまての昔はおもひのむすほれかりけりはや神のめくみまさらしな 惟宗廣言
こゝろからみさへなし人やわするらむ神のめくみはいかにかはらむ 道遣
家集 むかしよりわかれしものをわかれてもなほまさりゆくものおもひかな 實家
文治十二六廿八 内裏御中 月次讀哥 はかなくも神にわかるゝ涙すてまさりゆくはなほのこりけん 南部
玉吟集 あはれそのちきりをたのみてまちわひぬあふまてもなくさめかたき
雲葉集 恋しさのいやましにのみまさるかなあはぬ月日をかさねつゝふる
同 かねてよりわか涙にはしらねとも神の中にはまさりゆくよ

恋 切
慇切恋
切別恋
閨鐘切恋
思出切恋
眼切恋
初逢後切恋

御集 これほとのおもひはなにゝ身をかへてあはれとたにもいはむとそ思ふ 後光厳院
恋ひつゝもいのちはさらに身をかけてしのふとたにもしらせはや君 道遣
寄なるゝ人にあはむとおもふのみまつよの空の月をみるかな 同
人よりもおもひまさりてたのむかなあはれをかけよさのみ契らん 政為
うき夜の夢もはかなしとおもふにもしのひかねたるかなしさの人 同
文明十二十九八 當座 内裏御會 後の世にあふへき人のかはらすはなかくもさはなにかいのらむ 後土御門院
一人三首 いまはたゝよそになりゆくかなしさにひとりのみこそなくよしもなし 為廣
三百六十首 永正十八四 いのちまてかへてもあはむとおもひしにこひのつらさはなほまさりけり 基春
さりともとたのみしものをこれやこのさはかりつらき恋の中なり小衣 道遣

神代にせし禊の河瀬そなけきの関とかはらむ　基綱

文明十四　十廿四
つかへしへいのりの下にそめし神のまへにいはれなりける人　持通

同
きこえこき思ひの名にも神の葉のかさすもしはよそにかへりつる　増運

わたらしき我か契りもとへ父母にかけてしもの山中か　親長

すたにそのつまなき代ましはらぬはなれぬかりしとはかけて　宗綱

なかきりにたのむ宗尊の契と人をこそ神となすかは　永継

今は身を思ひもすてすなけきつゝ世中よそにゆるすつれなさ　政為

わきてもし思ひいられはかくまてと今は我身の人の契りはて　季経

きみもまたわさくる人のたえはてむわかなけきのほとそとふらね　為広

頼みしは思ひの緒たえてなけきの数は恋しさ　雅俊

絶切恋

家集
とふまれてさしもあらはれとこひしさのつらき我身の契り　兼好

厭恋

御集
いとふ身をたえぬ人にこそあはれとさそひきえぬとへ　亀山院

うきものにうらみもえしはむすひのまへに月にかゝらん　崇光院

わすれしなけふも人の心のうちにて思ひ出るかなしさ　道晃

同
きみそなきこひらん天の川のわたる人まては思ひきしなそ　同

同
うらみしなからも身はさこそうへにそかくこそ思ひたつもれ　同

元亨元年
御点取
せめてきこゆ人にほとゝしのかくれ世をこそしつき捨たる人（ところあれ）　後崇光院

文安三年
永享十五
さき身そいとはなくてもおもはれ程のかすみなれあはれ　言綱

文安五年
永享七廿五
下はつらき我おもふね思ひそこ人にかことぬつまさ成られ　邦高

同
つれなきにおもひ来ねとさは又いとふとも思ひしぬらまん　雅俊

同
月てらすかたそのいとふなくそも絶ぬれは思ひ成られ　富秀

同
わすれにし別のおもは恋人なきよりわきをそなけれはう　済継

同
かきみかのつらくとまてもうきにいふとも絶たのむらん　康親

被厭恋

石間集
うらむへきみをしはなくものにいふとも恋はれ情ありし人　源頼清

草庵集
かくまてかなきへも別のおもかけをよしいとはれぬ我身なるらん

亜槐集
きこえぬ我身はいつともしれぬなをことにいふとのはいとふとおもふに

御百首
しけてはなくきぬかみにうちいてもつらぬ中そくいかなるさ　後柏原院

続撰吟
消のこれ我はいとふ思ひの身へおもふなきおもひいとわりしまた　同

[illegible]　[illegible]院

[illegible]　同

[illegible]　同

[illegible]　同

[illegible]　逍遙院

[illegible]　同

[illegible]　同

[illegible]　同

[illegible]　基綱

[illegible]　同

大[illegible]　秋風に[illegible]　政為

同　うしとても[illegible]　称名院

[illegible]　同

[illegible]　三光院

朝厭意

厭老意

閑居厭世

厭身意

見病厭意

續撰吟　[illegible]　政為

同　[illegible]　済継

[illegible]　[illegible]院

[illegible]　基綱

[illegible]　同

[illegible]　言継

公宴續歌　[illegible]　御着到百首　[illegible]　元長

同　[illegible]　伊長

同　[illegible]　為孝

同　[illegible]　公條

同　[illegible]　重親

同　[illegible]　康親

みつから いとふ
猒賤恋　家集　数ならぬ[illegible]の数に[illegible]　俊忠

うき身[illegible]葎のやとに[illegible]　経定

[illegible]　道晃

[illegible]　同

一人三首　[illegible]　為廣

同　[illegible]　済継

公宴続歌 文明十三六八　[illegible]　祥空

公宴続歌 永正十一十四　[illegible]　邦高

同　[illegible]　実隆

同　[illegible]　尭運

公宴続歌 永正四四五　[illegible]　通勝

[illegible]　雅胤

被猒賤恋　雑輪集　うき[illegible]数ならぬ[illegible]　為定

家集　[illegible]　雅世

御集　[illegible]　後柏原

家集　[illegible]　義政

[illegible]　道晃

同　[illegible]　同

[illegible]　政為

公宴続歌 永正九十五　[illegible]　永宣

公宴続歌 享禄四四廿五　[illegible]　長治

後朝被猒恋　林葉集　[illegible]　俊恵

同　[illegible]　同

同　[illegible]　同

被猒 下女恋　永享二八四　[illegible]　資春

思後世 猒恋　林葉集　[illegible]　俊恵

猒恋 思後世　[illegible]　道晃

亦莫猒 此中

悔恋

（永正三廿二 禁裏御会）　うき色のとかはいはしとてかくてしも世は契りしかなき身なからも　雅俊

亀山殿七百首　契りの末もたのみし中そとはいはぬ物から人のつらさよ　親教

家集　後しはしかくてはあらし思ひそめつるわか後の恨そ悲しき　雅世

雪玉集　思ふてふことそうきさへつらかはら思ふかゝる身の契りしらるれ

同　立かへり同し涙のさきたちてわか為つらくなか袖もぬれなん

（文亀三 後柏原院御着到）　思ふなる我わりなくも恋渡りてこと思ひなしていかならん　政為

同　わすれめや思ひはかりし人のはしをいかゝそこともひとりなけかん　済継

あさからし花田の帯は末つゐにむすひしかゝるつらきもあらなん　[illegible]院

あふかたもなきことのかたみわか思ひなそうき世をいとひても　逍遥院

思ひいるとも其思ひのほかにわかれさめはうつくさゝしもそ　同

とはれしを待風の花きくてもあらぬをまさに袖にかけつゝ　基綱

ちきりしとはにそうけめとかゝりそあさに契りし事はかなき　同

つらしてとかさなる袖のうつりかはへるたに思つの関もと　政為

後悔恋

御集　よしやさてことそてつらし身はうさも人はつらきにかはりてうけて　[illegible]

平悔恋

（禁裏續哥 永正八四廿五）　大かたのさはいかにはあれ今更にたのみし老の契りならまし

擇後悔恋

逢後悔恋

家集　後のよにおもかけたにもあふまてと頼し涙の床のちりをは　為理

同　思ひそめうらみてわかれおもかけをまつとも我は涙なるらん　同

新葉　いさやまた後さへ契りなかりせはいかにいひても山の井の水　中宮

別悔恋

（禁裏續哥 永正八四廿五）　思ひなれそめてつらさもつれなしと思ひし人をとはぬとき　宣秀

恨悔恋

縦後悔恋

家集　つれなさの心のうちこそしらせ人を恨し身そはかなしき　忠慶

摘題　まてしはし契りしかねもはかなくてみすれ思ふかなしき人　後京極

悔不逢恋

（禁裏續哥 永正八八廿五）　ともかくもつきぬうきにつけてさは世はいとひなからき身をなけきつゝ　雅縁

悔離別

（世をそむく人のさま恋）

侘恋

家集　せめてへて思ひそめぬる身のはてや人もかなしきつゝむ袖の人　義政

疎恋

見被諫恋　こゝろとし猶ふかゝりせはつらさのことのはかけつゝさけふらそ　後光

逢皆諫恋　家集　むかしよりかはるうかりつる末つゐにかくふとも絶もはてなむ　逍遥院

音信日已疎　亜三三十二 大嘗会法楽　いつはりにすこしなりとも出しふみにいこゝろみかのこたへくもとことに　為孝

斷変恋

被変恋

朝変恋　わすれしとちきりし人のおもかはりあかてたつきの中となれ　政為

夕変恋

俄変恋　続撰吟　きのめかく文たのまむかしてもあかぬましゆかしをは　政為

同　道もなくかけし逢か杣かもとにもさそぬるゝや神なかるらん　雅俊

明応五四五 聖廟法楽　せきとむる枕の露の月まれにかはるにかる秋のゆふけふ　基綱

明応七二四 五十首　あかれにしつゝりの涙にほかへ涙はそてすめる人の風さへさくるの　済継

変約恋　永正元十廿一 御点取　きのふこそ人のこゝろもいつはりの風になれゆくに露もむすふらん　道永

契変恋　家集　人ことはちきりし末のまつやまもたゝにこゆるも波の音にそあるらん　為尹

変疑恋

契変約恋

契後変恋

契変改恋

契変改恋

臨期変恋　続撰吟　れんなきさりぬるまておもひねやけふ神のこゝろにけふもなかるらん　政為

同　さすかにはねてこそかへしてうしやかてそちてねさしのかりは　済継

同　なからへてかはるとはしきさえなくは拾もうき世に立てはあらん　逍遥院

御着到百首　ほのかにも関の所にかはるわかすとはいふてもまたやかたらん　永宣

同　かなはてもいひしちきりのうらにてもかゝる人には見しかねさき　伊長

同　人ことの後はいつはりに契をもまてかへるなきよしかへるらし　康親

同　はてもそれ人にいふつかしなかはたゝくちまてもかへりにけれ　公音

臨期変約恋　長秋詠藻　おもひきやしちのはしかきかきつめて百夜もおなしまろねせんとは

御集　うき人の神なからてそちかひぬれはつらくなるはるしるは人のことの　尭空

あをむかしハいつしかとこひわさはゆるしとめにてゆくと人のおもふかハ　三光院

逢後驚恋

月催恋　物思ふ人をやとみまし涙月影もはらはらす秋もとしらめ　政為

百首　とちかにかくれてはつゆしらなれしなきさぬる秋そ寝ぬ　雅俊

風拜催恋　家集　さらぬたに涙もろきそてらの袖を露もかはらぬ松風　為理

暁風催恋　習古集　松風のあかつきにこそさしもなくにならはさらぬ人のさ

暁風催恋　林葉集　何ことは荻の夕風さそはれて我涙をそ人ちらさまし　俊恵

家集　物けにとなけく夜ゆえにかつうつらぬ思ひの松風　汲深 蓮瑜

鴈声催恋

觸物催恋

恋催旧意

恋催壊意

驚恋　家集　なかなかにおもひたえたる夜のぬるまひとまちて来るに　慶運

時驚恋　續撰吟　いつかきん夜をはこちもおもひみえらさ数をおもふらんかね　政為

同　新続古今 永享十三　いつまてか思ふむかしをそこはかとなくおもひまさらん　済継

同　いかにせん今はなひく袖ぬれて中々なみたのしけき　雅永

同　たのまさるよの後たに立帰らんなかはあはれのなかりき　後崇光院

同　御着到百首　せめてたゝ忘れなからもおもかけの中にかなしき　伊長

同　たのめしを秋よりの道の露けきいつまてぬれんよの袖　重治

同　ねとはたゝうき身なれは後の世にけりのつれなき　為孝

同　恋しさを秋の木の葉にうつる世や人の身をおもふらん　公保

同　ことの葉に心のまゝの松の風の身に袖をうらみ　守光

同　新続古今 永享十二六廿五　つれなさのよそにみてもふへき人をまつらん　秀房

同　新続古今 寿元不忘　人いかなれはうきもしらてにはかに荻の風はおもふらむとも　教国

争恋

論恋　紅塵灰集　こゝろみにたのむるひとのうき中をおもひしるこそつらけれ　後土御門院

負恋　亜槐集　つれなさもつらさもいつの人を恨みよそなりけるかな

御集　身のつらさおもひしらるゝ世なれはなき後の世をおもふ人　後崇光院

家集　頼しなゆふくれことの猿のねもわかつらさをも身のうらみにて　義次

さしもかくいはゝいはなん中なれは人のとかめもいかにかはせん　道晃

見しことのかなしくてやはよそにいつとなく人のとかむる身をいかにせん　同

天文十二　千首　つれなさは頼みし人のかはるとも思ふの中はいつもかはらし　四辻宰相中将季遠

有妨恋

寄学問妨　林葉集　窓のうちに書の文にも妹か面影のそへて忘られぬ　俊恵

被妬客恋

被妬人恋　家集　くれぬるかとさへあやしめる中なれはかよふ言葉も人めまつなり　範宗

同　うき事のあらはれぬるも思ふことのあらぬ名をのみたつるなりけり　惟宗廣言

被妬友恋　思ふ人にかくしてなくて二人ある中にもしのふ心のうちそ悲しき　道晃

被妬親恋　林葉集　たらちねのいさめもそふるなかなれはいかにせよとか思ひみたるゝ　俊恵

一夜後被妬恋　同　二夜ともまたこえさりし中なるをわか頼めしやうらみそめけん　同

恋為後世妨　ひとかたにおもひかくれは世の中にたのみをかけしことのみそうき　雅晃

見しまゝの面影をしるへにてさしもはなれぬ世にそつくしなる　道晃

内裏　寛文六七　わかれ路の床はさためなからても心のしるへ道はおもひかへさむ　基煕

後にしもおもひ侘ぬる秋の夜はいかにくるしき人めのみかは　後西院

あふ事はかたきなかにもつらきかな人めをのみそいとひかねつゝ　邦高

むかしいまたのみしことのよしなきに世をそむきてもつらきものかは　右大臣

こひしきを思ひしらせて猶うきはあさましきまて人のとかむる　光位

あかなくの世のうきになけく胸のうちにこそ人のうらみもあれ　勧修寺大納言

我ならぬ人のうきにはそむくとも道はしらするよしもなきかな　経有

後の世をたのむ心のうきことをかねてあきらむ心にもかな　右衛門督

世をいとふ身をつれなしと思ふにもいとゝ涙のもろくもあるかな　中山宰相中将

うき中は親のいさめもあるものをつらしとのみはおもひけるかな　参議宰相中将

被嫉妬恋　同

文亀三　永正八廿五　妹かまつこゝろのうちのおもひをもしらてや人のねたみあふらん　和長

被嫉妬妻恋　大永六八廿　うき人をまつにつけてもあやしきは我のみさそふ心なりけり　為和

被怨勘当恋　林葉集　思ふなることもつらしとなけかれて人の世のうきことをしりけり　俊恵

隠恋　家集　いつ迄か人はつゝまむと忍ふましし笑ひしまかりしもはしまくらに　為家

底とかへてまつねぬゆへしいつふかしとはらぬ人はうすしこゝろを　慶運

あはれともわかれねよかしの蘆へは中にとわしはてなん　縁覺

同　いかにせむいかにしへつ傷のことはかなふさらねとえこそわすれな　同

花の名にちらぬかはらに逸をそてそらさへりてもあうらん　同

わか思ふ名乃祭にしもりは我なからへはつゝくひとらん　同

たのめし風吹ふにこゝろにそ花所なき露はありては　道晃

あくかれてのむも夢とかなな露そくらてあはれさも　同

わかれのこゝろに秋鳩てこのきふれんと涙にかゝるらん　同

まつし続けれ月の夢渡て我らさものゝ陰月のかし　政為

文亀三侍従中納言家千首着到
いつよ我にかくれぬ思ひ山路をそよう成らん　同

公宴続歌享禄四二廿五
おいのかくしてふかみことはいふもゝいかに心かく隠らん　同

誓隠恋　石間集　わか身にてあらはにこそとてあるもとへ中なら忍ふそらか　堯空

神けていてまたしもなくゝ露てわすれことはいかりて　右京大夫行家

會後隠恋　亜槐集　つれしてさらなけし神山にたつまくれわ傷ちてねぬ

留形見隠恋

乍在隠恋

教居隠恋　為忠朝臣家百首　いにせんあふをかきれちておもはそのゝらゝとは思ひすまゆめを　親隆

隠在所恋　つらきをもうてゆへにたに思ていつよこゝろのくてえし　顕廣

御集　いかにせんよしこそまし笛ちはゆくらちかれ人はふかとくと　縁覺

公宴続歌享禄三二廿五　つらにし人かららな袖なこしてわかはるはこてくはましして　公條

公宴続歌享禄四九廿五　思ふはなかゝらてれ今もかねら時にかはし人はりかと　實香

公宴続歌年記不知　そのゆく今こともちてはしぬかにころねおもめはねてさらにはくは　祐雅

隠住所恋　家集　あらわかおもひのこゝろ主續へはことかれ秋はいはり　宗祇

藏在所恋　同　やゆかにをつのさとたといられあちかゝ傷のりしもかすむ　光経

隠家恋

隠宅恋
不語終隠恋
隠文業和哥恋
恨隠恋
忍稀恋
依忍稀恋
稀驚恋
稀問恋

家集　こもすむつらき月かけはこそあはれなれとめこころなからん秋と　兼好

新葉　なとかくもしねさそふ人かたき袖のしつくはかれもせぬと　御製

おりいてはおもひのゆくともむさしあふみかけて沖なる人はあらん　逍遥院

しらせはやさきゆくさはえ人しれはおもひかへてもむかふこころか　同

いつはりをいかにあやにくしのふのかはらもつゆのゆかりの人　政為

わかはれてしなくはおもひいつと思ひ出て又いつかなとしたるはるは　同

一人三首　ことしわかなけけほとはわかて泪ふる花のあはれなるを　為広

五百首続哥（文明十三十六）　むかしいまいく月にことはるまかりなにかくさ袋とさはかさ　義尚

五百首続哥（永正元九廿五）　こよひもまたのゆくえは袋りこそわたるよの中ねなしとはかれ　邦高

稀通恋
漸稀恋
会稀歳月恋
邂逅恋
旧事恋
古恋
近恋

同　ふけぬる月のあけほのまたすむそかし中々なかれん　雅俊

同　くるかたの中たえてしはなくもまたこの人につらさとくさん　済継

同　かはらぬかくたてかるいはてしらぬ袖の声そおもき　公條

五百首続哥（永正元二廿九）　年もへぬあはれとはおもひうちわたるみえるかなるか　貞敦

五百首続哥（永正十四十五）　身ふりてのちのかなはぬ逢ねとあかのしかともかひし　隆康

いかさ秋にはれしにわかれなくとも手なれなきをいつしか　称名院

うつろふもとけにてあすはれなるかとも月かなのかん　逍遥院

永正三二廿二水無瀬法楽　こしかたをよそにわかれしこのちわかれし月にそてまさる人　永宣

さか秋に袖ぬれそてたなかにうらみしよふなかりけん　三光院

月清集　わかれしかなさこそゆくえ風ふきもつまし萩の露のあき

続草庵集

うき中はかくこそ[illegible]れしことゝかなしき

逢そわかるゝ道やつらからん[illegible]りうき　逍遥院

うきふしといつかわすれん[illegible]へたてぬ中につらき中　同

いたつらにけふも[illegible]なれぬるを[illegible]　基綱

隔わかれ思ふ中もわかきはひらめて[illegible]　政為

明応五十八　内侍所法楽　百首

うちも別かんても[illegible]とつとたのまん　季種

おもひ[illegible]猶のうへかくあるてしらつよさうよ　三光院

かくあり[illegible]中絶[illegible]　同

へそわ[illegible]の[illegible]　同

かけ[illegible]　為富

さよ衣[illegible]の[illegible]　同

せめて[illegible]胸の[illegible]　為広

よそ[illegible]道[illegible]　政為

隔恋

同集　一本无

わかれ[illegible]　亀山院

こゝろから[illegible]　持為

[illegible]道[illegible]　逍遥院

おもひ[illegible]　同

[illegible]　政為

[illegible]神[illegible]道[illegible]　同

隔霞恋

公宴続歌　永正六四廿五

こゝろ[illegible]の[illegible]　雅俊

隔泉恋

大永二八四

さのふ[illegible]　元長

隔日恋

隔夜恋

亜槐集

なにはかた[illegible]一夜[illegible]を

公宴続歌　永享十一三廿五

一夜こそ[illegible]閑[illegible]　雅親

おもひけん[illegible]　雅俊

わかれ[illegible]　正三位泣朝

隔一夜恋

石間集

おき出し[illegible]　基綱

寄二夜恋

寄三夜恋　林葉集　ねつる夜の数こそわかれわかきめの夢へゝとも君かかよひやすらへき　俊恵

寄月恋

寄年恋

寄年序恋　夫木六四　ゑつねに心そまての十年は老と成ぬる恋はいつまて（よ身をうきものとイ）かきりとかし　公條

寄山恋　林葉集　さらぬたに人は渡りに跡たえしあさゐもとやかゝらく志のふらし　俊恵

をのそさらぬのほくあれ道そにこれはかりそてね山の奥そそと　為廣

寄谷恋

寄関恋　家集　身はつらきことつらくからきあひも又かひありともりは雲に　覚深

同　あふさかにやすらひもへといさめは物にさくへて年ふりにける　成仲

同　恋絶てくたりつゝおもひの関いつこゆへきまめかならん　建礼門院右京大夫

同　清見かた浪へ帰る袖のあれとかくなくしも関のほかう　有房

寄関路恋

寄路恋

寄遠路恋　雑題百首　我つれなくいかにかたくわかれて思ふらはなくに道のほとゝかん　為家

同　いと遠きよかしたのはなのまにかよふて浦つたふ舟の行衛しる　為定

同　恥かしといとゝはるかにいかはへかへらんよをいかにかたらむ　阿佛

家集　物をおもふうきに心のゆくへとも舟の波路はるかにこかれ行つ　義政

續撰吟　おもひやる人のゆく末の遠けれは思ひさかりぬ月いつかあらん　道堅

いつはりもやすらはてへかへりゆくひとの浪に神かけん　逍遥院

ちかひてもいつかはあはん海のうへに人の心ははてしなき　同

かくても身はつらきちきりを空の雲ゐのよそになる末の山の波　政為

八番哥合　けふも人の都をとをみれはかくしつらさの中はかなしき人　式部卿宮

同　へたてしかひありとみえはとほくわかれゆくさてそゝむかし　親長卿

同　こゝろくの山のなるさといつとてつれおくに忘れてそつらき　實右卿

同　志らぬ人いそきわかれは猶そちかねもとすなはち波　教国

一人三臣　切なる袖をかへしてもかひはなしとこそ月をへつゝん　済継

寄川恋　家集　橋はたわかすとほくは天河へたてしはてしもなくいそか隠し　行宗

林葉集　恋ふる隔なかりのみなしとも名にも大ゐあふの河川に流るらん　俊恵

公宴續哥（寛正四四廿五）　うきしつみ道遠き中に思ひ河あふ瀬の波にたへらん　雅行

隔海恋　公宴續哥（同年十一廿五）　恋渡るうき身はとゆき海をとこゝをつくし手には浪　後花園院

隔海路恋　ほかいその浦らへそて渡しわたしつかる夜もゐるたつやまし　後柏原院

別てらの夢もわたりて思ひしてへとも衣はゝる礼神ゝ波　逍遙院

わたいかまよのとこて恋衣浦は神ゝ波浦波とうし（な）　同

見るゝれ浦渡へらつかにたえつゝはかれ海いつくにと　政為

公宴續哥（永享十七年廿五）　やれそいのこにたてまのおり尽かけくかれなとも浦わらへ浦　後柏原院

同　へそれ浦わよいつにわか衣をもいさすれちらとかさまて　貞敦

同　ゆきわれいくふみかへつゝところれつれ道わたかに　元長

同　かけとそは契なりつゝもありかゝはなるふく神いわれん　永宣

同　こゝんらちかまと夜とよそわりもいつらへ人にいつしか浦山　公條

同　そふら人かおりかなるへと思ひしるゝかへつ身まなるらん　為孝

同　わたの原ゐる雲は浪とならしよのみれつゝ契へそらん　公音

同　せめて隔るみつゝ人は道もかれ秋の舟はとたえかよふと　隆康

天仝長　かけてそよゐる雲はともかすみの名残にわたる浪にかゝりちらん　済継

隔浦恋　家集　契りいへはなるゝ浦の浦は沖は浪になれゝ島なるへたてゝまほらぬる　為信

隔里恋　同　思ひそもいくよ三里かはゆらめく舟は隔る里遠　同

隔物語恋（二十九）　同　つれなくてはのこるをしゐかそへくまれにたゝわかれのゆくゑしれなる　有房

夫木二八四　きのふともいふへてわつかなる夜はのゆくへもなきかなる　宗堵

隔物臥恋

まれと
へたつる恋

隔衣恋　家集　わかのうらをとこての袖もゆきかひところなきは中よはきなる夜　有房

被知恋　同　思ひにさはかりかりそめの夕畑ことわりも和ゆのさそゆき　光経

人に
しらるゝ
同　忘るとは神かなさみつゝるとは人もかもわかまつぬるれ　時朝

人をしる恋

知不知恋

思知人意　夫木二八廿　小篠のゆつかなき道にいつしかと[illegible]人はこゝろわけけむ　後嵯峨院

意不知程　續撰吟　わかよくいの[illegible]思ひのまゝにしらすはつゆの思ひくらしつゝ　栄雅

─　そのかよとおもひてもえかくてあたにわかひせめてしのひはてなは　道晃

まてしはしもゆる思ひはいはねとも[illegible]のたちそのほるへく　政為

（公宣集續哥　享祿三五廿五）　つれなき思ひをふかくよそにつらき人のこゝろしらまし　宣秀

同　わかなくしつゝむおもひはつれなくて[illegible]　公條

同　つれなきは思ひしらてもなくむさの言の葉のあさき神にたのまん　公音

同　思ひあかし我さへ人のつれなさに[illegible]　雅綱

同　思ひ[illegible]の庭に[illegible]のわかれもいかに[illegible]　重親

同　[illegible]　実世

[illegible]　秋白院

不知身程意　林葉集　[illegible]人にわかるゝ[illegible]　俊恵

同　[illegible]世[illegible]　政為

不知人意　同　[illegible]　公音

不被知恋　沙玉集上　[illegible]　後崇光院

今被知恋　摘題　[illegible]　よみ人しらす

同　[illegible]　よみ人しらす

同　[illegible]　同

（よろこひと　ちかふ恋）

不知在所恋　林葉集　[illegible]　俊恵

不知居所恋　同　[illegible]　同

家集　[illegible]　俊恵

不知為方

心知人不知　古集題百三　[illegible]　頼阿

同　[illegible]　良春

同　[illegible]　頼宗

同　[illegible]　周嗣

占恋　家集　[illegible]　俊恵

同　あさましと思ひしれとや[illegible]つらさをそへて[illegible]　覚継

万代集　しらすして[illegible]つれなき人を[illegible]　顕季

亜槐集　名のみしれぬこひしくてわれなる中は[illegible]

同　末はるかにあふよしもなく[illegible]

又にたりその[illegible]なをしれ[illegible]やあはてぬものゆへ　政為

こゝろつよくさてもわすれは[illegible]　為広

卜恋

為忠朝臣家百首　[illegible]成[illegible]人[illegible]宿の[illegible]　忠成

同　いかなる[illegible]夜に[illegible]　頼広

家集　こゝろ[illegible]つらき[illegible]　義政

同　いにしへ[illegible]恋の[illegible]　義尚

春夢草　いかならむ[illegible]山の[illegible]秋[illegible]　牡丹花

わかこひの[illegible]　政為

三玉集　永正元七廿五　なをひとり[illegible]道[illegible]　済継

かゝる[illegible]　称名院

同　あはれ[illegible]恋の[illegible]　三光院

巫女恋

遇しるとうらなふ

家集　いかにして[illegible]　入道二品親王

行恋

拾玉集　わかれ[illegible]人

拾遺愚草　[illegible]君の[illegible]

同前外　[illegible]

玉吟集　[illegible]

続草庵集　[illegible]

同集　[illegible]　後[illegible]院

一人の[illegible]世[illegible]　逍遙院

[illegible]　政為

文亀三　侍従大納言家千首　　うすくふく[illegible]　公瑞

同　思はぬ[illegible]　資直

こゝろえぬ[illegible]　称名院

こは世にはなきまて人のかくもしらていつしかにあはぬ人のこひしさ　同

片思恋　こゝろにはみえぬものから人しれすあはれなにゆへくるしかるらん　同

乗片思恋

暁片思

尋常片思　百首　うきなにはいとゝ心のかゝるかなおもひそめてはえこそあれぬね　寂蓮

天文七年百首　おもひあくとみきはのみつの神のしめなはおもひなるとて　諸仲

片おもひをくる恋　家集　おなし世にいかにあはれはわかこゝろいひもはてなんあはれおもひを　建礼門院右京大夫

片思恨　あるまゝにかゝるこゝろのなかなかにうきはおもふくやしかりけれ　道晃

続歌千首　こゝろにはわれはかなしき思ひをこふゆく人の中はそれとしるらん　尭孝

同　ひとりにはけふわかれし君をのみなほおなしく人をこふらし　前内府

同　はかなくもこゝろを思ひわすれはて思ひはなれぬ行へしらなん　高清

同　またみぬよおもひかけてもふかきことの葉はしけき枝の言の葉そかし　為広

思　拾玉集　人こそはしらすとも人目のうみはあまのかこはうきおもひを

同　我おもひをすてゝこそいつの世にかはさもあらてみえまほしけれ

拾遺愚草　さりともと人をわすれぬ身をうらみおもふにあまるこゝろともかな

同　いさゝかもなき烟のそこにたつとたにしりぬるおもひかは

明日香井集　煙たつ身のうさをたれにしらせんおもひをもよしれつ

中院集　いはぬをもしらせつる人のおもひにそなれぬかくのこゝろを　為家

亜槐集　我なからまたとかくなるわれならぬかのうらみそつゝし

きゆるわれはいかにしもみなのゝ思ひよみ人をしらしの煙そも　後鳥羽院

しみてもおもふなとわかみたつうみはわすしとおもふ人のうきそ　同

かくへきおもひの洲をかるとも我にはすてゝ後をかとはん　道晃

消えそひぬ世にてもおもひわすれねはあはぬは忘れもそかはなる　同

岩木にはあらぬ物なれはうき世にもあはれとこそはおもかけにみる　同

すれはたえすおもふもしらすおとになきこの人をまちわひて　政為

思出恋　続亜槐七百首　あはれなる人をおもひはいつかはと月をみつゝもおもひこそすれ　季雄

恋思

思不定恋

思煩恋

おもひわつらふ　家集　いやなこそいへんと契りに方に思ふも身の程にあまるうきものは[illegible]　時朝

思疲恋　同　歎しのふ思ひそめてもかひなきにたゆむ心はちりにまさりて　為重

相思　同　待ち来ませとも人を行方も知らぬ恋の中代　信實

互思恋　隣女集　わかれをはおしむとこそへいはせむ人のうきとはいはしもされ　雅有

同　さとるにはかへらぬたのめは[illegible]まさりてわかれまし　同

續古今集　契りのこと[illegible]わかれてあはぬ[illegible]

相互思恋　春夢草　あはれ世をおもひなしても蝶[illegible]らみつゝうらむものゝあはれ　牡丹花

あひはよ

云ひよする恋

おもふ恋

かくみよ
らふ

我のみそ
人に思恋

もろ共そ
人に恋る恋と

稀逢世恋　家集　とはぬ[illegible]のうらみはたのめし人の[illegible]　為信

乾元哥合　いたつらに[illegible]の[illegible]　経信　宣旨

同　こゝろつゝ[illegible]昔とも[illegible]　為家

同　あまき[illegible]中[illegible]のはての[illegible]　一条

同　うちつけに[illegible]　定資

同　すゝめし人を[illegible]の[illegible]むすふ　實教

夕思　万代集　[illegible]のよはの[illegible]　親子

夜思　同　[illegible]のよはのわか[illegible]　同

昼夜思恋

時々思　家集　なのつ[illegible]の[illegible]　為家

思昔恋

思世恋

思出恋　家集　うきなのこと[illegible]をわすれ[illegible]　為信

初逢後思出恋　嘉元百　[illegible]の月の[illegible]て　公條

夕思出恋

觸事思出恋　林葉集　おもひつゝころもかへしは待よひに秋は風のみさえていく秋　俊恵

紅塵集　こしかたの月やわかれしたそかれに我身ひとつのあはれそへつる　後普光園院

見家思出恋　そことみてしるそのむかしの家にかふ袖の露こそかれぬ　逍遥院

昔思恋　林葉集　待わひしすまひに月にむかひて秋のこゝろは老となりけるかな　俊恵

思出同女恋

暗瀬恋 思　永正三廿二 水無瀬法楽　きのふまてわかれしあまの雲にたゝおもひそれさへにしのふるもうき　逍遥院

欲忘恋　御集　しひておもふにさそはれき雲のはてこれをたにわすれぬる　政為

かゝるみをかはらぬ人とおもひつゝわすらるゝ待もたえぬわりなき　嘯月院

家集　つれなかる人のこゝろはしらねとも夜もすから庭のおもかけちらぬ梅　光経

忘指恋

夕忘恋

思忘恋　ゆるされむもあれしらねともなにとかは思ひきりなんものとはいひそ　逍遥院

契忘恋

易忘恋

難忘恋　續撰吟　契りわたる人をもかくかゝるむら雨をかしぬかりもしらぬるを　後圓融院

同　同　わかれてもうつゝにかはるしはしたに恋はつらきものとしらなむ　逍遥院

なれしよのうきもつらきもいつのまにわすれはてゝも人をこふらむ　後柏原院

一夜たにうきをこそ見れそのあかつきにいつしかとこそいつまてん　逍遥院

おもひいてもかなしきわれをとゝめてやおもひもつらきおもひなるらむ　同

世にかふるくるしさをいかにせむそもわすれなくてわすれてもなか　同

身にそへるおもかけのみそかくしつゝわすれはてぬわかすみなれ　政為

一人三首　わすれんとおもふよりまたわすられぬ人をおもへはすへなかりき　同

同　新つきの身にさへたにおもひそめし世のなかはつれなきものをわすれん　為広

文明十七年内裏月次御会　見すてむと思へはかなしわかれしのわすれむものと人をおもはし　新典侍

難忘疑恋

不忘恋　たのみしのはかなきことをいまさらにおもひそめてはわすれやはする　称名院

恨不忘恋

解事不忘恋

忘実不忘

被忘後恋

忘久恋　今はそのいむこし神も忘れぬる中ゆかりとのかたらひもなし　逍遙院

おりかへし抑へてすぐる人中にさらにあらはす袖のうつり香　稱名院

このころを忘れね忘るゝ歳月もしらぬ身をだにうきものにせよ　三光院

情秋忘恋

被忘恋人

被忘人恋　大永二八四　ことわりや我すらうときよの人はうとくもすらん草葉の名残　元長

忘後恋人　黎葉　うきもみん袖ぬらしけの庭に忘れはてゝも待ちかはしつる　為定

忘住所恋　雑題百首　よそにても人はとはでもうつり行ける住家の跡もしらぬ　慶運

家集　名残ねつ恋しき人のおもかげをたれにか問ひてわすれはてなん

御百首　まつ人を庭の蓬にあれまさる袖ぬれぬらん露のしげさを　後柏原院

永享八六廿三百首　わくらはにたちよる人もなかりけりいつをかぎりとながめすてけん　定親

家集　すごくもひとりながめて吾は待つ野にすみかは知らで過ぎなむ　義政

忘らるゝ身をは思はて世のうきになほそのかたにうらみしもせず　逍遙院

いづくにかあはれを知らぬ夕暮は物思ふ宿の人にならはむ　同

忘身恋

恨忘恋　拾玉集　もしほ焼く煙の末はわれならでうきをしらるゝかたみなるらん

恨　拾遺愚草　明けぬともみえしかひなき世の中におもかげのみや忘れがたきは

同　君がためこそ世をもいとはめかくばかり恨みも果てぬ契りなりけり

明日香集　きのふ雲の空のまぎれに衣うちて神もかみにも恨みぬる哉

家集　うらみてもいとゞ辛きは忘られぬ心の人をとひもせぬかな　為家

亜槐集　いつまでもいでておくれしつれなさに恨むる身こそ思ひしるらめ

同　おもひいでてうらみし中のわすれ草しげりゆくらんつきぬ思ひに

同　ふかくにもいはでやみなんうらみてもうき身のほどをしるかひもなし

同　みるやいふきけしとろうらみちにそてつらくいかゝかる

つれなきをうけてさはるらし人ところもうらにはすれわするゝ　後柏原院

今こそわれおもひはわれいはのせにおちて人きつうらみかは　同

いさとてもなにはかそてわかみきえのなくしも恨なしねさ　逍遙院

行道て人をいさらし難波かうらみなるゝみとさらてん　同

契をかれしよはの夜ことの葉てしもうらみあらしのなくにめてらき　基綱

恋恨　同集　わすれしもうつゝもおなしやうにうらみのみこそ猶かゝりけり　常徳院

被恨恋　亜槐集　君はたゝ人をこそてもとうらむらみかとも人をこそなかれ

文明十六三廿八（内裏女中　月次続哥）　それゆゑのうらみの人ものかくしうらかし　勾当内侍

思恨恋　家集　いかにせんうらむるにもたえし思ふよつけておもふあさきを　平親清女

続草庵集　憂きにみをそむきてもせめて恨むなつらき人のはしにそふね

為恨恋

常恨恋　家集　よそにして人はつらさもなにかはいはらんにあらてうし　邦高親王

恨常恋　わか身なら心にあまる恨わするゝなかのうらみはたえぬものやまん　後柏原院

よのつねにいはぬ恨やつらき人のおもふかはねらぬを　同

不言恨恋　寛永亭会　ひとりのみ燃ゆる思ひのくるしさを人にしられぬ身をうらみつゝ　隆量

同　さのみなとおもひはてすも人のうらみを恨かねつゝ　祐紹

同　守こゝろわれのみおもふこゝろにもいにしへそ恨みて　親長

同　おもひにおもひのそめし心のうちそ人は煙となりし　教国

同　つらさをもいはてしのはんさらはまたうらみわひぬる　季春

またぬそとおもふはかなき人のこゝろもしらぬはたれをかちらん　逍遙院

恨不言恋

恨言恋

待空恨恋　拾玉集　中々にうらみし今は人つてにおもひなきをかはなるゝ世

待恨恋　百首　漏さへつゝむ袖やりしもしうらむもあまりにとはわするゝ　寂蓮

家集　またてこそ小夜あてつゝる人の身かりしれ我しれていをおしはかりけり　慶運

亜槐集　身のうきはいはぬかさり涙にもいわつねうしといはむ人ならなし

続撰吟　ありそなるみをしらぬつき世かりなきよしいひさかりし　持為

さハかりもえてさくもつらてとゆかりに中ふくとりつゝみちもうき世　済継
我さへはようことそをもひのさかりにかさてわれ人にはてぬ人め　公條
いかふるとそのへの人のいくふかうもちの婦しを恨てうかふ　後柏原院
まつ出てうらみんとさすの文人のへよもなしとかるさん　同
おりまちて深くは思ふ人のやしおもひのはらきに人をたのまん　逍遥院
文安詩哥　そむかれし袖しそうしき中ちうわかと此恨の人傳へてうし　同
永正四九廿五　積もらるゝもありふへよりもきさらいつゝむ身をこそ袖の涙をと　以緒
天文七六廿四　百首　はかなくもたのもるの時あるにあなかしこのこゝ今す字のこゝやりてい　公條
懇恨恋
立聞怨恋
不来恨恋
夜恨恋
恨短夜恋　家集　ちるかふるみしかてし秋の夜もなかしとはいふうらみかれぬと　秀能
聞謗恋　明日香井集　人の心かはりけるかなことの葉ハものおもふてつきぬかなしき

聞怨我恋　文永二八四　いかにせむ人のうらみハおもふとも我身のよそにきえもやらめや　公條
報書恨恋　家集　みてもなほ涙の露をやとしあへて又いかゝせん人の傳つてさ（下空）　雅世
雪玉集　けふりさへ報ひかへしてさへむつかしきうらみそみかみ
同　おもひても人はうらむとうらみても何と涙はかへりてもい
續撰吟　去年の今宵うらみし人の跡みてもうらみて人の心たへつる　政為
同　結ひしもいとうらみの心おかしたのみわかれてもうらむ　済継
うちわたすむしを今ふくろみのわかそゝなかそつ年もらし　後柏原院
御着到百首　結ひの人ぬふにもの葉にみをそへて人はうらみよとて報ひなりけん　公音
かきはなつ年へてかへの跡こゝまてそとみて人をいまこそ恨き　公條
恨むるも我ハ一筋になしにたもふかうかみ揺にものこと　為孝
文安詩哥　応永元十三　身をきくにうつりきぬれと一筆の人にこそ残れとうらみいひて　貞敦
見書恨恋　さても又いかにたのみは書うつしわかこそなほおもふかりて水くきの跡　為広
恨増恋　何とくにうちすてつみしもいつしかはかなくのこる恨かひと　逍遥院
増恨恋　御集　日にそへて恨ハ深き涙河袖のみくちていつかあふへし　後土御門院

契りしもちかひし今は末かけてたのめしことも人の心か　後嵯峨院
待てしばしなほ身の年月やかぎりありけるつらさならずは　政為
恋しさは枕すくなき秋の夜も恨みしものを露を忘れて　貞敦
恨泣筆恋　雪玉集（三百首　永正…）　つれなさのかぎりのことは言の葉をかけてもつらき恨みなるらん　為理
恨久恋　同　わすれじなまだ見ぬ人の契りにはかはらぬものをうきおもひかな　慶運
（三百首　永正…）　わすれずの月かげは忘れずかゝる恨みはおなじ人　永宣
久恨恋
不謂被忘恋　林葉集　かつ見てもうらめしからむ三年まで待つ新枕せん　俊恵
不謂被恨恋
不謂被怨恋
聞無実恨恋　林葉集　恋しさのうきなをさへともにかへてとふ人もなしつらき心を　俊恵
忍恨恋　今撰集　恨みても忘れぬ人の心をばうきにつけてもさぞ思ふらん　顕広
相互恨恋　新葉集　うき事はおなじ心やかはすらん恨みは同じ人の思ひを　（後光明寺内大臣）
求集　あはれなるいつかと待ちしよひの間にたゆまぬ恨みはつきせぬ　尭孝

人やしるわすれぬ身の思ひも恨みにしかへつきせぬ　親長
帰有恨恋
共恨恋　石間集　わすれじと契りしものをわれのみぞ涙の色をかはす人かな　（右近中将具氏）
恨身恋　承集　身のほどを思ひしらではかなくも恨みつゝ人　（平親清四女）
西槐集　りけなく涙にさへもとはれぬはいかにせんとて恨みつゝ
紅塵灰集　うらめしき心のうちの人ならば思ひしらせよ涙こそあれ　後嵯峨院
つれなさをたのみにかけし身を恨みつゝ　後鳥羽院
こゝろみん思ひしられば身のほどを恨みてもなほ　同
まだいかに今はうきものを恨みてもかひなき涙つゝみかねつゝ　逍遙院
（長敷何　永正二年）　うきゆくと恨みしことも心にはまかせぬ恨みなりけり　重治
世の人はうきをもつらき恨みとや我もうき人の心たのまん　称光院
ことわれども人の恨みはつらき心にて恨みもぞする　同
恨人恋
怨人恋　万代集　つらしとてうらみのうちに思ふらむかはらぬものをうき身なりけり　頼輔

恨世恋　公宴続哥（享元石忘）　よそにこころの人はうらみんなかいとふにつけてもなほは物　雅虎

あそうけしてやすらふかつもはうきうき世のつらい恨みつつ　道虎

恨不逢恋

待恨恋　公宴続哥（正長二十九）　さそそのことのはわりなきうらみても心ひとつに　宣秀

（公宴続哥　永享元二十九五）　かゝるをもなほこともむなしはかりに人のつらき身にてぬる　暁覚

恨要恋

夢中恨恋　家集　たのめしてかへる夜は中々ゆめの中にまたもなき人の夢かたみ　為理

逢夜恨恋

隔事恨恋　公宴続哥（正長八二十五）　うしやわすれはてぬる名残すゑてふつかしのゝめ　実音

被忘恨恋

恨欲絶恋　家集　かくれし星は夜への烟のかよへくる浦風ふく　為理

欲絶恨恋

絶恨恋　家集　いくよへてなにはの月は夜寒にならぬか明のつき（奉ノ）　秀能

絶恋　同　いかにせん今はかひなき涙にもたえにし人はまたかはれつゝ　範宗

恨情添恋　同将　これ人をさそひしてなかなかくれゆかしはまいつゝ月もうらめ　光経

怨命絶人恋

後悔勝恋　家集　なほ世にはかゝるめくりなからへていつかはもとの恋のしつれと　道宗

別恨

恨夢

未添恋

不逢恋

欲絶恋　林葉集　さきえても思ひつゝ中々に今かへりてもわれはすら　俊恵

同集　思ふにて過きしゆくへのつきにさとおもひ侘ひしよかるし　遠虎

かくのなかにきてわすれくうつろひて　いつ後あら　橋虎

さもおかめしにけしのかくしいはてなけれ人　道虎

（正長八廿六　御会叙）　人めいかはいかなる知らしをりあてゝるかりかき中とわすれ　俊量

（公宴続哥　永享四廿五）　うつりゆく人はこころいわすはたみなかれにもうらくめらん　言綱

来不留恋

絶稀恋

一夜逢恋　御集　かりそめにふしみし夢のちきりをはいかになかくとたのまれん　後鳥羽院

爽契恋

絶音信恋

恨絶恋　家集　忘貝ひろひもしてん逢ことのたえぬる[illegible]なん　為家

御集　うらみてもなほたのまれし雨の[illegible]　亀山院

藤葉集　つれなさの人の心をうらみても[illegible]　雅有

新葉集　見しまゝのおもかけのみそ[illegible]恨はふかき[illegible]

同　わかれても[illegible]

家集　かゝる身は[illegible]　兼好

亜槐集　[illegible]

西園寺宴　宝徳三（八十）　[illegible]　[illegible]

続撰吟　[illegible]　[illegible]

同　[illegible]　逍遥院

[illegible]　柏原院

[illegible]　同

[illegible]　同

[illegible]　逍遥院

[illegible]　同

[illegible]　同

[illegible]　基綱

[illegible]　[illegible]院

[illegible]　道興

恋恨絶恋　雑題　[illegible]　為家

同　[illegible]　為定

御百首　[illegible]　[illegible]院

家集　[illegible]　平[illegible]

亜槐集　きえしうたのかはの中つゝめとものこゝろふかくおもひそね

恨みは世のつねなからにやせきそかねてつらきをすて　逍遥院

うらめしきとおもひしこともうらみ人の心のつらきのみかは人　称名院

絶後恋

為家卿百首　あふことはたえにし中のゆふさねのかへりていかゝいふへかりける　親隆

同　ゆきつゝそこゝろつらきわかたにつれてとはゝいまとよ　孫広

同　しのふるにわかそらにけ後もあはぬみちのたえしとそ　為業

同　おもふにもさくらのとしもむねをひとつもきよくとも　為重

同　むかしにしあたのいつくのとまれるのゆへにかよひつゝまた　為経

風雅集　涙もしのふもとのいつくかへるらんみちをわするらん　秀能

嘉元百首　あけなからさいかはかりのなくさめもいはてもまちかね　雅親

絶久恋

拾遺愚草　ふる道をわかたのまれしこゝろさへあはぬにたえてあはぬも

同集　つれなさのはてなきつらさをしらねはそ限りあるかれ　嘯隠

同集　大かたのあはれとはかりなかめつゝあさくのはてのさらにかなしき　為家

万代集　まちしよりいはてたえにし月をのみなかめてそふる　長方

続後撰集　なさけなくてもこゝろをみえてわすられやとよるはれて

同集　あさかほの花のつゆともおもはすてなかきちきりはかなしき　恵好

同　いはれぬもしけきこゝろのつゆなれやあはれなるらん　慶運

かはりゆくひとのこゝろにおもはすてかなしきおもひのつもりゆくらん　逍遥院

永享元七御会　絶えてこそ人のうらみもまれなれやつらきこゝろのたえぬまに　永宣

頓絶恋

おもふへきならぬかけにたえしこゝろのとはてもあらんかことも　称名院

絶驚恋

石間集　わかれしのちはさめぬゆめかとおもふにもたえしちきりのはかなさ　平時親

絶後驚恋

同　ゆめかとてさめてもおなしわかれ路のこゝろのとこをいかにせん　政為

絶悔恋

同集　おもひそめしよりつらきこゝろのおもはるゝかなしさにこそなれ　宗祇

卅首　うきことをかねてしらはとおもふにもくやしきものはちきりなりけり　政為

公宴続哥文明十三十八　わかこゝろはかりはしるやつらきかとたちかへりてもなみたおちけり　道堅

おもふにもこゝろのつゆのきえやらてうらみはふかきものとしりけり　親長

とにかくにかたみにつらきなかなれやたかまことをかわすれはてなん　称名院

絶互恨恋

同集　わかことや人もわすれてうらみなはかたみにたえしこゝろなりけり　経家

百首　今さらはつれなき人のあはれをもかけてたにこゝろゝろにあらましもなし　寂蓮

絶逢恋　新拾　とひやとえぬもまたはうつゝまてみなかくさめは夢よりもなし　前大納言為世

不忘絶恋

不逢絶恋　林葉集　かのつらきことの葉をも恨みてそやみぬることもいまはたのまし　俊恵

絶不知恋　新題百首　おもひ出よ世にしらさりし人ゆゑにたえぬる中の契りなりけり　為定

同　なかつゐの流れにたえてさかみのいつかくしはれふこそ侍し　阿仏

夫木集　なりしその世のことはりにわかれてもかたみにたのむ契りなりけり　義政

荒れゆく妹かもとたえてはこゝろのあさきあとはかれぬる　逍遥院

公宴続哥　永享五十一廿五　つれなさもかはらぬ袖の涙にそくちぬる中のつらさをもしる　冬光

同　同五十廿五　さてもなほたえぬる中のあさはかに人の心はかはりはてにき　實秀

公宴続哥　永享七八廿五　ときかはるわかれしあとの契りをもいはぬにたえてまつよしもなし　季種

同　嘉吉三三廿五　契りしはあさき水のわすれにもたえてたえまのけふもあるらん　兼秀

同　享徳四九廿五　あはれさてわすらるゝ身のおもかけにかへりてもみむなみだなるらん　重親

絶経年恋　続拾遺　きのふはたえにしよりもなかれゆく年月のうきをかさねつゝ涙の色　政為

同　まちわひて秋もいくたひすきぬらんつれなき中のたえてひさしき　洲渡

まつことも世にたつたえてつきもいかにたのめはすへて年へてしるらん　逍遥院

公宴続哥　永正四十二廿五　うらみしかたの中のたえぬまの契りにつゝきて年をへにけり　公條

内裏着到百首　人はいさおもひいてしもそれはかりとしへてつきせぬおもひなりけり　伴長

同　つれなくも何とてうらみけるそ世にあはれなるといふことも侍りし　雅縁

同　いかにてかたえしかともすみはてぬおもひのたえぬ契りなるらん　為孝

同　まちわひぬ秋たえてもいかにしてかはりしかたの中の契りは　公條

同　幾年のたえてかはりし人の心のかはりつゝ春秋のすき　和長

公宴続哥　文亀元十二三　いかにつゝ道をたえてや年月の年をかさねて見えぬ人　逍遥院

公宴続哥　寺記不忘　あはれめぐりて人の契りもたえてかはりし年月もたえぬらん　永豊

再絶恋　夫木集　ちぎりつゝすゑのまつ山こゆる波のたえてふたゝひかはる契りは　平教文

絶後驚恋

恨絶後恋

悼人絵　ことのはにへあつめの　ちくあるらむ出るはしらかにも明き　逍遥院

物語書絵　定みつれぬまちなれぬ道の人にとてあふ秋のさとしのひまさて　同

結題千首　露ふかき道のわきちふかきくもえてまよひぬるかたみにたに　大弐

同　もろともにのこるかたみに明暮も猶かくしのひあらそひなん　雅良

同　くみわけの心のうちしもなくいかに人のをしはかるらん　為広

寄東国恋

寄西国恋

恋天象　新葉　ゆくへしらぬもの雲はるも月にこそ秋のすゑにのこる　宗良親王

家集　わかれてもわすれはたえぬ袖の月をあはれといつかみはてん　兼好

同　身のうへのつらさをかくしてや心にいりて猶いのちをかけて　平常縁

続撰吟　かの緒をさへしらす行方中あかのあく上弦の月　逍遥院

公宴続歌　文明十三四廿八　わすれねとかたにいへるや雲井のゆくへをみよかしといふ　義政

永正三九　春日社法楽　おもひいれはいはんとふ袖の月をいつくとしてうらみん　賢房

恋日　家集　はるかなる日影に心中にくもりもなく　宗祇

日中恋　家集　紫のいろこく猶ほいたくに心もゆかすわれもゆかし　建春門院右京大夫

元日恋

朝明後恋　家集　やとこの人にいはぬとりわきたえんのちやとおもふ鳥なきて　実家

経日恋　公宴続歌　永正六四廿五　こゝろにけふそのまゝに紫のにほひをぬるゝ夜の枕に　慈運

経月恋　公宴続歌　享禄五　ことはりもかひなき月をへてなほつれなさをうらみつゝ　尭孝

月夜恋　家集　なつかしき月のあはれのおほくらもはれてあかぬ月もうらみし　為理

同　わかれてもいかにそむかむ袖の月にしのふる月影　同

月下契　秋後

寄月待人（月前恋イ）

対月恋人

月顕忍恋　御集　わかちてやいはねともしのはれぬ袖にやとれる月のかけかな　亀山院

月前祈恋　新葉　いのりつゝかはるこゝろを月にとふいのちかきりのあふよしもかな　後醍醐天皇

月下待恋　御集　あはれなるかたに人をまつとてひかりそふ月の夜もなかき　亀山院

同　同　はるかにもうきをかけつゝいつかまたあふ夜の月　伏見院

月前遠恋　新葉　[illegible]月影も[illegible]ふけゆく[illegible]　清忠

月前別恋
暁月別恋　御集　鳥の音を[illegible]月[illegible]逢ふらん　亀山院

月増恋　同　後の世もいかならむ[illegible]月の[illegible]　同

恋依月増　秋風集　うきはらに[illegible]月の[illegible]　信恵

万代集　もろともに[illegible]月影の[illegible]袖の[illegible]　丹後

同　こゝろにも[illegible]山のはの月　後法性寺入道前関白

待増恋　石間集　月影の[illegible]　壽文別歌

月前増恋　御集　[illegible]月にのこる[illegible]　伏見院

見月増恋　万代集　[illegible]月に袖[illegible]　経盛

対月増恋　同　[illegible]　讃岐

月前契恋
月前久恋　御集　あふても空ゆく月の[illegible]　嘉門院

月待久恋　同　いくとせか[illegible]月にかこちて[illegible]　亀山院

月前遠恋
月前恨恋　御集　[illegible]月[illegible]秋風[illegible]　亀山院

家集　[illegible]月に[illegible]　為理

同　いたづらに[illegible]月[illegible]　信光

月前泣恋　御集　面影の月[illegible]なみだ[illegible]　亀山院

月驚恋　家集　[illegible]月の[illegible]　為理

同　[illegible]月に[illegible]　同

月前恋情　春夢草　うきもまた[illegible]秋の[illegible]月影　牡丹花

月満枕恋　御集　袖に[illegible]涙の[illegible]月の[illegible]（[illegible]）　亀山院

月宿袖涙　同　かゝる袖の[illegible]　同

忍国月恋

毎月逢恋

恋風　家集　あはれ小夜ふけぬるまてといつまても見し松の人しみえこい　宗祇

ちきりおきし秋の嵐の袖をやつかたにのむなき　後柏原院

嵐前恋人

恋雲　家集　名にしおふ木にはみえぬを君かこゝろもかつはれならん　宗祇

風ふかく雲もあはれ中空に身をはなれぬ人の行末そうき　逍遥院

恋雨

雨中恋　家集　とふ人もなきにつけてもぬれわたる袖をはたれかしるへき人　成通

同　日数ふる軒の雨にはかつ袖のしつく見えたるゆふくれ　実家

同　守る人もなき宿の軒にもみしれておつる袖のしつく　範宗

ことはりとたのむ人もあらはこそしらぬ涙のあめにそほちて　後柏原院

清雨にうちしめりぬるたまくらの夢のうきねにふるこゝろかな　逍遥院

家集　わすれぬのなかにもみえし面影はかゝるときのさみたれの空　貞敦親王

寄湊人

寄海恋

依雨逢事恋　家集　あまりにも峯のつよく袖におもひしてよはにそ今は　今案　兄之花

絶雨寄

絶雨寄恋　家集　神にいのりするの小萱にすゝきそのしるしは雲のそらにしも　今案　親之花

隔雨恋

雲中恋人

雪夜恋

霧中恋　家集　おもひかねゆくかたのみそいつくともみえぬはれまの山のはそなき　為理

同　衣への袖にうつろふあかつきのかねにあけぬるはかなきそ夢　同

恋煙　同　名をたてゝ遠近人もしるへきをけふりはそらの雲そかなしき　宗祇

身にしみてあはぬおもひをたえぬ世にもえわたるは　後柏原院

絶年恋　家集　隔てゆくとし月をかそへつゝ人のつらさのほかにあはれは　雅顕

亜槐集　あらたまの年もへたてゝわかれにし人を忘れていまもつらさの

御百首　[illegible]　通茂

[illegible]　同

[illegible]　道晃

[illegible]　同

[illegible]　同

[illegible]　政為

同　[illegible]　為廣

同　[illegible]　済継

経年同意　[illegible]　宣治

[illegible]　為学

同　[illegible]　資能

同　[illegible]　称院

[illegible]　家集　[illegible]　成仲

四季部

立春を（よ）める　家集　[illegible]春やきつらん　宗家

春朝を

春夕を

春夜を　家集　[illegible]　秀能

[illegible]　道晃

百首　[illegible]　同

[illegible]　政為

[illegible]　済継

[illegible]　公條

春曙を　[illegible]　通茂

春夜恋を

春晩を　[illegible]　同

春草恋
春柳恋
春夜恋
契春恋　家集
春憑恋
憑春恋　家集
春偽恋
春逢恋
春別恋
春待恋
春夜待恋

末はめかるしいさ心若草のつまもしらはなのうら葉とも　後柏原院

あふことは春のかりねのゆめにたにまたもむすはぬものかは　成仲

うちとけぬ人の心のうらめしきかなしきもあはれなる　實家

こゑたえて今はたやまぬ折しもあはぬうらみにかゝるはるさめ　後柏原院

身を恨み月にのこりて霞むも同し恋しくはかなき　同

つれなさも今はわかれにかはるらん　同

春怨恋
春厭恋
春悔恋
春老恋
春稀恋
春驚恋
春遠恋
春近恋
春隔恋
春忘恋
春恨恋
春経恋
春疎恋

うつろふも春はなれ行く人の心の色かはらすみえても　後柏原院

暮迄も眺めし霞の色そふけゆけはかりしかなし　道晃

寄樹物恋
こゝろなはあめるらし今はとて人をたのめる人にしらるゝ　播磨兵

暮春恋
春はしあるゝものとや松がえにかゝる藤浪みつゝなけくを　逍遥院

一
桜ちる木の下かけに花もなほ暮ゆく春の名残をそしる　同

万三辰
はるかにもてるかたのかりに春暮て人にしらせぬ別なりけり　政為

同
春もくれぬかゝる契りもあだ人のいはぬおもひは猶もかはらむ　為廣

百首
ちる花にうつりゆく春のくれぬとやかく契りしうさもわすれぬ　實親

同
かはりはてし人のこゝろもしらせめやゝくるゝ春は恋はしけれ　政為

同
あかつきもはなれて春もなほいかにしてかのくれはてし恋ぬらん　済継

同
春くれて春ものこらぬ人をあひ見る春は限ある恋にしも　公條

同
おもふのみなほうきは春のわかれ明けはてぬ恋に汝はなれん　公條

三月尽恋　石間集
うきめのこゝろにそひて行春もいはぬにしのべしきは　兼載

夏初恋

夏夕恋

夏夜恋　家集
下もゆる思ひのくるしさよ夏はなほみしかき夜はねられざりけん　大弐

万代集
あはれなるなかにしもおもふ夏の夜のみしかき夢ははかなかりけり　實有

小夜衣かへしてもねぬ人の身をいかにしてかは夢にみるらん　逍遥院

夏衣ひとへにおもふ夏虫は見えぬ思ひにもゆるなりけり　同

百首
かくばかりみしかき夏の夜はなほいかにかぬれしねぬるよを外　政為

同
稀にあふ夏の夜の夢はかなくて人の契りぞはかなかるべき　済継

同
まれにみる夏の夜の夢はまたしかもうきねはつらき恨みなるかな　公條

夜夏恋　家集
何ゆゑとおもふもつらきみしか夜のゆめはさめてかなしかりける　秀継

同
恨みてもなほあかず恋しき夜はみじかきうきをかくしけるかな　同

夏稀恋　同
ねぬさへにかさねし契り夜をうらみつゝなほこそわかれめ　入道宗都大宰（?）

夏遇恋

夏見恋

夏契恋

夏祈恋
神社にいのるとも夏衣かさねてかけて頼むつらさを　為冨

夏暮恋

夏鳥恋

夏草恋

夏[illegible]恋

夏[illegible]恋　夫木集

[illegible]
[illegible]
[illegible]

夏逢恋

夏別恋　[illegible]集

[illegible]
平親清女

夏野恋

夏[illegible]恋

今夏[illegible]恋

夏契恋

[illegible]
為富

夏[illegible]恋

夏[illegible]恋

夏[illegible]恋

夏稀恋

夏[illegible]恋

夏遠恋

夏近恋

夏[illegible]恋

[illegible]夏恋　[illegible]集

夏衣[illegible]
雅[illegible]

夏忘恋

夏思

夏恨恋

夏[illegible]恋

夏雑恋

夏[illegible]恋　万代集

[illegible]
[illegible]

夏[illegible]恋

七夕恋　新葉　いはでのみわれはこしそ年ねたのあふ夜ゆきあひのはしのあはれを　長賢

立秋恋　続集　たのむは秋としりなば心かはる人の心はつゆも袖にもるらん　寂蓮

摘題　ひと夜に蛍は物を思ふあまりしられぬ人の思ひはつゆ　後花園

蛍暁恋

秋朝恋

秋夕恋　中葉集　うき人も秋は夕のあはれをも我方よりや思ひしるらん　為理

同　しめひとてつれなき人の心をも秋よりかはるやとはましかは　同

秋夜恋　さこそはとなかめし秋の夜な夜なも我のみ思ひの煙は絶ぬものを　逍遥院

同　いはでのみ袖にもる秋にさきたてしらぬ夜の雨の音をきく　同

百首　さもこそは夕ぐれにて秋をしる夜をまつ身の神いかにせん　政為

同　まてまてと神も猶くるしかりつのみはつらさを晴のなき　済継

同　いはでこそ露こそ床も物思ふとたえたる人を待にかゝりき　公條

秋西恋　御集　まよはれぬ心にてぞ思ひつるはあはれにあきもはてぬる身は　後崇光院

いかにせん身のほども月は中空に袖にやみしてかは　同

秋見恋

秋暮恋

秋祈恋　恨わびや袖はいくたびしほるらんかゝる契を受けぬ神に　親長

秋契恋　かはらじといひし契の秋なれど契りし露は身にやおくらん　雅行

契秋恋

秋偽恋

秋待恋　うかりけるちぎりまたるゝゆふぐれに秋はいくたびぬれのかりせん　源政伸

秋夕待恋

秋逢恋　本朝集　秋をまちし心もよろこぶにはあまりてまれにあふ袖の月影　右近中将貞氏

契ればかたみにいひ絶て秋霧は袖をもりし衣かへしかさねて　後普光院

ゆふまぐれあはぬ恨の百夜よりかはしつる袖のなみだかな　逍遥院

秋別恋　あかつきの別れもうき物をいかにして（こゝろは秋と）秋そこらくつわりけ　公澄

秋暁恋　ゆきてしも袖の涙のかはく夜もあらじ秋風にさそはれて　源政伸

思ひしも秋にかへらぬ人のうき契とはしるもよしなき　逍遥院

秋偽恋　続集　とはゝやなとおもひしことのあちきなくおもはれぬ秋の夕暮　行長

秋切恋　続撰吟　思ひ出てうき時々の秋のあはれをみよとこそおもふ思のはつかのこゝろは　持為

秋厭恋

秋悔恋

秋変恋　かくしあらはぬ色に見えすなかるゝゝの心のかはる契たにせよ露　公凞

秋稀恋

秋問恋

秋遠恋

秋近恋

秋隔恋

秋忘恋

秋恨恋　家集　あきはてゝまつもひとつもかへらぬ思ひにおもふよその夕風　沙弥道除

　　　　　　　　おなし秋をおりしるものは恨みし契りのちの露ふかきとて　親長

秋怨恋

秋絶恋　　いはてのみうきみを秋にあらたにかはらぬやとのゆふくれ　後花園院

秋離恋

暮秋恋　石間集　秋ふかくのこるもわすれてもおもふそこねもの床はつゆけかりけれ　雅豊

　　　　家集　いふゆふ色にかはりゆく秋は夜毎のあさなくものそ見えつる　為理

　　　　　　　おもひ分ぬへし秋をふる袖に露のかりけり　道晃

　　　　百首　人しれぬ思ひにしらぬ秋もくれて我身にあまる我なみたかな　海住

　　　　　　　七月のおもひのはかなしくれぬるも秋の我袖に　公琰

暮秋忍恋　御集　志賀の浦にかよふかひもあり秋風にたのみの浦のうらみかな　公條

契暮秋恋

暮秋待恋

暮秋逢恋

暮秋別恋　御集　いまはとてあかぬわかれに秋のなこりのいくたひかぬれ　霊元院

　　　　　　　うちつけに思ひもあへぬわかれをあきのくれなはいつかまたねんその夜も　霊元院

暮秋恋
暮秋暁恋
九月盡恋
[illegible]
初冬恋
孟冬恋
約冬恋
冬朝恋
冬夕恋
冬夜恋

千集　ゆふくれのさひしさつらき人のうへにをくれてやかてとゝのへく　師兼

林葉集　冬来るはいかにかれゆくとふかきことや身にしみてあはれにいけるらん　俊恵

（哥合　建保年）　風もうなつまふき人のたこよみてわかれし袖の涙かな　實氏

同　雪もよにみ山の苔そつもるらしたえぬるかたしく袖やいかならむ　定家

同　やまとふねみちはかなくてかくしうつむはしらてやかて　有仁

涙河袖のしからみかけもなくしくるゝ夜はの寝覚いもねられぬ　長綱

（女宮歌合　宝治元十二廿五）　いとまあて三とせこすとも成ぬれは秋のたのみもなし　遊義門院

冬迷恋
冬見恋
冬尋恋
冬別恋
冬契恋
冬衷下
冬逢恋
冬偽恋
冬恨恋
冬待恋

同　雪わけてふみゝしあともよかれつゝわすれてことしは萬もかれぬる　公條

同　さりともとまつ夜の中に僅かのいけるかひもなくそ思ふ　公頼

同　うきみにも涙の川のかはりなき小夜の島もさすみとにゐる　済継

同　かゝるとはおもひしかとも僅かのいのちのみそあはれなる　資直

冬逢恋

冬別恋

冬別

冬国恋

冬寂恋

冬待恋

冬妻待恋

冬切恋

冬厭恋

冬悔恋

冬悪恋

冬稀恋

冬遠恋

冬近恋

[illegible]　持為

冬痛恋

冬忘恋

冬思恋

冬恨

冬絶恋　[illegible]　為富

冬雑恋

冬空恋

冬通恋

冬所若恋　玉吟集　[illegible]　季広

厭書恋　家集　[illegible]

同　[illegible]　小侍従

閑書集　[illegible]　道遠院

百首　[illegible]　政為

同　恨ても身ハいつまてか数ならて年さへ人の中に猶なからへき　済継

返書恋　拾遺愚草　わひぬれは年の暮にも大空ハ人ありとてもなかめもはてぬ

焼恋書　林葉集　つらかりし思ひはのこしてなかなかに煙とそなる秋の後には　俊恵

うせしめ恋　家集　かしこしな人のかたみにくらへても悲しきものハなかきよそのよ　覚綱

摘題　家をいてゝつかふるハわかもとよりいく千代の松とみよし　為信

恋暁　同集　とふ人もまれなる宿の有明の月をたにこそわかれの空　雅俊

暁更恋

厭暁恋

兼厭暁恋　雑歌　百首　うき人とさてしはの暁まてもかねてはのちのうさもしらなむ　為定

内裏百首　したふとよさこそすれ人のわかれにもなれて暁乃そらそうき　後普光院

永享八六廿三　百首　我恋ひてもおもふかなしき暁のなこそしらすしなはるそ　資任

家集　きのふはさめてもゆる暁かりそめにしらすしかりなはつく　義政

基盛集　いとはぬ人の神にまかせのちきりよりも忘れよ暁のそら　持純

なの世にハ人の暁ことのかねにさへ人こそしらね心こそつくせ　逍遥院

暁逢厭恋　家集　みてもなほあかぬ別れにあかつきのつらきは夢のなかりせは　為信

惜暁恋　同　うきをしもふかく思ひの涙にはなさけなくのみいそかれにけり　範宗

同　今はとて紫のにしてあかつきの山の端かけてなくものを　光経

暁欲別恋

暁聞鶏恋

暁猶留恋　永享二八廿　名残わかれをしいてゝその後は又人やまつらん有明の月　後花園院

朝恋　月清集　そむかねの袖はなさけの朝まよひけさのみそらの露もなくらく

拾遺愚草　云(?)とつてもなかなかにとしのそこのなかれてそあけの身に

沙玉集　待わひてなみの下にかはしてなかれつゝわかれのなかにおもふ　後崇光院

御集　あかしつる暁ことのわかれをもかへりてこそしらめ　後鳥羽院

永享八六廿三　百首　こゝろからつらきも身のあかつきに中々に人の身をもあかつき　実雄

朝とのこえ新くるれはなれともなきやらむ　後鳥羽院

山のはの[illegible]たなひく[illegible]　道晃

雲[illegible]　同

[illegible]　為廣

（人三十七）[illegible]　實望

（[illegible]）[illegible]　三光院

雲切　（類聚 新今）きぬ[illegible]道[illegible]　為相

[illegible]　經親

朝夕雲　（[illegible]集）物[illegible]　道晃

晝雲　（同集）今[illegible]雲の[illegible]　同

[illegible]中[illegible]　逍遙院

わ[illegible]　同

（[illegible]）[illegible]水[illegible]　實隆

（同）[illegible]

わさ[illegible]　和長

（[illegible]）[illegible]　為廣

わ[illegible]　稱名院

浦[illegible]　三光院

雲夕　（類聚 新今）[illegible]入[illegible]の[illegible]　為兼

[illegible]　經親

（同集）[illegible]夕[illegible]の空　俊光

夕立雲

暮雨雲　雲[illegible]　道晃

（[illegible]）[illegible]　元長

流れの夕　（同集）[illegible]　逍遙院

晩雲　（[illegible]集）[illegible]

晩景雲

朝晩之雲　（大永二[illegible]）[illegible]雲[illegible]　家清

暁樹恋

暮恋　明題集　わかきうくうつしいはん人そ[illegible]のゆふくれそし

家集　秋をわきていふへき[illegible]のゆふくれ　範宗

御集　[illegible]　後鳥羽院

一

[illegible]　道晃

暮夕恋

暮雲恋

暮故人

夜恨恋

寝覚恋

夜半恋

寝覚暁恋

深夜恋　御集　さよの[illegible]　嘯院

不逢恋　林葉集　三年まて[illegible]　俊恵

家集　[illegible]別れには[illegible]　平親清四女

絶因恋

絶後恋人

歎絶恋　林葉集　逢ことの命にかへし[illegible]　俊恵

同　わかれ[illegible]　同

家集　まつ[illegible]　實家

同　いまさら[illegible]　同

寒夜恋　家集　[illegible]　惟方

寒夜恋切　林葉集　[illegible]　俊恵

恨一夜恋　夫木集　[illegible]

無他恋

無逢恋　家集　[illegible]　経家

恋昨今

恋地獄　新葉　[illegible]　長親

同　所にわか身の煙となりぬともかゝるおもひの末にくゆらむ（幸ノ六）　宗良親王

夫木集　峯のうへにしらぬはしめのしめてしも人わけまよふ野への草かな　堯孝

同　あやなくもよそ人のねたみのこゝろよりうきなのみたつ山の井の水　常縁

続撰吟　おもひ入る末はなかなかうつゝにて山の奥にそ袖はぬれける　持為

同　こゝろをそはかりし人のむかしよりあはてわかるゝ袖の涙は　為広

同　もろともにきえはてぬへき思ひ山なけきの峯は袖にかゝれる　雅世

同　ねやのうちのよそにもしるきおもひ山しのふこゝろは袖にこほれて　栄雅

三百番歌合（前四百十八）　あさましや身のつゆはかり思ひ入る人にこゝろをとめしをの山　義尚

恋山　　わかこゝろいく山川をこえてしも思ふ人にはあはてやみなん　持為

山路恋　　いかにせむ思ひいりにし山路にもわかるゝ人のあとはかはらて　逍遥院

深山恋　新葉集　袖の露かゝるなけきのおく山に人めはたえてふかき思ひを　政為

春夢草　人しれぬこゝろのおくの山かつらかけてもかよふ道しなけれは　光経

深山恋　　まてしはしこゝろにかゝる山の奥の峯の松かせいかにきくらむ　肖柏

雪山恋　拾遺愚草　うきなのみたえぬ山路の雪ふかみなけきのはてもいつかきえなむ　定家

夫木集　ゆくへなきこゝろのはてはしらねとも思ひのやまのあとをたつねし　範宗

同　こひしさはあはれなにとて山のはに月ををしむなみたにぞぬれ　光経

恋関　　あふさかの関のこなたにさはりありて思ひのほかに人をまつかな　持為

関恋

関路稽留恋　太（三八四）　こゝろにはさくやこのはなふきかへす関のうちにもあはれとやみむ　実隆

会坂関恋

恋杜　　あふことをいつかはいつの杜の露きえてくつきにねてそ袖をぬらして　逍遥院

行路恋

遠路恋　夫木集　たちわかれ行末しらぬ旅のそらにこゝろはかりはみちをたのまむ　為氏

なりぬともいかてかはるかにみちしらはなにかうらみのかすもしるへき　逍遥院

後恋（臥遠路）　林葉集　こゆれともたのみかたしくいつかへるゆくゑのおなしみちにわかれん　俊恵

同　たのむとも程はるかなる旅のそらにこゝろのまゝに思ひやらなむ　同

恋火　　思ひわひたえぬおもひの煙にて袖のなみたもかはきはてなむ　逍遥院

続集　契りけむむかしも見えてとにかくにあらてかくこそのこゝろうきとそ　郁芳門院安芸

こひしさも水のうきに流てし果にあはむとまちこそまつれ　二条院

水辺恋　今撰集　みなせ河はやくもわれはなからへてみつくきのかけみるかひもなし　鎌倉右大臣

何ゆゑにうき瀬にしつみかくはかりみそきのいけにかゝる涙か　同

恋河　流れてもあふせありやと恋の川わたるもうれしき身とそなりぬる　遠虎

こゝろさへいつの心をいかなるも契りは今も行へて　政為

蒲河恋

夜河恋

恋海

海上恋

海辺暁恋

海辺恋　続集　行舟も海の人ならぬおほかたの人なきにしもあらぬはなれ　時広

海路恋　同　歌人の舟のこゝろに漕出しひらきし風にこゝろまかせて　頼輔

同　秋恋の風の浪路に漕わかれ契りはいかに行ちるらん　光経

一万代集　恋しなはなきぬるそてのなみのかけもさしてなくてそ君を見ぬよの　長方

同　おりふしも有けむ海に舞て秋のはかなくて恋しきわか身人　若水

海辺恋　続集　夕潮に人のみちひく波のまに涙そかゝる波の上にも　秀能

海浜恋

恋国　正治二年百首　ありかたき人の世の中に身をなしていつか山田のこゝろをそしる　公條

城外恋（門イ）　百首　ところせき袖の涙をなにとかはうらみてたのむ我身ならまし　宗蓮

（寄船イ　歌のかの　あさ）

城外関恋

後京極摂政家　林葉集　ことさへ身も恋に人はさもあらはあれなゝ浪のしほ干にのこる瀬の　俊恵

寄関人恋　続集　あひ見ぬ日をかさねしにこそ人の心をとゝめてうらみかねつゝ　実泉

境外恋

激浪恋

社頭恋

恋寺　同年　うき契りなきことも又いつとせん頼みの日影のしたにかけても　雅俊

古寺鐘

水郷鐘

山家夕鐘　林葉集　夜もすからもとゆへとも思ひ山寺の鐘をきくたくふ嵐の風　俊恵

山家暁鐘

閑居鐘　家集　つくさやかるゐにかゝりてあけくれの鐘をもきゝしかゝりくらさは　俊光

河集　妙をとはき暮らす入相の暮の鐘をかきりしかな　雅寛

続撰吟　おりひとも我人のとふ迷ひにつかぬめれはちともゆるさむ　雅光

ゆふつきそなかめし鐘の声に誰をまつらむ夜半もなむ　道達院

三玉集類句　文明十二廿八　たちぬる浪とおもひし神の鐘に消ていふよもとふの声　親長

天文十一年　千首　三世をすてゝ聞の鐘の声をきく夜半の声をきく　雅言

寄鐘祝　みかのきくの聞の鐘のかたにかれはいひかくなる

三玉集類句　文明三四五八　聞へとも忘れぬその鐘は我かたの遠きの鐘　同

よもすから神にかけても忘れぬかのもきゝ声　為冨

永正三十八　春日社法楽　とふみ我鐘のそれは世の鐘にきゝ遠ゆくつきたれの声　資望

不拘
寄池亀
寄園残燭花　古集五類　百首　ゆか門て千とせを見ぬ君よはひをかめのたのしき　頼河

同　さよの池に鐘の声に千とせを契らん　良守

同　池に千代もかよふ庭の松の緑にかはらん　良春

同　竹のつまてかはらぬ園の竹の末ながらもかたらふ人　政宗

往還寄門

閑戸寄

寄植物　新葉　よろつ世をかきてすめるをみつ世の千とせの松　長親

家集　冬の夜にたのしみをかさねつゝも竹のその葉もなし　俊光

同　いろかはる花の色をもすてゝ松の緑を千年まて　兼好

寄草　三玉集類句　文明十二四八　うつみ火をさしてよもきを思ひそめぬる秋のすゑ　道達院

兼寄恋　家集　よしなきこゝろをかけて千とせまて世をへんものをとは　内大臣

寄竹侍恋　同　うつろひし身をさゝかにまたもさかぬはなのみ　為重

こゝろのかはる神のちかひをたのむそと　同

対葉懐旧　同
みをもりし我秋のとは昔たにいろふきつくれはものあさちふを　道堯

恋木
ぬれぬとのちらて[illegible]神[illegible]よ露はまさりて[illegible]　政為

おもひ出くおもひ柳のうへもうし露[illegible]　雅俊

寄下恋（文亀三年三十六番歌合）　家集
はまてうきいのこゝろは[illegible]浪のあはよりも[illegible]　貞房

我とすゝ人[illegible]おもひむかしの[illegible]　政門

恋苑（古集三百首）
更懐君
人のあさもなたなれをすくにいみえてこそつらけれ　良守

猿の[illegible]いのちは[illegible]　周嗣

恋榊
わかれの[illegible]人の[illegible]　為廣

恋柏
こゝろことに[illegible]　道堯

年のあはれ[illegible]　実隆

恋動物　新集
[illegible]　基綱

（三百首三十九）　吉社法楽
契[illegible]　同

[illegible]　元良

わかれねとさらにて暮は[illegible]　隆康

恋鳥
さえてる[illegible]雲風に月の鳥は[illegible]　為廣

（文亀三年三十六番歌合）
ともし[illegible]　尭胤

寒夜恋　同
[illegible]

恋獣　御集
置の[illegible]人[illegible]　雅康

[illegible]　政為

恋虫
なく虫[illegible]　同

（文亀三年三十六番歌合）
[illegible]　一條

猿暁恋　周防集
[illegible]

猿夕恋　林葉集
[illegible]猿[illegible]　俊憲

聞猿恋　万代集
さ[illegible]　御室 後花

聞中暁恋　家集
[illegible]　秀能

同
[illegible]　為理

旅宿秋恋

旅宿暁恋　雪集　草枕かりそめたのむ床はたゝ人よ花やかにして明わたるらん　秀能

旅宿別恋　草枕むすふも夢よすかならて行末とほくわかれ行らむ　後柏原院

旅宿思恋　妹へよ今むすふも草は霧にもまた妹か袖にかへる　逍遥院

緒題千首　もろともにみし夢の枕ゆふこたへふりにし道芝の露　右大臣

同　思ひねの夢はなかなかむすふたにあはれ旅寝の枕よ　内大臣

同　我妹子といはれぬる夜半の旅寝もいとゝあはれ契りて　前大臣

同　まとろむもなき草枕かりねすも人のむすひしよりは寝うりは　教国

同　こゝろ待ことよそのまた露をしきて我もよそなれよ　基綱

同　露ふかき旅ねの袖もうちしほれなかなかに夢のうらみて　為廣

同　よりくる夜半の旅ねの里は宿てつれなき中やうらみ　公夏

旅泊恋　同集　うちたのむ手枕の夢にみるもはかなき浪にかよひけり　後花園院

表実草　秋もこゝは中々の浪の枕にしるしを浮寝の床　林葉花

同　月の宿も心通ふてふ中そうきいつの浦の浪のうきね　同

旅泊暁恋

恋人事　永正三年九　春日社法楽　いかにせむ民のわか道て出つるかけはみちはかなきあけぬめりなむ　政長

同　らうみとも人は浪にもまかせそよなかなかさわきぬる袖をみるらむ　公條

主君恩

被割主君恩

隔我再他恋　承集　またぬるしれ人はすも君かつまなるかなしきてことはさらに　為信

乾元許合　いかにふるきことまてたのむ世の中うちも宿のあるし　資敦

同　ふくるまてわかうつり香を志るくにつもりのあり　為加

同　なかく方わかれをくこてもうつりしき人をやのかなしき　為景

同　我妹子の嘆きはかなき逢ふそらもなきわかれをしらぬ　経宣

隔我異他恋

秘知音恋　林葉集　いつれかた人はみそしる我をしはまた花の波をたつるらし　信忠

隠知音恋

忘傍年　うれしき人に先つれなきそれゆへにかくみえて　政為

秘従者恋（あからさまに　二つとも　きこゆ）

思高恋

思貴人恋

思異人恋　家集　末は松まつらん人の夕暮にかはらぬ身をとて波をこえて手はな　信實

思夫

恋両人　林葉集　我恋はゆくへもしらすりんかうの旅人よそにわたりしそれ　俊恵

同　うつゝにもぬえ鳥のうらなけき恋にそなかむ命さへいかにせん　同

為思両人　百首　津の国の生田の川に鳥もゐは身をかきりとや思ひなりなん　寂蓮

続撰吟　生田河沈みし人も水底のこゝろかはらて今もなほそ　持為

天文七六廿四百首　いつ迄とおもひさためすいとゝわか身の思ひわけかねつゝいつまてん　言継

年恋両人　うつ月を古への人にたてゝあかぬ思ひをこえて人もわかちまし　三光院

両方恋　あかつきはいかゝせむとてかたみにそわかれて[illegible]のわかれはしらねとそ　逍遙院

恋二人　家集　うち恋は年へて人もかはらぬを見てこそあはぬなかはしらさき　惟宗廣言

思二人

思二人恋

公前隠恋

人をさけて二人

隠年恋

共隠恋

互有隠恋　家集　人しれぬ思ひはつきぬ年のをも今は思ひそ来ぬ[illegible]此関　雅兼

乾元二年　はるかにもこえて今さらつゝとひとつ心にかはるともいふかたのこともさきさすを　為景

同　わかれてもたれもすまへる難波潟かりねのそてにされてこそ　経信

同　しのひさらてきまをもとにせんかく忍ふる物を思ふ雲ま　為教

同　わかれおはれは小舟の心にもなかれてかゝるわか中のみなりなん　宣資

同　忍ふるも芦分小舟しらぬにこそうけくなきおもくさみをすまう　師言

被精進恋　林葉集
大かたはみちゆく駒の足なれや[illegible]　俊恵

被叱親恋　同
さそかしな[illegible]　同

稱老恋　家集
つれなき[illegible]　惟方

老恋　拾玉集
忘られ[illegible]

・玉吟集
もろともに[illegible]　円雅

家集
浦て[illegible]　寂蓮

沙玉集
恋しき[illegible]　後崇光院

よしや[illegible]　逍遥院

公宴続歌　永正三四廿五
問[illegible]　宣胤

逢[illegible]　三光院

老後恋　林葉集
[illegible]　俊恵

同
おもひ[illegible]　同

家集
恋しき[illegible]　[illegible]

同
あはれとも[illegible]　惟宗広言

哀しれ[illegible]　逍遥院

老後稀恋　百首
我なから[illegible]　寂蓮

公宴続歌　永正四十二廿五
今はわれ[illegible]　政為

天文七六廿四　百首
[illegible]

老後切恋

老後忍恋　大永二八四
恋しき[illegible]　宗清

老年恋　家集
いつまて[illegible]　祐宗

憚老年恋

寄老深切恋　林葉集
[illegible]　俊恵

依老忘恋　寄老同　同
[illegible]　同

老人狎恋　家集
[illegible]　建礼門院右京大夫

幼恋　拾玉集
[illegible]

[illegible]　有家卿

ちる袖はゆかりありのみちのみ秋のこゝろつきし夜をもうらみしを　柏原院

[illegible]　逍遥院

同　うつろふもみちの梢も唐衣[illegible]　同

（類題和歌　永正三四十四）もみちはの[illegible]　雅俊

（同　永正三七廿五）夕暮は[illegible]　貞敦

同　わかれゆく袖に[illegible]　実香

同　わすれなん井手の[illegible]　宣胤

同　ちとせふる[illegible]　季経

同　秋風に[illegible]年月を[illegible]　重保

同　袖ぬれて[illegible]　永宣

同　わすられぬ[illegible]中の衣の[illegible]　済継

同　いかにしてよそのつらさに[illegible]　尭胤

（一人三十九）たとへなき[illegible]　邦輔

同　今よりは[illegible]　称名院

人遠
被驚恋
不得逢恋
旅恋
被謗人
人伝恋

（大永二八四）夢にたにゆるさぬなかは[illegible]　後柏原院

人はいさ[illegible]　逍遥院

[illegible]　政為

[illegible]君は[illegible]　尭空

（類題和歌　永正十八四廿五）[illegible]人目の関は[illegible]　尹豊

（同　享禄四廿五）思ひあまり[illegible]　称名院

[illegible]　三光院

百首　[illegible]　同

被厭人恋　林葉集　三年まて[illegible]　俊恵

今はとて[illegible]　柏原院

[illegible]　逍遥院

（類題和歌　永正三廿五）[illegible]　邦高

同　[illegible]　政為

同　うきなかは[illegible]　雅俊

同　[illegible]　實隆

同　[illegible]　公條

同　[illegible]　永宣

同　[illegible]　済継

同　[illegible]　兼緒

八代二　みる[illegible]　為廣

太二八四　[illegible]　宗尚

恥人恋

負人恋

悼稠人恋　夫木集　[illegible]　經家

称絶人恋　太二八四　[illegible]　公條

恐絶恋　夫木集　[illegible]　雅宗

閨談与人恋

近隣恋

近隣夢人

對泉恋人

忘自我人

被忘人　万代集　[illegible]　俊忠

人忘我

我忘人　新撰六帖　[illegible]　緒亮

憂不復人　[illegible]　同

[illegible]　遠境

六家集寄　夏八十五　[illegible]　邦高

同　[illegible]　雪經

同　[illegible]　季經

同　いとせめてわかれしかしま袖かけてみえ候ねわきてなく覧　俊量

同　いまさらなにへつらさもあはれなと思ひしよりはむくいありける人　雅俊

同　昔のわかれにつきて思ひし恋衣おりしかぬ心かはかなりし　寛秀

同　みるへきそのことゝもちかみよ今ひとつ人はみなつらき心あれ　和長

いひきておりしやうらうことゝもわかれとしつゝ心にしもなかりけり　公音

あさけれは人やかへるとちかふともあひみしものとおもひたき　為学

[illegible]　なかなかによそにのみやはおもはましつらきもしらぬ人　政為

憂不擇人

いて我をよりいたすてそわかつらきたくにかれはるとをしらむ　稀範

競人恋

寝覚恋人　夫木集　こひしくはまろねの袖をいかにしてわかれゆく見ぬ夜はなけれ　惟宗広言

恋遠人　林葉集　まちかねし今夜もおもひしあかつきのうしとしらまし　俊恵

夫木集　あかつきに帰る旅のなくさめか雲井にいつるてもわかれをそ見む　基俊

同　ともすれは世をさきてかへるよるのなかそつゆとそ見つる　同

恋遠所人　同　ふるさとの我かなしみのゆくへをしらてあはれなるかは　行宗

逢遠所人　同　わかれしのわかれのほとにいつしかとまたあふ人はなく覧　覚隆

同　おもひかね旅にいてゝもたえぬれはこゝろのとまる人　有房

待ちわひぬるを来る恋　同　数ならぬ身をかへすへくもあらはこそ人をまつへき　覚縁

恋東西人

恋田舎人　林葉集　夫れなとよ　こゝろをあはれむ人のあはれさをしらすやと我はなけく人　俊恵

閑人恋　夫木集　恋ゆゑに山里住は住なからさえのこゝろの憶ものかな　会宗

恋遠方人　同　ねさめしてむかしをしのふ夜なれはなかめもやらぬ月　寛縁

許合恋　三年寺　新羅社歌合　あかつけにゆくとは見えぬ人のこゝろそかはりはてける　蓮忠

同　君か我か人のつらさをかくる身はさらにわれもなきあり　泰覚

同　我恋はわすれにしとやおもふらん人のなさけのいかにつらき　道祥

語合恋

爐邊語　林葉集　むつことはあかてもさそふ夜はなかもなりけり　俊恵

限清恋

恋隣女　家集　あ[illegible]　實家

忘[illegible]女
（年々恋を云ふ）
（下女をも[illegible]云ふ）
家集　あらぬ名を[illegible]きはのみつくさぬ[illegible]そのこゝろきもみな　宗家

親女
会他恋

被[illegible]女恋　林葉集　女郎花[illegible]たをりて人[illegible]の露[illegible]つれ　俊恵

賤恋
貴恋　大永二八廿　[illegible]かひなく[illegible]山の[illegible]宿[illegible]　暁覚

被返[illegible]恋　大永二八四　ちりつもる[illegible]のこそ[illegible]神の[illegible]深き[illegible]みし　元長

思後媒恋　年[illegible]年月[illegible]人[illegible]　政為

被[illegible]恋

失媒恋　公宴続哥　大永元十一廿五　[illegible]鳴[illegible]　宗清

失媒人恋　家集　しるべ[illegible]　清[illegible]

失中人恋

無媒人恋　家集　[illegible]のこゝろを[illegible]　惟方

嫌中人恋　隣女集　[illegible]　雅有

偲偏恋

与君絶世　永正三十廿二　北野法楽　[illegible]　逍遙院

君意
人莫知　公宴続哥　永正二年　[illegible]　後量

違令　公宴続哥　[illegible]　未[illegible]　政為

同　わ[illegible]　後柏原院

同　命のいと[illegible]　後柏原院

同　あ[illegible]　實隆

[illegible]　按察典侍

懸命恋　公宴続哥　永正八六廿五　お[illegible]命[illegible]　邦高

欲[illegible]命恋　公宴続哥　永正十二四十六　人のこゝろ[illegible]　実隆

違身

寄[illegible]雑恋

恥見恋　続撰吟　思ひそめて[illegible]みえもやんかく[illegible]つれなきことは　逍遙院

[illegible] 同

[illegible] 政為

公宴続哥（永正八二八廿五） [illegible] 隆康

同続哥（永正四四廿五） [illegible] 貞敦

公宴続哥（永正十八四廿五） [illegible] 門光

歎身恋

恋所恋

隔物恋 公宴続哥（文亀元九廿五） [illegible] 尭空

恋情

恋心 家集 [illegible] 雅兼

同 [illegible] 俊光

同 [illegible] 尭孝

通恋

不通恋

不叶恋 [illegible] 基綱

[illegible] 政為

（永正元五十五 何石殿） [illegible] 俊清

[illegible] 為富

不同心恋 家集 [illegible] 為重

非心離恋 同 [illegible] 雅世

続撰吟 [illegible] 政為

[illegible] 済継

[illegible] 基綱

公宴続哥（文亀三十二十八） [illegible] 堯憲

同（永正八八廿五） [illegible] 冬光

同 亭続哥（[illegible]） [illegible] 雅親

御着到（百首） [illegible] 雅縁

[illegible] 公條

[illegible]　公音

[illegible]　康親

[illegible]　季雅

[illegible]　重治

[illegible]　為孝

[illegible]　逍遥院

[illegible]　宗世

[illegible]　逍遥院

[illegible]　宗[illegible]

君恋
軽偽恋　（[illegible]）

語女恋 何深　（[illegible]）

[illegible]
五[illegible] 通心　林葉集

[illegible]　俊恵

[illegible]　同

[illegible]恋　金葉集

[illegible]　行宗

[illegible]　逍遥院

恋憂喜

[illegible]　為廣

忘憂恋

[illegible]　逍遥院

独言恋　林葉集

[illegible]　俊恵

欲参方違恋　春夢草

[illegible]　牡丹花

恋涙　（[illegible]）

[illegible]　宗[illegible]

[illegible]　為冨

[illegible]　称名院

[illegible]　三光院

拝涙増恋　大永二八廿

[illegible]　実[illegible]

涙徴乾恋

[illegible]　頓阿

唯有涙恋　百首

[illegible]　良春

[illegible]　[illegible]宗

法楽陽関
掛

続五明題
古集句題
百首

見せく涙は[illegible]　惟賢上人

恨ても逢は涙も今はつきぬらむ[illegible]　円

涙しそからくれなゐ[illegible]　良守

[illegible]涙も袖につき[illegible]　政宗

消ぬとも思ひの色は[illegible]　周嗣

中宮浜
満床

恋色

公宴続歌
永正二年

[illegible]床の上に何[illegible]袖に[illegible]　為広

つれなき人の[illegible]涙に[illegible]　道虎

うつりてふ人はこゝろの[illegible]涙[illegible]　宣親

[illegible]　重治

公宴続歌
文亀三十五

わかふみの[illegible]　基富

[illegible]　実望

[illegible]　永意

[illegible]　賢房

[illegible]　仲長

恋香

公宴続歌
文亀三廿五

[illegible]　邦高

[illegible]　覚胤

[illegible]　仁悟

[illegible]　為孝

わかふみの[illegible]　公音

[illegible]　邦高親

恋声

家集
人三十九

[illegible]　為広

[illegible]　徳寛

[illegible]　道虎

公宴続歌
文亀三十五

[illegible]　政為

[illegible]　雅俊

[illegible]　守光

[illegible]　済俊

夏恋

拾葉集

[illegible]　実古

悪夢　（三条後奇 宮内四五九五）　さめぬまてうつゝにみえてこそはしれ夢は中〳〵人のおもかけ　維行

同　（文明四三八）　契りけむ夢のうきねの中もうきをいとゝ夢は逢見つるかな　一位殿

夢中恋　家集　まてしはし夢みる程もさめやらてほとゝ枕に恋わたるかな　大弐

同　御集　恋てさの程ていねすゐると契へしも来ぬ人は夢ならてせん　後鳥羽院

はかなくもみるもさそふかはすとも夢と知りてはしのひかねけん　道晃

つらさをもわすれけるあひみるは夢とさへこそわかれけるかな　同

はかなくも逢ふ夢路のつらきには夢後のわかれしほりかねける　同

夢中慰恋　恋わひて我ねの中にまよふ夢は哀れなるかなつれなき人の　道晃

夢中逢君手　まれにかはのゆくへなかしらてもゆめはかなくしのひてそあれ　同

夢別如今　（古集六百首）　ちゝ別るゝ時は夢にかへりてもなかに枕をは　紹河

同　うきことをおもかはれむとも夢路にしたひあかしそめにし　良守

同　見し夢はあはれにもろく月をみて中に露そぬるゝ　良春

同　雨後をきてしもくにみる夢はうつゝにかはらぬものを　是宗

夢後恋　摘題　あかつきは枕にのこる面影もなさてもみつゝはかなくして　堯恵

独寝恋　隣女集　ひとりねの床にのこれる袖のうへにかはらぬ月の影そうつろふ　雅有

[illegible]　家集　今はたゝ恋ひわひぬとも夢にたにみえぬも人のつらきなるへし　時朝

独對孤燈坐　よもすから人をまちてはねられぬにともしひのかけもかすかなるかな　道晃

（永享三十二 水無瀬法楽）　君をのみ我恋ひわたるよはのかねもさむるほとにはまたなかりけり　堯恵

寝覚恋　堀川院百首 中二度　恋ひ侘ぬ人の夢にもあはむとてみえぬ枕にむすほれつゝ　仲實

家集　人をまつ寝覚の程のさむしろにたえてねられぬ袖の涙か　雅世

鉄磨集　見し夢はあとなき床にまよひつゝ寝覚にかよふ恋のみちかな　堯恵

根ふつる涙のうへにまたそてもあやなくぬるゝ寝覚の袖かな　道晃

人をまつよの夢もかよひてたのみしもあはれはかなき寝覚なりけり　同

（三条後奇 文明三宍）　君はたゝ我かへるさの夢なれやおもひねさめてぬるゝ袖かな　一位局

（享禄四年 御百首）　おもひつゝねさめのあかつきのかねにさへこそかなしき　公條

寝覚恋　万代集　恋ひつゝてはかなき夢にまたあひみてさめぬるほとのなみたなりけり　讃岐

移香恋

禊着恋　正宣御會（天文元十廿五）　[illegible]　康親

両郷恋　家集　[illegible]　為重

恋両郷　[illegible]　後普光院

恋餘波

恋形見　春夢草　[illegible]　杜冊院

恋形見　家集　[illegible]　義政

留形見恋　続撰吟　[illegible]　道堯院

[illegible]　政為

[illegible]　円

（正宣御會 天文四四廿五）　[illegible]　雪親

残形見逢　[illegible]　称名院

形見恋　家集　[illegible]　為重

無媒恋

寄宿恋

楽恋

愛恋

嘆悍恋　家集　[illegible]

有悍恋　家集　[illegible]　雅季

積恋　（正宣御會 永正七二廿五）　[illegible]　道應

円（天文八七廿五）　[illegible]　六條

閑恋　沙玉集　[illegible]　後常亮

難恋

難休恋

遂難恋

（くれゆ らく 難雑解恋を わこたれ ころの恋）　家集　[illegible]　後恵

ふけく　家集　[illegible]　待賢院堀川

人を恨む　何そはこてもあはれな深き窓にこもりわたらん人そかなしき　橋慶

不及恋　さなきも風にふらてみちもわかぬみちきりかはれは死ぬ夕暮　逍遥院

貧恋　おもはるゝ所にもまことゝもゝ人はつまなくえこそかゝれ　為富

被卜恋

互遠恋

欲隠恋

引放逸恋

恋難謀　林葉集　あさましやけふの命にかへつるもよその涙をおもひしやはてに　俊恵

忘他處恋　林葉集　郭公鳴つき積も忘れぬ物をふけゆく秋とぞ思ふ　円

被諫他恋

恋為業　林葉集　恋故におもふの涙ゆきての川ちかくなりてもおもひそふ　俊恵

不憚人恋　家集　君ゆへはこそはみさへてもかくれにもさのみさけ契ると云そ　惟方

至死不離　いけの間契りかはして昔なしつゝ人まつ中にたちてあはれ　逍遥院

（夫木三十二　萬葉家集）　雲となる山も雨はてもおもはぬ世にかへつてこそかひなかりけれ　季経

馬上恋　家集　思ひつゝ妹がりゆきて出わかれぬともあかぬ人もなし　惟宗廣言

恋雑物　家集　まちわびてすゞろに袖もぬれにけりこゝろにかゝる人の袖　俊光

御集　いかにせん思ふ中はちりつもはかなき身のうきを　逍遥院

新葉　さきたちてふかきおもひに君こそしらね人のこゝろを　よみ人しらず

恋鏡　家集　つれなき人に思ひそめてうつりゆく人のかはりかねしこゝろは　兼尚

ふかきこそ被見ゆるは胡毋にむかふ鏡ともなきみの面影　為廣

（六家抄　宝徳四五首）　今もまた鏡にうつるかけしかはらぬ身のおもかけの中にやまさる　恭仲

（六家抄　文明詠哥）　うきなたに新にふみそめし人の心もかはりぬる神のたゞすの　多良

恋髪

恋木綿　（六家抄　文明二十）　ともしびのおきてあかしつ物おもふ国をへて結ひかはよい　兼政

（六家抄　宝徳四五首）　ひとりねの涙にきゆるむしろ夜の中にもうきにもあはれたゞ木　為廣

恋枕　（六家抄　宝徳四五首）　枕につげてなくねよしともあはぬよらはにきゆる　顕長

（六家抄　文明三十一）　結みえぬ人めはかなくにうつゝとも枕はしらぬ神のちかひを　橋慶院

亜槐集　（亜槐先達　同点取）
さる人のおもひはおもひはかなかりき[illegible]枕さへよそにけふや[illegible]　邦高

抱枕　五言語
いつくにもむかしの世をはしらすして[illegible]枕いつくにかはりし所　逍遥院

寄莚　（永正二十一　[illegible]家）（公宴続哥　寛正四年廿五）
くるゝ夜は西行のこと枕草いふ人か[illegible]きえぬるそや　宣親

身はかくて[illegible]ひとつふねのむしろ[illegible]床のしけさは　長清

寄契　（同　文明十三年二十八）
今いくつなるらんとかねてむすひし[illegible]西行もかし　尭恵

寄裳　（公宴続哥　文明十三年二十八）
[illegible]神の[illegible]もすそのこゝろにかけし[illegible]　為広

寄衣　（同　寛正四年廿五）
おもひわかるゝ涙の[illegible]衣神[illegible]　永[illegible]

（公宴続哥　文明十四年二十八）
[illegible]　道興

寄紐　（雪玉集）
[illegible]たのむちきりあさからぬ[illegible]とけぬそ[illegible]　政為

寄帯　（同）
[illegible]

寄繪　（公宴続哥　文明十三年二十八）
人は今[illegible]のこす繪に西行さへ見えて[illegible]　[illegible]

寄硯

寄筆

寄笛

寄琴

寄弓

寄扇　（公宴続哥　寛正四年廿五）
秋来ぬとまたてにならす扇にもこゝろ神のあふき[illegible]秋風　後花園院

ゆふくれて[illegible]ゆくみち涼しさにあふきわするゝ所なり　逍遥院

寄木綿　（公宴続哥　文明十三年二十八）
[illegible]神もこゝろにかけて[illegible]ゆふかけし　後土御門院

寄車　（園塵）
[illegible]月にもおもひ車[illegible]　雅俊

車中寄人　（亜槐集）
[illegible]車の[illegible]　實家

寄舟　（柏玉集）
[illegible]こゝろ[illegible]川舟　後柏原院

（園草）
おもひ[illegible]

（公宴続哥　寛正四年廿五）
つまてあまの[illegible]舟[illegible]　橋次量

（公宴続哥　文明十三年二十八）
湖[illegible]舟出して[illegible]　数秀

舩中寄

舟妻恋

恋泛　（[illegible]）　舟にのりてはわたりのうけなくも[illegible]あらはれぬ[illegible]　信量

恋網　同　[illegible]にふかくして[illegible]はてつらし　部高

同　[illegible]集　身をすてのうきなにたえぬ[illegible]つらき契あさく　同

恋燈　[illegible]て文かくことつゝしともあてなきみのことゝもしる[illegible]　[illegible]

[illegible]ゆりのひのあけすくすゑのなかにり[illegible]　同

（[illegible]）　物思へはけさのあさの消えてもさてつくしきものをとらへ　持季

（[illegible]）　いくつかのはれて明けぬるにもしのひかねつる[illegible]　[illegible]

恋鐘　同　[illegible]の松のあらしのきこゆるに[illegible]　禅空

恋塵　[illegible]集　[illegible]にならしのちりの[illegible]つもれん　宗祇

恋絡　（[illegible]）　うきことをはつれなき[illegible]身のはかなさ　別当

同　[illegible]て[illegible]をすてつゝ[illegible]世に[illegible]てつなき　兼覚

恋長短　同　[illegible]つらき[illegible]人のみかりにさそはれわかり　為尹

留信文恋

雑恋　拾遺愚草　[illegible]

同　[illegible]

同　[illegible]

同　[illegible]

同　[illegible]

同　[illegible]

玉葉集　[illegible]

同　[illegible]

同　[illegible]

同　[illegible]

同　[illegible]

名所恋　新勅撰　高砂のをのへにたてる松の葉はつれなき人の心なりけり　[illegible]

同　わたつうみにあ夜よはさねてくらくたちをとこのなきん　慈鎮

同　むかしみし人はゝそのわすれ水かはらぬかけに神のしるしか　同

同　くもまつ松はたかしのみえすなりぬよ　前中納言定家

同　岸の上に波ふきこしてあまくたるほとはありけむゆくゑしらなくあまつ　從二位家隆

同　あまくたる神のちかひはいまもなほかはらぬかけをみるそかなしき　慈鎮

同　うしとてもなほこそたのめ神のみまへのあとをすてゝなをきみ　同

同　わか神はむかしのきはいまもなほうつりてもみゆ住吉の風　前中納言定家

同　よるへなき身は住吉の浪のうへにたちゐやすらふ神のまにまに　同

同　白木綿のかけたる松の神さひてひさしくなりぬ神の御まへに　同

同　あはれとやふるくにの住吉のうら浪もちかくよるへにしらせよ　同

同　わすれくさおふるはつらき住吉のゆふくれかたの空にみえつゝ　同

続古今　いはふこゑ神の御まへにかはらねはあらはれて住吉のかけ　光明峯寺入道前摂政左大臣

同　くもるへき心をすてしみちなれはかはらぬちかひあらはれにけり　慈鎮

同　住吉のちきりはいかにたのみてもはかなきこゝろいつわりそなき　光明峯寺入道前摂政左大臣

同　住吉はそのうらみちかきあまのいそふしの月もなかくそみゆる　右近中将経家

同　まつにふく風のこゑまてもあはれなるかたみとなれやまつのしらなみ　前中納言定家

同　あはれとや神のちかひもなほふかくかはらぬかけをたのみてそゆく　同

続拾遺　ちはやふる神の御まへの松かえにかゝれる藤の色もかはらす　從二位家隆

新後撰　きりはれて住吉の秋の水にうつる月のかけさへ神のみかけは　光明峯寺入道前摂政左大臣

同　秋風にあはれなるかなあまつそらくもらぬ月をいまもみるかな　前中納言定家

続千載　住吉の松のあらしのふきしきはいまもかはらぬ神の松かえ　前中納言為方

続後拾遺　あはれとも思ひしるらむ住吉の松のみとりの色もかはらす　従三位為家

同　わつらはしきみのかくれをいつまてか住吉の浦になかめつゝぬる　源有長朝臣

新拾遺　うつりゆくかけをみるにもさすかなほむかしにかはる神のちかひを　從二位家隆

同　たのみこしのちのよまてもあはれなるこゝろはかはらぬ神のすみよし　前中納言定家

同　よつのうみなみしつかなるみよなれはゆたかにすめる神のまつかせ　前中納言資平

同　いにしへの神のちかひもまもりつゝちとせのすゑのよるのまつかせ　前中納言定家

新続古今　いはひけるこころもなほそうれしきのふかきちかひはかはらさりけり　從二位家隆

瓊玉集　くへもを忘れはてぬるの山高み住まぬをかみえぬ人をたえさえ　宗尊親王

石間集　契りこしふみしてわすられは涙のみあらみ程になくさるもの不　藤原教嗣卿女

同　宗とみそいく世ふるらん信は松いつまての色に忘れつゝ　中原[illegible]

草庵集　今又み波こゆるとも かへてねやうきいつあらは末の松山

続草庵集　伊勢の海ふかくこそ思へ浦に浪たちいりえて神代

雑恋　風雅集　わすれしと思ひしかたのつゆけきなき人を忘れて思ひしと　建礼院右京大夫

恋釈教　（二百首和哥文明十三年）　契りの影わすらるゝ庭をうらみそ秋は家稲も後の世のおりき　栄雅

恋神祇　同　うけいれ契りもうしらも節もかくなき信神の身にたく　後[illegible]院

祝の恋　風雅集　りゆとにたゆ世へのは秘はえへしきかたそ人を結ぶなる　侍従大僧都成道

六十四